第十二巻第十二號

獨逸強國號

獨逸は何故に強きか

是れ堂々五十頁の一大雄編

歐州大陸兵火に包まれて將に一年、獨逸は依然として強し、東は露に對して半決定的打擊を與へ、西亦佛を侵し、海を越ゑて倫敦を恐怖の都と爲す、獨逸は何故に斯くの如く強きを得るや是れ日本人の大に考察すべき大問題に非ずや乞ふ各方面の學者名士の專門的研究を本誌に見よ

敢て日本全國民の熟讀を熱望す

■定價金十一錢■

八年十一月廿九日第三種郵便物認可 大正四年六月十五日發行
一日、十五日、發行 大正四年六月十二日印刷納本

神田錦町西川錦石堂石印

このウラに目次二ページあり

實業之世界 第十二卷第十二號 大正四年六月十五日發行

見よ各方面專門家十四名士の獨逸強國觀

■二十世紀の論語■

文學博士 三宅雪嶺先生著

縮刷 第四十一版

世の中

■定價金一圓廿錢 ■郵送料金八錢 ■特製箱入六百九十頁

雪嶺三宅博士の現代第一の人格と、博識と、而して又昨年本社の出版した先生の名著『世の中』が、現代の論語、二十世紀の聖書として識者の口を揃へて薦譽した事とは夙に諸君の知らるゝ所であらう。實に、先生が吃々として語る時、その一言一句は奕々の電光を發する。門地も權勢も富貴も先生の前には空零である。而も先生の後輩に望むや、溫乎として、親切丁寧を盡し以て處世の訓へを垂れられる。本書の收むる所の八十八篇、悉く是れ、金玉の文字、座右に置いて以て朝夕に誦するの經典とすべきである。

東京麴町區有樂町 **實業之世界社** 振替口座三四三三

『無益之手數を省く秘訣』著者

池田藤四郎著

最新刊

能力充實三百萬圓改革物語

本書を讀めば毎日不知不識の中に捨てゝ居る無駄手數が金や直ぐつくに目につく。

近頃世間に喧しく傳へられる能率增進の發見者ハーリントン・エマソン氏が米國サンタフイ鐵道會社の內外部に大改革を行ひ日に百萬弗の冗費を省いたと云ふ、大改革事件があつた。當時此事件の始末を聞ひた米國の社會は、意外の處に無駄の有るに驚いたと云ふ事である。

本書の著者は嘗て『無益の手數を省く秘訣』を公にし能率增進の機運を我國社會に促した人である。今其改革事件に際してエマソン氏が、如何なる方法で、如何なる呼吸で、日に百萬弗の巨額を省いたかを詳密に紹介された。鑛山、工場、銀行會社等は勿論、一般家庭にあつても、此のエマソン氏の無駄の省き方に倣へば、勞力の上にも經濟の上にも大改革を施す事が出來忽ちに有福となれる。

■定價金十錢■

■送料金二錢■

東京麴町區有樂町 **實業之世界社** 振替口座三四三三

（此廣告を見て御申込の方は『實業之世界』廣告に據る旨御申添を乞ふ）

世界を睥睨しつゝあるカイゼル

『實業之世界』第十二巻第十二號口繪

（此廣告を見て御申込の方は『實業之世界』廣告に據る旨御申添を乞ふ）

▲安價なる長壽法

愚…藪醫者に支拂ふ高價な藥禮
賢…軍醫總監の調劑法が廿五錢

病氣と言へば賣藥を唯一の賴みとせる舊思想も人文發達に從つて能書程にきかぬ萬能主義の賣藥は漸く危險視せられ完全なる治療を欲するは現今一般の傾向なり本年議會に於ても醫藥法の改正案提出せられ專門治療の安全なるを知るに及び何人も知らんと欲するは應急の治療藥劑の量法なり茲に東京救劑院本部より新刊になる故正二位勳一等男爵陸軍々醫總監松本先生遺稿「民間處方」通俗治療法によれば肺病胃病梅毒淋病子宮病きり傷やけど打み等四百四病悉く僅少の藥價を以て卽時卽効ある藥劑の分量を疾病に應じ最寄の藥店より求め完全なる治療をなし得る樣一々叮嚀に記述しあれば山間僻地にありて醫師に不便なる人は勿論一般社會の家庭に常備せば不絕醫師を雇ひ置くも同樣救命法として最も完全に且便利なる著作物なり公認定價一册金一圓なれ共博愛救命を目的とする販賣元東京下谷入谷町都堂書店にては公益のため初版一萬部限り印刷送料の實費として郵券廿五錢封入申込みの諸氏に分配發送する由

●萬年筆の大革命!!

人はや丶もすれば代價の高きものは直ちに善しとなすの風あり。笑ふべきかな。試みに本MY萬年筆を用ゐて彼の數倍の高價なる萬年筆と比較せよ。其の品質に於て、其體裁に於て其使ひ心地に於て、寧ろ勝るとも劣る事は絕對になかるべし卽ち本萬年筆は從來無謀なる高價を貪りつ丶ありし者に一大鐵鎚を與ふるの使命を有す

本品は軸は最優良エボナイト製にて最新のインキ止裝置を施しクリップスポイト付箱入

定價 壹本金五十錢

郵券代用は凡て一割增の事
內他送料貳錢支那臺樺三拾錢
其他萬年筆種々ペン先修繕に應ず

發賣元 東京淀橋町角筈七三六 吉田屋

輕便印刷器

都新聞曰く（本器は輕便で廉價なる印刷器にて一見石版刷りの如く簡單に出來る最新式の素人用輕便印刷器なり）

本所特製輕便印刷器は現代印刷界及謄寫版界に完絕したる最新式の印刷器なれば商店のチラシ引札諸種の廣告紙カタログ地方通信販賣の報知書青年會の會報學校會社役場の報告書等卽時印刷の出來る要器也

ハガキ判附屬品付（美函入）壹圓五拾錢
半紙半面判附屬品付（美函入）貳圓貳拾錢
半紙全面判附屬品付（美函入）參圓

▲送料十二錢十八錢卅錢（代金引替は貳拾錢增）
（▲照會は必ず返信料を要す）

發賣元 東京下澁谷五七〇 大正式製作所

（此廣告を見て御申込の方は『實業之世界』廣告に據る旨御申添を乞ふ）

美味滋養 體素（タイソ）

補血强身劑

衰弱者に對する新健康劑として醫師の勸めにより患者の病床に賞用せらる丶

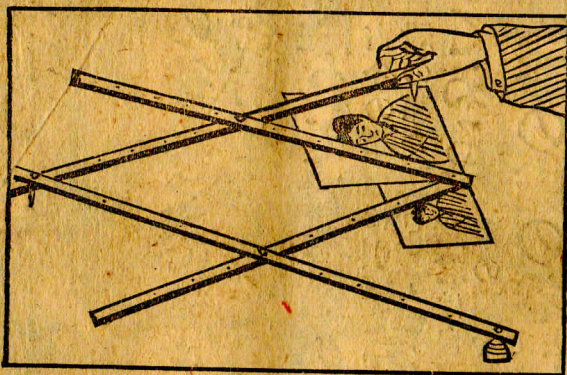
體素には二種あり
液狀體素 牛の生肉を壓搾して精製せる甘味肉汁なり
錠劑體素 牛の生血より成る純ヘモグロビンを主成分とせる美味强壯料

△神經衰弱の方
△肺病患者
△貧血諸症
試みよ

（價格低廉何人も連用し得）

御申込次第說明書呈上

發賣元 東京牛込佐內町三十八 大正製藥所 電話番町四四八二

見よ!!!世界的最新大發明圖畫自習器を

廣告の爲特價大販賣

▲本器は最も進步したる文明的**最大發明品**にして、その使用法極めて簡單容易なるを以て、全く圖畫に經驗なき諸君と雖も、一度本器を使用する時は、寫眞、油繪、水彩畫、筆畫等は勿論如何なる細密美麗なる名畫と雖も、大小自由自在に伸縮することを得る頗る輕便なる妙器なり。爲めに目下東京に於ては青年數君の**大好評**を博し、代價の最も低廉なると器械の極めて堅牢確實なるとを以て、その賣れ行きの好きこと**飛ぶが如く天下無類**の最大有益なる敎育的娛樂的器械としてますます大好評を博しつ丶あり。圖畫を上手になりたき諸君は速に本器を求めよ、人の驚く如く美麗なる名畫を書きたき諸君は速に本器を買ひ玉へ

◀特價表▶

品名	價格
特別製大形	金壹圓
特別製小形	金七拾錢
普通製大形	金卅五錢
普通製小形	金廿五錢

（送料は各四錢宛）

⊙御注文次第くわしき說明書等相添へ直に送荷す代金切手代用は必ず一割增の事

發賣元
東京下谷區池ノ端七軒町一番地
各種器械販賣商
安瀨福陽堂

カイゼル周圍の人々

（本文第四十八頁參照）

グウインネル　フホンポホレン　ボホレン夫人　バルリン　エールリツヒ

チルピツツ　ヂアコブ　ポサドウスキイ　フホンゴルツ　リーペルマン

ホルウエヒ　デルンブルヒ　ヘーデブランド　デルブルツヒ　ハウプトマン

ビユーロ　ビーペル　リヒノウスキイ　シエルル　ストラウス

ワエヒテル　ツエツペリン　フユルステンベルヒ　ザイツセン　ハルデン

コエステル　ビーベルスタイン　ベルンストロツフ　ラジノー　レインハルト

嗚呼昨非今是

臨時議會も濟んだ。三週の間に三度の彈劾案も皆破れ無事に濟んだ。增師も責任支出も、米價調節、蠶絲業救濟の失態も、而して對支外交も内相收賄問題も、一切合切政府黨の思ふがまゝに通過して了つた。百三十に對する二百三十票、何を議し何を決するにも一定不動とは全く感心した。多數黨の意見が遂行されるから多數黨が横暴だとは暴論だが、政府黨が毎も多數で、多數黨員になれば忽ちに公正な判斷力を失ひ悉く去勢されて了ふのも妙である。この妙諦を稱して黨員の訓練と云ふ。政友會もこの訓練をした、全大隈黨もこの訓練をする。自由も議院政治も高遠な理想も其の訓練の前には均しく無意義となるにも不拘、獨り大隈黨の人氣あるは是即ち憲政進步の兆乎。あゝ昨非今是。

輿論〳〵、輿論は煽動に依つて作られ、法螺に依つて保たれ、變節に依つて擴張される。斯くして俗衆政治、野次政治は大隈伯を開祖として百二十五才どころか未來永劫に亘つて範を垂れ、後世煽動政治家人氣取政治家の喝仰を擅にする事であらう。一人の罪千載を過る、成程伯も亦豪い哉。

大隈伯、尾崎法相、武富遞相、河野農相等曾て軍備擴張を非なりとし今之を是とす。一木文相、武富遞相等は明に責任支出を違憲なりと唱へて今之を是とし、大浦内相は嚴正を標榜して選擧に大干涉を行ひ、また對支交涉、米價調節、蠶絲業救濟、十目の觀る所無識無策の限を盡して而も失敗に非ず成效なりと嘯く。進步は變化を伴ふであらう。變説を以て進步なりと爲すに至つては奇怪である。變節を以て向上なりと恬然たる更に危險至極である。而して現閣員の總てがこの無耻を冐して平氣の平左で居る。一時眩惑された俗衆の蒙は姑く忍ぶべきも、永く青年子弟を過る惡影響を奈何にせん。あゝ議會の敎へた此の昨非今是。

独逸は何故に強きか

獨帝の成長

一歳　八歳　十歳　十四歳

歐洲の大陸兵火に包まれてより將に一年、最初獨逸の運命は半ケ年とトせられ、氣早の日本人中には三ケ月にして世界の形勢一變せんと說けるもありしが、獨逸は依然として強く、世界の未來は依然として黑暗なり。彼は四方に敵を受けて、而も多く侵さるゝ所無く、却て四方に突出して縱橫に蹂躪し、東は半決定的の打擊を露に與へ、西佛蘭西を侵し、ツエツペリンは海を超えて倫敦を恐怖の都と爲す。伊太利起てりと雖も徒らに戰局を複雜ならしむるに止まらんとす。獨逸の強は今や世界に認められたり、獨逸は何故に斯くの如く強きを得たるや。之を各方面より研究考察して我が國人の參考省慮に供せんとするものこれ。

獨帝の成長

二十歳　二十二歳　三十九歳　四十三歳　四十五歳　四十九歳（七年前）

一、獨逸國運論

慶應義塾大學敎授　阿部秀助

（一）

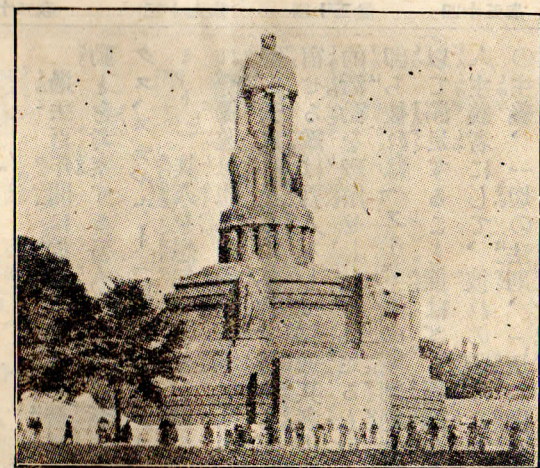
過去百年間に於ける獨逸の發展と活動とを考察する吾人は、漫に哲人「マックス、スチルナー」（實名「カスパー、シェミット」）其人を想起せざるを得ず。彼れや獨逸思想界の毒草と稱せられ、鬼薊と云はれたるに不拘、然かも其中に宿せる露は吾人をして獨逸其者の根本的活動を理解せしむるに足るものあり即ち彼れは「フィテ」の所謂絕對我を以て滿足すること能はざる極端なる個人主義者にして、彼れの眼中には一切の主義、一切の法則、一切の權威なく只だ存するものは物心兩界を支配せんとする自己あるのみ、換言すれば彼れは徹頭徹尾自我に生きんとするものなり。斯くて彼れは希臘「デルフ」殿堂の名訓たる「汝自身を知れ」に代ゆるに「汝自身の利を計れ」の言を以てせり。

而して彼れの透徹せる論理は更に進んで哲人「ニーチェ」に見るが如く、權力意志の發現となれり、即ち（一）我力は我れの有する處なり、（二）我力は我れに所有す可きものを與ふ、（三）我力は我自身なり、故に自己の所有は自己により生ずと。嗚呼、自己と所有――之れ實に過去百年間に於ける獨逸民族發展の根本的原動力にして、其放逸なる活動が時として傳來の歐洲思想と矛盾し衝突せし結果、歐米の識者中には獨逸文明其者を以て人道の敵と見做すもの少からざるに至れり。遮莫、吾人は單に罪惡を罪惡として取扱ふを以て滿足すること能はず、余は一個の文明批評家として、明治の史才故大久保湖洲の「如何なる惡人も惡人の身となりて察すれば、其の惡人となりしに於て、必ず種々なる事情と一種の道理とを存すべし、人を見るもの先づ此の間

の情理を知悉するを要す。而る後是非の評を下して誤らざるを得」の言に服するものなり。

(二)

人は白耳義の現狀に同情す。されど「國破れて山河あり」の慘狀は單に現時の白耳義のみにあらずして、獨逸が過去に於て屢々遭遇せし處なり。殊に奈翁戰爭が如何に悲慘なる印象を當時の獨逸の家庭に與へしかは文豪「フライタハ」の自叙傳を讀みし士の誰人も承認する處なる可し。想ふに、現時、世界の諸國民中、「余輩は全力を擧げて强國たらざる可からず」との意識の熾んなるもの、蓋、今の白耳義人より甚しきはなかる可し、何んとなれば、若、彼等にして强大なる武力と財力とを有せんか、敵人に其地を委することなく、眞に獨立の權威を全ふせしやも知る可からず。故に英國の如き天然の保壘を以て圍まるゝものは、いざ知らず、苟くも列强の間に介在せる國民にして、自から好んで亡國の民たるに甘んせざるものにありては、勢ひ權力意志なるものは、國家の獨立自衛上、必要なる精神的武器たり。而して吾人は獨逸の權力意志を以て英の史家が論せるが如く「トライチケ」、「ニーチエ」の徒の鼓吹によりて發生せしものと見ずして、寧ろ同國の過去に於ける悲慘なる國家的運命が此意識を熾んならしむるに至りしと信ずるものなり。而して斯くの如き精神的素質を獨逸民族に與へたることに就きては、過去に於ける歐洲の列强亦た多少の責任を免れざる可し。

ビスマルク公紀念像

(三)

百年前に於ける獨逸は「ヴォルテール」の所謂雲上を支配せる國家たるに過ぎず。換言すれば地上見る可き國家を有せざる詩人、哲家者の國たりしものなりとす。而して此「ゲーテ」的國家の特徵は貧、無氣力、奴隸的にして、彼等の田園は列强が野心の刃を交ゆる戰場となり、爲めに彼等が父祖より繼承せし貴重なる財產にして奪掠の不幸に遭ひしこと一再ならず、斯くて彼等不幸なる國民は其の空虛なる室內に「ベートーヴェン」の樂を奏し或は「ウェルテル」又は「ヤン、パウル」を讀んで理想の夢を繰り返せしに過ぎず。然かも奈翁の砲聲は彼等をして此夢すら貪ることを能はざらしむるに至りて、彼等は茲に自國領土擁護の必要を感ずるに至れり。卽ち千八百十三年の獨立戰爭は獨逸に向て國民的國家を齎らせしものにあらずして、寧ろ國民的國家の根本的豫件たる自國領土解放運動を意味せしものなりとす。爾來、千八百七十年に至る迄、彼等の主として務めし處

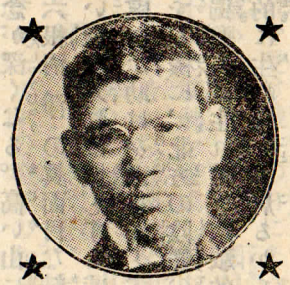
は、自國領土の保存と統一とにして、彼の普墺戰爭なるものは、之れが內圓的活動を現せしものにして、普佛戰爭は之れが外圓的活動を示せるものなりとす。然かも其後、獨逸國內に於ける人口の急激なる增加と、同國海外移住者の個人主義的活動は同國に向て比公が其初期に實行したるが如き自由主義的殖民政策の不可能なるを示すと共に茲に自國植民地獲得の必要を感せしむるに至れり、加ふるに同國工業の非常なる發達は、同國をして國家統一的政策に代ゆるに所謂世界政策なるものを以てせしむるに至れり。而して此世界政策實行の途次に於て彼れが得たる敵は實に英國なりとす。要するに、今回の大戰役は、獨逸の批評家として比較的犀利の批評眼を有する「カール、ペーター」自から云へるが如く、獨逸が英國に對して同等の權利を求めんとする努力に外ならざるものなりとす。今、過去百年間に於ける獨逸の發展を其特徵によつて區別すれば左の如し。

時代區分	代表的人物	代表的都市	特徵
第一期(今を去る百年前より約千八百六十年頃迄)	ゲーテ	ワイマル	文學美術的 政治上の基礎薄弱
第二期(千八百六十年頃より千八百八十八年頃迄)	ビスマーク伯	伯林	國家統一的活動 農業的
第三期(千八百八十八年頃より現今迄)	ウキルヘルム二世	港堡キール	世界的活動 商工業的

(六月六日稿)

二、民族的に見たる獨逸人の偉大

慶應義塾大學教授 向軍治

一、北方の民族たる事

個人でも偉大なる人格には先天的要素と後天的影響とがある如く國家にも先天的遺傳性と後天的の刺戟とがあつて、此二つの者が合集つて始めて偉大なる國民を成すのである。獨逸人に今日ある事は二千年以前の歷史が證明して居る。歷史以前にあつては獨逸民族は北方より起つたものである事のみ明かとなつて居る。肉體的の側から言へば雪と氷とに錬られた人種で、精神上から言へば陰鬱なる空氣の中に發展して、南方人種の快濶なる天地に育つたのとは自から異り陰氣の性質を帶た人種である。快濶なる天地に育つたものは兎角氣が外に奪はれて內に省る事がない。陰鬱の中に發達した獨逸人は生れながらにして哲學的の頭を備へて居る。陰鬱なる天地に常に自から省みる習慣を養成したるものは、小なる我れの無能力なる事を悟つて、大なる我れに對する敬虔の

念が深くなる。高い山に登ると自から六根清淨の眞面目な精神となり、深い森に入れば慄とする感に打たれて何處にか助けを求めんとする心持ちが生ずる樣に、北方の陰鬱の天地に育つた獨逸人は生れ付き宗教的である。宗教的に生れ付いて居るから意志が堅固で思ひ立つた事は之れを貫くまでは止めぬと云ふ氣慨がある。雷雨風雪の如き天然力と戰ふのみならず常に狩獵に從事し、戰爭を仕事にして居つた慓悍の民族は、其堅固なる意志を貫くに堪へ得る丈けの健全なる身體を持つて居る二千年の昔に歷史に現れた時、既に義理を重んじ忠君の思想に富んで居り婦人を大事にした民族である。我が國の武士道に於て國民の精華と認めて居る特性は、二千年前の獨逸人が最も大切な道と心得て勵み努めて居つた所である。斯くの如き要素を有する國民は縱令軟弱なる文明の空氣に觸れても決して其要素は破壞せられぬもので、軟文明をも硬文明に化する力を持つて居る。

我が國民の祖先は果して南から起つ

ハンブルク港埠頭

たものか、北から起つたものか歷史の研究が不完全のため明らかでない。頑固思想の跋扈のために此大切なる研究が等閑に附せられて居る事は情ない事である。兎に角南北兩民族の混合人種である事は疑を容れぬ。然るに古來慓悍なる日本人として知られて居るのは素盞嗚命と緣のある朝鮮人種及東北の野に育つた人種である。頑固な片意地な日本人と云へば歷史上東北及九州から之を代表して居る事になつて居る。從つて我が國の中堅となつて居る人種は獨逸人と同じく北方人種であるかも知れぬ。然し悧潑な性質は南方人種に胚胎して居る樣に思はれる。歷史以後の民族發展の上から見れば、我が民族は獨逸民族に似た所が餘程多い。思索的頭腦のある所は北方の系統らしく宗敎上樂天的なる點は南方の系統らしい。慓悍にして武を好む點は獨逸民族によく似て居つて、印度及支那の文化の影響を受けても硬文明を發達し得た點は獨逸民族に類似して居る。卽ち獨逸民族が羅馬の文明を消化し得たのと寸分違はぬ。義に勇む精神の強い事、復讐心の根堅い事に於ても我民族は獨逸民族によく似て居る。金錢に關しては日本人は餘に洒落にして、獨逸人の執着力の強いのとは同日に語られぬ。現今の如き腐敗した敎育さへ施さねば、我が民族も一通り獨逸民族の眞似が出來そうである。獨逸民族に一日の

長あるは外ではない。彼等が統一的の民族的國家を作つて居る點にあるのである。南方の樂天主義、淺薄なる思想の影響を受けた日本人はチョト企て及ぶ事の出來ぬ點があるのである。

二、七轉び八起きの民族

今回の戰爭を見ても明らかなる如く獨逸民族は國民として立つ上に於て非常に都合の惡い地位を占めて居る。四方敵國の間に挾つて南の暖かい海には緣が遠い。此不幸なる地位を占めて居る事が歷史上しば〳〵獨逸國民に禍を及ぼして幾度か民族の根據を覆えされんとする憂目に遭遇たのである。然し此地理上の不利益は民族發展の上には却つて刺戟劑となつた效能がある。平和の日にあつては常に南方の文明の刺戟を受け戰ひの日にあつては四方から虐められた。從つて國民は自然と獨立不羈の精神を養成し得たのである。二千年の昔から外國の文明を吸收し消化して自國の文明を作り出す經驗を持つて居る。三十年戰爭、七年戰爭、及びナポレオンの戰亂の如きは所謂雨降つて地固まるの結果を生じたるに過ぎぬ本來思索的頭腦を持つた民族であるから羅馬、英吉利、佛蘭西等の文明の感化を受くるや否や直ちに之れを消化して、啻に自國の文明を作り上ぐるのみではない、必ず毎度其文明を以て歐洲を風靡して居る。敵國に蹂躪せらる、と云ふ事は、確固たる根據ある國民に取つては却つて刺戟劑となるのである。

此點に於て我が國は獨逸とは大に異なる。我が國は東洋の一孤島で久しく世界に知られず、從つて外から迫害せらる、事なく、獨逸人の如く七轉び八起きと云ふ氣槪のないのも無理はあるまいか。獨逸人も昔から自國民の偉大なる事を信仰して居る。然し事實に於て幾度か敵國から蹂躪されたのであるから、同じ自國を信ずるにしても日本人の樣に自惚れて居らぬ。時に弱い事はあつても未來には必ず強くなれる國民であると云ふ希望を持つて居る。我國の如く外國人の侵す能はざる強い國であると云ふ自惚れを抱いて居るのと終局の勝利は我れに在りと云ふ考で常に勵んで希望に向つて進むのとは、チヨト似て居る樣であるが根本に於て全く異なれる性質のものである『自惚れは滅亡の兆なり』と云ふ諺があるが、獨逸人の希望は自惚れではなくて、未來にかける希望である。而して其希望の第一歩を一八七〇年に踏みしめ、今日其第二歩を踏みしめんとして居るのである。我國民は大に鑑みるべきではあるまいか。

三、勤勉なる民族

獨逸の地質は決して本來豐饒ではなかつた。荒れたる土地を人力に依つて豐饒の土地に作り變へたのである。一面には外國から虐められ、又一面には外國の文明を容易に消化する民族故、反抗心と勤勉の精神と相俟つて今日の商工業の發達の基礎を先づ廣い意味の農業に於て養成したのである。本來思索的頭腦を有する民族であるから、世界の文明を吸收して自己の文明を作り出す所、哲學に於ても文學に於ても政治經濟に於いても、自然科學に於ても商工業に於ても亦戰爭に於ても世界諸

國中一頭地を拔いて居るのである。而して其大なる原因の一つは言語にある。獨逸語は近世歐羅巴語の中で一番規則正しく、學び易く又用ゐ易い言葉である。之れが民族發展を中心とする敎育政策と相俟つて獨逸人は無學の人に至るまで相應に發達した頭腦を持つて居ると云ふ結果を生じて居る。英語や佛語が學術的、文學的の語、貴族的階級的の語であるに比して十六世紀以後發達した獨逸語は全く平民的の言語である。此言語が獨逸民族の頭腦の開發に與つて力ありし事は實に夥しい。獨逸の學者が早くから學問の普及に志した結果、此平民的言語が又高尙な學問文學の言語となり、法律の如き外國の影響最も多いものでさへ今日では出來る限り平民的になつて居る。其結果文明の進步が或る階級に限られずに國民全體に及んで居る。日本と云ふ國は今日でも米國、英國には知らぬ人が澤山あるが、文明國人中獨逸人程日本を能く知つて居る國民はないのである此一事を見ても如何に獨逸國民が眞實の意味に於ける文明國民であるかが判かるのである。此敎育の普及學問の普及が今日の獨逸の商工業の發達の基礎をなして居るのである。ビスマーク時代に於て十分に歐羅巴に於ける自國の地位を安固になし得るや否や、直ちに英國を凌ぎ米國の商工業の發達に對抗せんとする野心を起して未來には必ず世界第一の勢力となると云ふ決心を國民全體が持つて世界に發展せんと試みた結果が今日の強い戰ひの土臺となつて居る獨逸の商工業の起源である。尤も獨逸の工業は最近二三十年に始めて起つたものではない。由來窮乏であつた國民が和蘭の商業に助けられて夙くより工業的に發展しつゝあるのである文明史的に觀察すれば、獨逸程に順調に發達した國は少なからうと思ふ。十九世紀の始めナポレオンに蹂躙せられて以來、今日に至るまで獨逸人は自己の存在を以て國家のための存在と見做して居るのである。一旦緩急あれば義勇公に奉ずると云ふのではなくて、毎朝毎夕義勇公に奉じて居る國民である世界如何なる偏鄙の所に赴いても、高い運賃の掛かる自國製品の外は日常使はぬと云ふ頑固な國民である。英國人が世界の商權を把握して居るのが啻に齒痒ゆいのみでなく、英國人が横暴を極めて獨逸人の發展を妨げると云ふ事が年來獨逸人の頭に深く刻み込まれて居る遺恨の情である。何時かは此不平を洩らしたいと云ふ精神を持つて居た所に、今回の戰爭が實に好機會を與へたのである。斯くの如き精神で固つて居る獨逸人が強いからとて不思議がるのは、不思議がるもの、無學なのである。

此點から見ると、我れには一として獨逸人と肩を比べ得る長所を持たぬ。第一に言語文字が國民發達の大妨害をなして居る。然るに無學なる政治家と無學なる國民とは之れが改良整理の必要を得悟らぬ。學問が無學の人によつて專賣せらるゝ樣になつた結果として其幼稚なる事お話しにならぬ。農工商の實業は世界を相手として企つべきものであるのに、實業家が揃ひも揃つて世界の大勢に通じて居らぬ。國中の資本を一纏めにしても外國の商工業と匹敵する實力のないものが、國內の小なる利益を爭ひ貪る結果として、商工業は共に共倒れと云ふ有樣を到る處に見るのである。獨逸人の海外に出稼ぐのは民族發展と云ふ大規模の下に之れをなすので、日本人の海外出稼ぎは口錢取りを目的とするのである。亡びなければ目の醒めぬ國民であらうと思ふ。

四 日本國の危機

要するに歐洲戰亂の片付き次第、太平洋は獨逸と米國との商工業の一大競爭場裡となる。所謂同盟の第三者となつて、米國及び獨逸を相手として競爭が出來れば兎も角、出來ないとすれば日本は悲しむべし破產の運命に陷る事智者を俟たずして瞭らかなる事である立憲政治の下に奴隷を以て安んじて居る國民、尸位素餐に安閑として居る官吏、政權爭奪に現を拔かして國民を犧牲に餌にし、國家を危くする腐敗漢を以て滿されたる政治界、國家の發展を妨害する時勢後れの敎育者。よくも／＼ヤクザ漢を集めた日本國家である。

三、國家的觀念よりも民族的觀念

陸軍砲兵少佐
陸軍省砲兵課長　溝口直亮

▲國民の一般的思想

獨逸が今度の歐洲戰爭に於て、英佛魯伊四ヶ國協同の大敵を引受けて戰ひ常に優勢の位置を占めつゝ、屈せぬに就ては、その原因を軍隊の精鋭と云ふ事に歸するよりは、寧ろ獨逸國民一般の思想の然らしむる所であると自分は考へる。然し乍ら思想方面全般の事を述べることは甚だ困難であり、且つ、稍ともすると誤解を生じ易い故に、思想方面より深く論ずる事は他日に讓り、茲には獨逸國民一般が有する特長に就て語らうと思ふ。

▲個人の信念

獨逸人の有する特長を大別すれば四種に分つ事が出來る。其第一は個人の信念が他國民と異つて居る事である。獨逸人は凡て、各人が各自の事業に向つて專心猛進すると云ふ主義を持つてゐる。是は他國民よりも獨逸國民が個人主義に傾いて居る結果から、決して他の者の世話などは燒かぬ、自分は專心自己の事に向つて進むと云ふ風習が上下共に流れ泌み渡つてゐる。例へば他人が何かの事業に於て大なる利益を得た時の如き、他國民の間には斯る場合兎角嫉妬的批評を八釜敷くするものであるが、獨乙人は斯る批評的言動に出る事は決して無く、自分も奮勵して利益を得れば同じ事である、他人の得たる利益は他人のものであつて自

分のものでは無い、どし／＼奮闘して自己は自己の本分を盡す可きのみと云ふ如く考へる。故に各自が各自の仕事業務に對して非常に熱心である。此個人の信念は今度の戰爭に於ても兵士間に發揮されてゐる。是が獨乙兵士の頑強な一理由であると思ふ。

▲國家社會主義の發達

第二の特長としては獨乙國内に國家社會主義が充分に發達してゐる結果として、國家が國民の萬事に對して全力を擧げて保護する方針を取つてゐる事である。勿論一面に於ては尚ほ未だ封建時代の餘威が殘存して、階級制度も可成り嚴重で、是に對する反抗も社會の一部には認められるが然しそれは極く熱度の低いものである。

獨逸砲兵の射撃

故に軍人が比較的優遇されるとは云へ國家は凡てに就て一樣の厚遇を與へんと苦心してゐる。農業工業商業の各方面に向つての國家の保護厚遇は他國に見得ざる程度のものである。されば所謂士農工商の人々は皆自己の分に安んじて充分の活動をする事が出來、從つて獨乙の農工商は非常の勢力を示して發達するのである。是は戰爭に於て獨乙が強い間接の至大原因を爲してゐるであらう。又此國家の保護は軍人の上に於て特に顯著で、一面階級制度の嚴重なるに反して秀才はどし／＼引上げて上位置を與へる。故に兵士に就て觀る時は魯國兵士よりは獨乙兵士の方遙かに劣れるも、上長官に於ては獨乙は各國よりも秀才の者を用ゐてゐる。此結果は實戰に於て常に優勢の位置を占め得る利益を獨乙に與へてゐるのである。

▲民族の一致

第三は獨乙民族の一致と云ふ事で、是は今度の戰爭に於て獨乙の強い直接の原因である。即ち今度の戰爭は獨乙と云ふ一國家の運命を決する戰爭でなく、獨乙民族全體の運命を決する戰爭であると考へた結果、獨乙民族の一致は非常に堅固のものとなつたのである。

元來獨乙に於ては國家的觀念よりは民族的觀念の方が遙かに強く、皇帝に對する觀念も從つて他の各國とは異つてゐる。日本に例を取れば、獨乙皇帝は日本昔時の德川家位に見られてゐるので、民族全體に對する感情が恰かも日本の天皇に對するが如きもので、民族保護の此感念は即ち日本に於ける忠誠の心と同樣なのである。故に英佛魯伊四國を相手とする戰線に立つ軍人は皆、獨乙民族保護を唯一念として奮鬪し防戰してゐるのである。國家に對する義務とか天皇に對する忠誠とか云ふ

心持で出陣するのではなく、民族の爲めに、換言すれば自己自身の爲めに戰場へ向つて行くのである。故に強いのである。

▲宗教其他の源因

第四には獨乙人が一般に他國人の如く宗教に捉はれてゐぬ事である。深く宗教に捉はれると兎角戰爭などは嫌惡する傾きを生ずる。是は寺院などにのみ入り込み、自然心が消極的に走る爲めであらう。然るに獨乙人は他外國人に比すれば宗教に捉はる丶傾向至極弱く、多少蠻的の風習を持つてゐる故に戰爭に於ては強いのである。

此他婦人の如きも獨乙婦人は一般に縹緻が美しくない結果として、男子の下風に立つ習慣を生じ、男尊女卑と迄はならずとも、男子の爲す事に就て兎角の批評を下す等の事が無い。是は戰時などに於ては男子に取つて甚だ好都合である。

以上の諸點が綜合されて戰場に於ける獨乙人を強くしてゐるのであると自分は觀察する。

四、獨逸外交政策の徹底する所以

衆議院議員
慶應義塾大學教授　林　毅　陸

▲常に苦しい立場

獨逸國は聯邦から成り立つ特殊の國であつて、政治上色々の特徴を有つて居るけれども、官僚的色彩に於て大體日本と似通ふ。尤も日本は獨逸の政治振を力めて學んだからでもあらう。今獨逸の外交を研究すれば自ら其の政治の上に働く獨逸流の長所も窺はれるのである。今度の大戰亂以前に於ける獨逸の外交は、三國同盟の主力として誠に花々しいものであつた。が此の一種強靱な外交に依つて、國際間に優秀な地位を占めて居た原因に就ては、自ら因つて來るべき當然の理が存して居る。此の點に注目せねばならない。

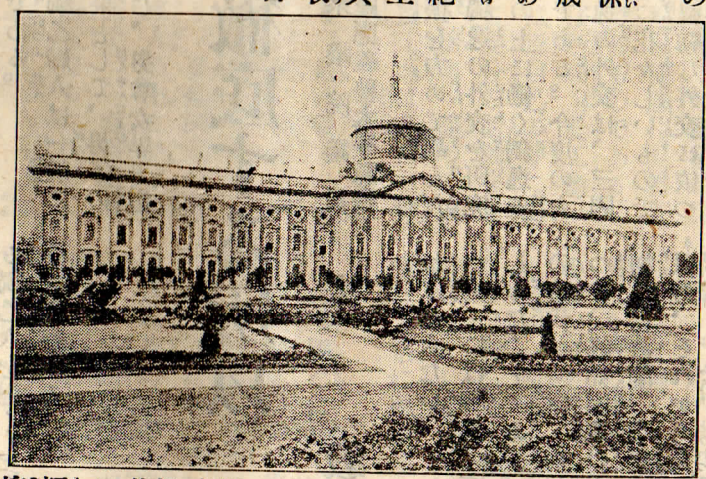
第一には獨逸元來の境遇が之を然らしめたことである。即ち獨逸が普魯西の時代から常に前後に強敵を控へて居つて、終始困難の立場にのみ在つた。初めは波蘭、瑞典の間に苦しい接觸を保ち、それから又後には、露西亞、墺太利、佛蘭西等列強の間に介在して、寸毫の油斷も成らぬ交渉を續けた。更に、墺太利の勢力が較々傾いて來てか

らは、主として露西亞と佛蘭西が其の對手國であつたが、是とて以前の獨逸に取つて容易の敵ではなかつた。最近普佛戰爭の敗軍と共に佛蘭西の勢威は下火と成つて、ホッと一息吐く間もあらず、代つて英吉利と云ふ競爭者が現はれ、再び露英間の苦境に處せねばならなくなつた。

▲自然の訓練

斯くの如く、不斷前後に恐畏すべき強國を控へて、居常縱橫の策を須ゐて以て樽俎の折衝を餘儀なくされた不得已の歷史は、軈て獨逸をして外交の如何に重要なるかを知らしめ、自ら手腕の訓練を爲さしめたのである。

例へば、前にしてはフレデリック大王、後にしてはビスマークなど、獨逸を泰山の重きに置き、驚嘆すべき進歩を促した英傑は、皆左右に在る強大な勢力を巧に甲と乙とに按梅し、其間に自國の利益、安寧、幸福を計つて成功したのである。實際外交上の手腕は、斯の如き境遇に於て初めて養成發揮せられるものである。日本の如き極東の一孤島に在つては、過去に何等國際的關係の痛切なるものがなかつたからして、勢ひ其の道に修鍊を積む機會が尠く、手腕も亦特殊の發達をしなかつた。尤も、周圍の關係上外交の巧妙に成るは前述の通りであるが、何と云つても種々面倒な交渉の絶えない關係にある上は、動ともすれば其の操縱を過つて拾收す可らざる非常の苦境に陷ることがある。獨逸の例に見ると、奈翁戰爭の時に斯の失敗の經驗を嘗めた。奈翁が露帝亞歷山と一時チルヂットに於て妥協し、普魯西を犧牲として和睦を結んだ。そして相協戮して普魯西を悲慘な境涯に突き落したことがある。彼の場合の如き、明に獨逸が甲と結んで乙に當らんとした操縱策の失敗した證據である。

（ポツダム宮殿）

▲平和の戰に優勝

現在の歐洲大戰の大系を云へば英露提携して一獨逸に膺つて居るのであるが、是なども獨逸が一を抑へて他に當ると云ふ巧妙な外交に蹉跌して、殆ど世界の強國と云ふ強國を全部向に廻はして死戰をせねばならぬ孤立に陷つた失敗の顯著な活例である。獨逸は英國の中立を求め得る豫算で、殆ど之を疑はなかつたことが抑もの早計、結局不成功に終つて了つたから堪まらない、獨逸は非常な違算の爲めに、自暴自棄的の惡戰苦鬪を敢てせねばならぬ破目に陷つた。若し此の關係が、當初獨逸皇帝ウヰルヘルム二

世並に宰相ベートマンホルウエヒ等の希望したやうに、英國の中立を確保し得たならば、歐洲大戰の現在は怎麼ものであつたらう、恐くは異常の成功を以て世界を震駭さしたことゝ信ずる。

▲確固強烈な中心力

獨逸の外交に考ふべき第二の特徴は外交の中心力が常に不安不定でないことである。一個の機關に例を取つて云へば、其の動力の存する所が極めて確固で而して強烈なことである。今日の場合で云ふと皇帝ウヰルヘルム二世、その以前ならはビスマーク、之が一切の外交の中心であり、根本の發動所であつて、敢て紛々たる他の何物にも拘束制限せらるゝことが無い。故に其の外交政策は一定不動の方針に基き、組織あり統一あり、時に從ひ機に臨んで狼狽錯謬、爲す所動搖浮蕩に亘るが如きことはない。

而もその中心の一勢力、中心の一意志の指導する處に從つて、獨逸の外交と成つて表はるゝや、一國の全勢力、全血液が眞紅に燃え立つて、獨逸帝國の全精力全機關が非常な勢を以て活動し始めるのであるから、其の爲す所に靈妙の力あり、不思議の統一あり、從つて可驚效果を擧げる。此の點は特に注目すべき所である。此の帝王外交に就ては往々にして弊害を伴ふ嫌もある。今度の大戰に於ける獨逸外交の失敗の如きは、確に餘り多く帝王的外交に偏した結果であると云はねばならぬ。けれども、その指導者たる權力の中心人物が傑物で、その經綸劃策宜しきを失はざる限り、活動敏活にして非常に有利なるは多言を要せぬ處である。

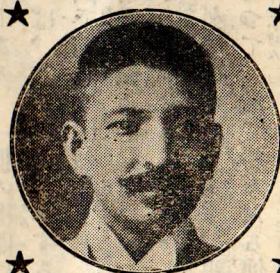
佛蘭西のやうな共和國に於ては、大概外交方針と云ふものに統一を欠き、一度定めた國是も忽ちにして之を改廢拋棄するに至る弱點がある。斯くては到底壯烈痛快な大外交が行はれ難い。我國の如きも、外務省は霞ケ關にあるけれども、實は幾多の外務省が存在すると云つても失當ではない。今度の對支政策に徵しても、外務省の方針と陸軍の方針とは必ずしも一致しない。軍人は外務當局に勝手な註文をして妨害がましいことをやる。支那に於ても勝手なことをして不統一の醜態を現はしてゐる。之を獨逸の徹底的な外交に比すれば雲泥の差がある。獨逸人は一介の商人でも、學者でも、牧師でも何でも、悉く脈絡を取り、組織ある活動に努めて居るのである。

尚是は獨逸の外交にのみ限るものではないが、總てに於て獨逸人は研究調査の周到なるには感嘆の他はない。そして其の調査に基いて豫定の計畫を遂行するに當つては、實に可驚熱心と緻密とを以て運んで行く。この事も獨逸の外交を成功せしめる重大なる素因である。例へば支那の政治經濟一切の研究をするにしても世界中一番研究の行き屆き、又研究の材料の完備して居るのは伯林が第一である。膠洲灣の占領の如きも、其の占領に先つて學者商人の精細な調査を經、然る後に一朝機會の乘ずべき折を待つて居たのであつた。日本が今度支那に新利權を得たと喜んで居るが獨逸の斯の用意周到に學ぶ所があつたか何うか。

* * * *

五、獨逸の商工業が世界を風靡せる主因

大阪朝日新聞經濟部長
財政經濟時報主筆　本多精一

一、獨逸に學ぶべき點

國家の最大目的は國民の生活を安固幸福にするに在る。而して國民生活の安固幸福は、文明にして富國強兵であらねばならぬ。若し如上の文明的富強國を實現するに必須欠く可らざるものであるならば、其の獨逸たると英國たりと支那たると印度たると或は味方たると敵たるとを問ふ暇がない、他山の石悉く取つて以て我が玉を磨くべきである。獨逸は何故強いか、獨逸から何を吾國人が學ぶべきか、此の問題に遭遇しても無論同斷である。

獨逸は強い、確に強い。けれども其の強いと稱せらるゝ言裡には、多少の皮肉が含まれてあることを知らねばならぬ。即ち精悍裡の亂暴と云つたやうな氣配である。少くも吾々は甚しく官僚的色彩の鮮明な獨逸の政治的傾向、目的の爲めに手段を擇ばざるが如き非文明性に近づく事を避け度い。けれども獨逸の強兵と富國たらんとする新興の機運、即ち經濟的發展の跡に就ては大に學ぶ處がなければならぬと思ふ。以下、獨逸の商工業が英國との競爭に打ち勝つて、世界市場に雄飛するに至つた理由を探究して見る。

二、獨逸商工業發達の原因

一體獨逸人は天才的な民族でも發明的な人種でもない。ある英吉利人が曾つて斯う云つた。『獨逸には印刷術を除くの他天才的發明と云ふものを有たない國民だ』と。勿論是は稍々酷評に過ぎるけれども、大體に於て發明的でないと云ふことだけは是認する。併しながら、獨逸人には其の非天才的な弱點を補ふて尚餘りある特長を有して居る。其は即ち研究心の熾烈なことである。獨逸人は自ら發明することが尠い代りに、他國人の發明した閃を敏感し、之を採用し、研究し、工夫按排して實用に供する道に長けてゐる。商品に就ても亦同樣で、英國あたりで作られた品物を見て、之に獨逸流の工夫を加へ、そして廉く且氣の利いたものを多量に作り出すのが例である。

近頃問題と成つて居る染料もさうである。染料は元來英吉利の發明で獨逸の知らなかつたものであるが、今日は

逆轉して獨逸の大産物となり、世界の染料は殆ど獨逸の獨占に歸したやうな有樣である。そして開戰以來獨逸染料の供給を得る能はざるが爲めに、本家本元の英國を初め、米國でも日本でも皆困厄して居る。右は僅に一例に過ぎないが、一事は萬事、獨逸商工業の強大は獨逸人の研究的、組織的頭腦に洗鍊された結果たるは一である。

三、實業家と政府と學者の協力

獨逸商工業の市場に優勝を占める原因は上說の如くであるが、今其の特長の内容を解剖すれば、第一は外國人の發明を消化して、實際に應用する機敏と、平素行屆いたる調査を怠らない事である。第二は極めて安價に製作する事である。而して更に右の機敏と廉價とに成功した所以を攻究して見れば、大體左の三點に歸着するのである。

一、官、民、學の協同が遺憾なく行はるゝ事
二、職工の勤勉が最もエフイシエンシヤルにする事
三、市場の研究を怠らざる事

獨逸に於ては他國では見ることの出來ない、日本人には殆ど想像以上迄に學者と實業家と而して政府との協力が取れて居る。是れが爲めに獨逸の商工業者は幾ら便益を蒙つてゐるか測られない。彼等の經濟的活動が最も經濟的に遂行せられるのは實に是に職因するのである。假に日本に就て見るならば誰しも、政府の措置と學者の研究と、そして實業家の經營とは全然聯絡が保たれて居ないことに驚かされるであらう。商業でも工業でも時としては公共的な施設にさへ協調が行はれないのである。彼の傳染病研究所の紛亂の如き好個の例證で、北里派と云ひ、大學派と稱し、御互に絕縁して、お互に完全な發達を遂げ得ないなどは、邦家の損失蓋し少小ではない。

四、感ずべき職工の勤勉

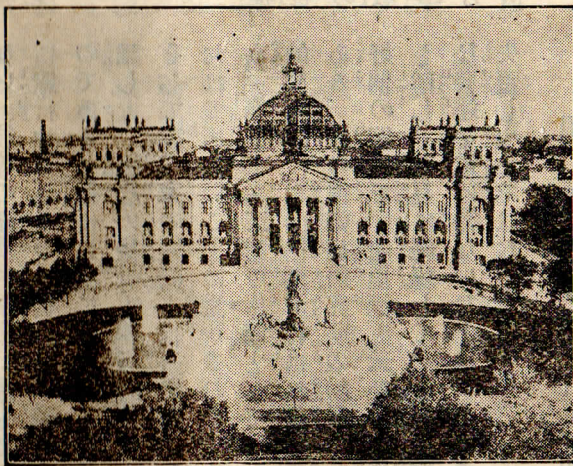
獨逸生産業の優越なる一つの理由は獨逸職工の勤勉なるに負ふ處大である獨逸の職工は世に所謂『獨逸風の訓練』に依つて、他國に於ては到底見るとの不能い程エフイシエンシャルに働く。勤勉で秩序的で且比較的低廉な賃銀で働く。此の結果は生産物の上に直ぐ現はれて來て、獨逸からは、安くて間に合ふ商品が機敏に供給されると云ふ結果になる。

次に、獨逸人が市場の研究に腐心する事であるが、日本人は特に此の一項に注意せんことを希望する。購買者が相當の智識經驗を有つて居るなら、生産者の方で焦燥らずとも、良い品物なることを選擇して之を買ひに來るであらうけれども、商品鑑別の能力充分でない顧客に向つては、生産者が努力して市場を開拓せねばならない。日本の如きは支那とか南洋とか、何れかと云へば文化の低い地域を商業地とする立場にある以上、獨逸風に得意先の研究に意を用ゐることが最も必要である。

獨逸人は商品を輸出する前に、各國市場の狀況、風俗、習慣、趣味、嗜好を調べ、加之其の言葉をさへ熱心に研究する。そして細大洩らさず得意先の傾向を調べ上げてから、其の嗜好に適するやうな品物を安値に製造する。賣

り弘める。根據を据へる。獨逸が英國を壓倒したのも、更に世界の市場を風靡せんとしたのも、皆是に起因するのである。

五、得意先の研究に就て英獨の比較

英人は飽く迄も自己本位の商賣をする。併し、獨逸人は常に顧客本位の行方に出る。英人の流義は自分の氣に入つた良い品を作つて置いて、之に惚れ込んで來る贅澤な御客を待つてゐる、謂はゞ日本の名人肌の形で、今の時代には少しく固過ぎる。獨逸人は先づ華客の地の狀態を調べて來て、必要に應じて間に合ふ、嗜好に適するものを、大量に安價に作ると云ふ近代的な商賣の仕方である。言葉の如きに至つても英人は世界を英語化する底の氣位でゐる間に、獨人は精々土語を操ることに苦心を拂ふのである。であるから英人は獨品を輕蔑して粗惡だと罵倒して居るにも不拘、却て自國品よりも獨逸品の方が賣行が好い結果と成つて居る。特に二流三流の國では、品物の善惡と利害を正確に取捨して居る暇がない、間に合ふ、安い品物で我慢するのが自然の勢である。實際に於ても、例へば機械の如き改良變化の著しいものは、その變化に應じて不斷に改廢して行かねばならぬから、高價な物を据着けて直に之を取り去るの損害を少からしむる用意からしても、安價な獨品を擇ぶ者が多いのである。

獨逸の國會議事堂

六、實例の一二三を示す

其に就て一例を擧げて見よう。支那人の知る如く現金取引の極めて稀な國である。大概若干の延取引で商賣する國である。處が英國の商人は例の嚴格な性格から現金取引を勵行して居つた。折柄獨商は其の隙に乘じ、巧妙な延取引の仕組で以て英品の販路を蠶食して了つた例もある。又、是は印度の話であるが、匙で食ふために半熟の玉子を乘せるグラスは從來英人の一手專賣のものであつた。處が英國品は印度の玉子の小さいことを知らずに自國の玉子に相應する大きなコップを作つた。それ故印度のお客は皆コップの底に何物かを詰めて其上に玉子を乘せると云ふ始末であつた。例の調査好きの獨商は之に氣が附き、印度の玉子相當のコップを賣り出したものだから、忽ちにして玉子用のコップは獨逸品の獨占に歸して了つたと云ふ實例がある。概ね斯の如き有樣であつたので、英國の商人も近來は大に覺醒し、今度の開戰を期して世界から獨逸品を驅逐せ

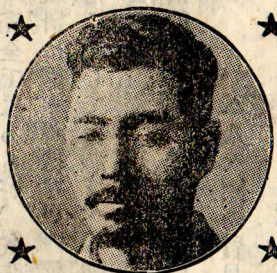
んとの輿論が高く、それには何うしても在來の名人肌商賣を止めて獨逸流に據り調査主義、廣告主義、安賣主義、お客主義に革めねばならぬと稱して居る。善惡は別として、既に獨逸商品の旺盛なる事實ある以上我國人も亦深く是に潛心せねばならぬと思ふ。と同時に約束に反し、信用を毀損するが如き詐僞的商買を愼むべきは言ふ迄もない。

七、保護政策に就て

最後に一言し度きは保護政策の事である。從來日本の經濟學者、實業家の或者は、獨逸商工業の繁盛を羨むの餘り、之に眩惑して皮相の觀察に流れ、一に獨逸の保護政策を口にして我國の足らざるを言ふ者がある。誠に奇怪なる說である。如何にも獨逸は輸出を獎勵して特別の保護を與ふることも事實であるが、併しながら保護其物に就ては公正的確を誤らず、且つ極めて機宜を得て居る。而も保護の如き抑も末の末なるもので獨逸商工の盛運は前述の根本的な三大原因に職因して居つて、保護の如き之無くも亦甚しい憂とはせぬのである。翻て日本に於ては彼の協同なく勤勉なく、研究なく、獨り其の保護をのみ熱望し、一度保護を得れば怠惰にして放漫、全く眞摯の努力を失ふの態がある。獨逸を模するは結構であるが、美點を忘れて弱點をのみ採り、虎を描かんとして猫を得るが如きは愚劣の極であると云はねばならぬ。

(一)

六、世界の經濟競場に於ける獨逸の優勢

東洋經濟新報主筆　三浦鐵太郎

獨逸が佛國と戰つて勝ち一大帝國に統一せられた時から、獨逸は世界の人民の研究の的となつた。就中、最近十數年來の獨逸の活動程、世界の視聽を聳動させたものはないように思はれる。文人は文藝の獨逸を贊嘆し、學者は研究の獨逸を推賞し、軍人は武備の獨逸を稱揚し、以つて一方には、之れに由つて、夫れ々々彼等の屬する國の同胞に向つて、其の覺醒と奮發とを促がし、同時に他の一方には、競ふて範を獨逸に取ると云ふ有樣であつた。けれども、取り分けて發達の顯著なのは、經濟上の獨逸である。本來、經濟上の發展を測るには、其の國民銘々の所得に由ることが、一番包括的であつて要領を盡すけれども、不幸にして正確な調査がない。今日の處では、勿論

不完全ではあるが、矢張り外國貿易の統計に據る外はない。何となれば、所得に關して信憑すべき調査なき限り、貿易統計程、正確であつて、而かも包括的なものは、他にないからである。

（一）

▲八ヶ國の貿易發達比較（單位千磅）

	輸入 一九〇一年	輸入 一九一二年	輸入 十一年間の增加	輸出 一九〇一年	輸出 一九一二年	輸出 十一年間の增加
日本	二五、五八一	六三、一八九	三七、六〇八	二五、二三四	五三、七九六	二八、五六二
露西亞	六三、六三九	一二三、六八七	六一、〇四八	八〇、三八九	一六〇、三一八	七九、九二九
伊太利	六八、七四〇	一四八、〇七七	七九、三三七	五四、九七八	九五、八七七	四〇、八九九
和蘭	一七〇、五九〇	三〇一、〇九〇	一三〇、〇五〇	一四四、四七四	二五九、四二六	一一四、九五二
佛蘭西	一七四、七六八	三二九、二三二	一五四、四六四	一六〇、五一六	二六八、五〇四	一〇七、九八八
米國	一六一、五五二	三四四、四三〇	一八二、八七八	二二三、〇九一	四五三、一五〇	一六〇、〇五八
英吉利	四五四、一四八	六三二、九〇三	一七八、七五五	二八〇、〇〇三	四八七、二二三	二〇七、二〇一
獨逸	二六六、五〇〇	五三五、七〇〇	二六九、二〇〇	二一七、九〇〇	四四〇、四〇〇	二二二、五〇〇

說明する迄もなく、右表を一瞥すれば直ぐ分かることであるが、本世紀初の十一年間に、右の八ヶ國中、輸出に於いても、輸入に於いても、其の增進發達の最も大なるは獨逸である。英を駕し、米を凌ぎ、卓然、群を拔いて居る。勿論、一九一二年に於ける總額を取つて英國と並らべる時は、輸入に於いては獨逸が獨ほ一億磅、卽ち十億圓程尠ないけれども、輸出に至つては、殆んど肩を並べて來た。若し此の發達の勢ひを今後に續けるものとせば、恐らく十年の後には、獨逸の貿易は、輸入に於いては勿論、輸出に於いても、英國を凌駕して、獨逸が世界貿易上の新霸王となるであらう。此の貿易上に於ける英獨の爭霸は、近年喧傳せらる丶所なるが、遠からず、勝ちは獨逸に歸すべく思はれる。餘談ながら、我が日本の如きは、まだ物の數にもならぬ程、憐れな狀態にある。成程、輸出入の增進率のみ見れば獨逸のそれよりも優つて居るけれども、又た、明治維新以來、我が貿易の發達は顯著である杯と、自慢もして居るけれども、之れを獨逸に並べて見ると、太陽とランプ程の違ひで、獨逸の貿易は二年乃至二年半每に、我が年々の總貿易額程宛伸びて行く。富は力の總てゞは勿論ないけれども、併し、富の生產の大小は、其の國民の知見(fore thought)と勢力(Energy)の優劣に比例する。此の點から見ると、我が國民は其の知見と勢力とを獨逸國民の八分の一十分の一しか働かせて居らぬ。換言すれば、獨逸國民は我が國民の八倍十倍を働かせつ丶あるのである。彼れの優、我れの劣、實にお咄の外ではないか。

話を本道に戾どして、余は更に他の點から、獨逸の外國貿易の發達を吟味して見たい。

▲最近二十年間獨逸貿易發達の內容

	年	輸入 價額（百萬馬）	輸入 割合（百分率）	輸出 價額（百萬馬）	輸出 割合（百分率）
食料品及び生きたる獸畜	一八九一	一、五二三	三六、四	四三九	一三、八
	一九〇一	一、八九八	三五、〇	四五二	一〇、二
	一九一一	二、九七六	三〇、七	七四四	九、七
	一九一二	三、一七七	二九、七	七八四	八、七
粗製品	一八九一	一、七三四	四一、八	六八七	二一、七
	一九〇一	二、四五九	四五、四	一、〇八七	二四、五
	一九一一	四、八四五	四九、九	一、七三六	二一、四
	一九一二	五、四一九	五〇、七	二、一六四	二四、二
製造品	一八九一	九〇四	二一、八	二、〇四九	六四、五
	一九〇一	一、〇六四	一九、六	二、八九二	六五、三
	一九一一	一、八八五	一九、四	五、五八六	六八、九
	一九一二	二、〇九五	一九、六	六、〇〇九	六七、一
合計	一八九一	四、一五一	一〇〇、〇	三、一七五	一〇〇、〇
	一九〇一	五、四二一	一〇〇、〇	四、四三一	一〇〇、〇
	一九一一	九、七〇六	一〇〇、〇	八、一〇六	一〇〇、〇
	一九一二	一〇、六九一	一〇〇、〇	八、九五七	一〇〇、〇

右表に由つて見ると、獨逸の輸入は、食料品と粗生品とで、八割を占め、輸出では、製造品が約七割近くを占め、かくて全く製造工業國たることを示してをる。換言すれば、獨逸の近來の經濟的隆興は、全く工業の發達から來てをる。而かも此の工業の發達や、本世紀に入ツてから、最も目覺ましい。例へば、獨逸の粗生品輸入は、一九〇一年に至る十年間には、七億二千五百萬馬（我が約三億六千二百萬圓）を增加したに過ぎぬのに、次の一九一二年に至る十一年間には、二十九億六千萬馬（我が約十四億八千萬圓）を增加した。又た、獨逸の製造品輸出は、前の十年間には八億四千三百馬（我が約四億二千一百萬圓）の增加に過ぎぬのに、次の十一年間には三十一億一千七百萬馬（我が約十五億五千八百萬圓）の增加を告げた。少くも貿易上から見た限りに於いて、本世紀に這入つてから、斯樣に工業的發達の偉大な國は、他に見當らぬ。思ひなしか知らぬが、工業國として、獨逸の意氣は、既に早く、英國を壓して居るように感ぜられる。

（二）

殊に、此の度の戰爭が始まつてから、獨逸の偉大は益々顯著明白になつた。それは單に、英佛露伊白の聯合軍の敵を、一と手に引受けて、一歩だも敵を國境內に入れぬのみか、輙もすれば聯合軍をして敗色あらしめつ丶あると云ふこと計りではない。日本は固より、英國でも、米國でも、平時豫想外に多く獨逸の製品に依賴して居つたことが戰爭に由つて痛切に明かにされた。換言すれば、世界に於ける獨逸の產業的勢力の偉大なることに、今更の如く驚かされた。其の最も顯著な事實は、開戰に由つて、既に世界の國民が使用しつ丶ある染料及び其他の化學藥品の大部分は、獨逸の製品であつた、獨逸から仰いで居つたことである。故に開戰以來、英國でも、米國でも、我が國でも、染料其他化學藥品の價は、數倍或は十數倍に騰貴し、それでも品不足をば加何ともなし得ず、無いと仕舞に不便を我慢して其の使用を差控へると云ふ有樣さへある。是れ豈に獨逸はタトヘ砲火の戰爭に於いては、四面皆敵の苦境に陷り、結局勝利を收め能はぬとしても、科學の獨逸、產業の獨逸は、遂に世界を切りまくり、各國をして顏色無からしめつ丶あるのではないか。蓋し何人と雖、公平の判斷を持つ限り此の點に於ける獨逸の偉大をば、賛賞せざるを得まいと思ふ。

（三）

然らば、獨逸の此の產業貿易上に於ける偉大、殊に商工業の舞臺に於いて、多年霸を唱へて來た英國を、其の位地から蹴落して、取つてそれに代らんとする迄に、獨逸が優勢を持ち來した原

因は何處にあるか。此の問題に適當なる解答を供するものは、云ふ迄もなく獨逸産業發達史の完全なる研究であらねばならぬ。是れ固より余の善くし得る所では無い。乍併、此處迄話を持つて來て、何も云はずに引き下がる譯にも行かぬから、思ひ付いた一二點を指摘して、幸ひに世上識者の垂教を仰ぎたい。

第一に科學の尊重を擧げたい。今日歐米の先進國民と云ふ先進國民は悉く科學を尊重し、研究心の旺盛でないものは無いが、此の點に於て、獨逸は就中盛んであり、熱心であること、是れ世界の批評の一致する所である。獨逸は元と貧寒不毛なる、極めて天惠に乏しい所だとせられてあつた。又た鐵鑛は澤山あるはあるが、燐を混有し居りて、製鐵の原料には不向とせられて居た。所が、研究の結果は、ベセマーの製鐵法の發見となり、今日獨逸の銑鐵產高は遙かに英國より多い。又た普魯西の貧寒不毛と呼ばれたる地方は、甜菜から糖分を搾取する發明を得て以來豐饒なる甜菜根栽培の畠地に化した。のみならず、此の甜菜糖業の發達と共に、其處に牧畜業が起り、肥料業が起り、かくて所謂貧寒不毛の瘠地と見られた所が、非常なる生產方を發揚する所の富源に一變した。又た染料其の他の化學工業に至つては、實に近世の研究が生んだ所の極致とも精華とも稱すべきものである。此の化學工業に於て獨逸は、英佛米其他の諸國の持つことの出來ない成功を持ち、卓然として世界第一を誇つて居る。是れ一に、獨逸國民の科學尊重の精神の所產に外ならない。一體生產とは、人類が外界の物質を知力と勢力とで人類の利用物に變化させることである。見方に由つて、海も、山も、野も、川も、其他地下地上空中に存在する物質の價値の、如何樣にも增進し得ることは、上記、甜菜糖業に由つて、ベセマーの發見に由つて、化學工業の成功に由つて、明白であるが、只だ此の見方を新たにすることが、至難の事業である。此の點に於いて、獨逸は他の國民の爲し得ぬ所難しとせる所を爲し遂げたのである。獨逸は即ち他國の持ち得ぬものを持つた。獨逸の一產業發達の拔群的偉績の最大原因の一つは、是にあること、斷じて疑ひを容れない。

(四)

第二に平和の亨受を擧げたい。獨逸は一八七〇年の對佛戰爭以後、四十幾年に亘りて、一度も戰爭をしない。全然平和を亨受した、或は飽喫した。此の間、英國も、米國も、露國も、伊國も我が日本は申す迄もなく、多少の戰爭に煩はされなかつたものはない。即ち獨逸の如く、永き年月を一貫して、平和を亨け樂んだ國は、殆んど無いと云ふて宜しい。是れ獨逸國民が、一意、研究に其心身を委ね、平和の產業に努力を傾倒し得た所以、而して同時に、又た上記の如く他國民の持ち能はぬものを、持ち得るに至つた所以であると思ふ。獨逸の產業發達の偉績と此の平和とは、斷じて分離することの出來ない緊密な關係がある。

(五)

我が國には富國にして弱兵ならんより

は、寧ろ貧國なるも强兵を欲すと說く論者が中々多い。其の本音は、我が國は、世界の競場に於いて、悲哉、立ち後れた。地道では、迚も先進國の富には追ひ附けない。此際、追附く道として殘され居る唯だ一つは、戰爭に由つて掠奪することだ。其の外にない。と云ふのであらう。此の種の論者は、須らく獨逸の近來發揮して來た世界の競場に於ける優勢なる事績を、篤と吟味すべきである。獨逸帝國に統一する迄の獨逸は、我が國同樣、世界の經濟競場では立ち後れの國民では無かつたか。だから、餘儀ない、戰爭で掠奪しよう泥棒して富む外はないとは、獨逸國民は云はなかつた、獨逸の識者は云はなかつた。而して平和と、研究とで、英國をも壓倒せんとする大產業の獨逸を建設したではないか。盜むことに由つて、幾何の富を附け加へ得よう。否な反て益す貧乏の道に依るものである。余は邦人の三思を望まざるを得ない。

十一、世界無比なる獨逸の化學工業

東京帝國大學教授
理學博士　池田菊苗

▲工業發達の五大理由

ドイツに始めて工業の發達したのは千八百七十年代のことである。其れ以前には農業國として世界に知られて居つたのである。當時有名な化學者リービ出で化學界の面目を一新し、其の門人ホフマンはアニリン染料の研究に依つて學界に貢獻する所あり、ホフマンの門弟バイヤー及び其門人フイシャー等輩出して、研鑽を重ね發明する所尠くなかつた。リビヒは化學を農業に應用した最初の一人で、燻炭の栽培を化學上に應用して人造肥料を發明しドイツの農業界に新機軸を表はした人である。ホフマンはコールタールの製造者として、バイヤーは人造藍の發見者として共に名を著はした。其れ以來ドイツの化學工業は蔚然として興り、茲に面目を一新して世界の工業國として嶄然頭角を現すに至つたのである。

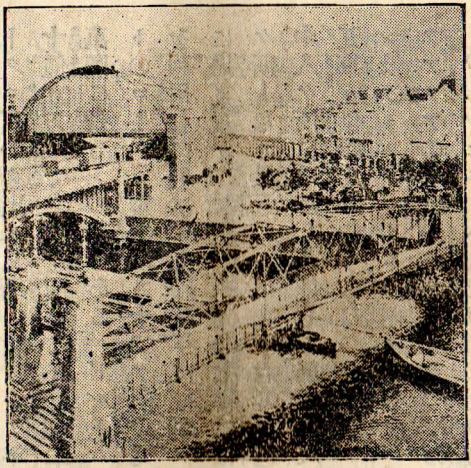
ドイツの工業界が此の如き急速の進步發達をしたのは、元より種々の原因が伏在するであらうが、余の見る所を以てすれば第一の原因はドイツ國の與ふる自然的の富源である。第二は水路、鐵道其他あらゆる交通機關の完備である。第三は電氣及化學工業の勃興である。第四は工業の集中と各種の組織の完全である。第五は殖民地の擴張であると思ふ。以上の五大理由が相依り相續けてドイツ工業の發達の一大目的を成就する要素となつたものであらう。而して此の事實を最も克く說明するものはドイツ人口の職業比例である。今試みに農工商の三業に從事する者の一八八二年より一九〇七年に至る人員別を比較すると實に左の如くである。

年次	農業及林業	工業	商業及運送業
一八八二年	一九、二三五、四五五人	一六、〇五八、〇八〇人	四、五三一、〇八〇人
一八九五年	一八、五〇一、三〇七	二〇、二五三、二四一	五、九六六、八四六
一九〇七年	一七、六八一、一七六	二六、三八六、五三七	八、二七八、二三九

此の表に依つて見るに、最近十五年間に工業に從事する者が約五割五分の增加をしたことを見ても如何に工業が勃興したかを推知することが出來やうと思ふ。

▲電氣事業と化學工業

ドイツの工業が發達した左記五大理由の中で電氣及び化學工業の勃興は特筆すべきものであらうと思ふ。殊に化學工業の進步に至つては其の將來實に測り知るべからざるものがある。是はドイツの工業教育が生んだ結果であるとも稱すべき此の優秀なる化學工業品の一例として前にも述べたバイヤー博士に

依つて發見された人造藍であらう。是は一八九七年の出來事である。當時までドイツは一切の藍を輸入しなければならなかつた。發明前數年間の藍の輸入額は約一千百萬圓であつたが、發明後の十年には之れに倍加する人造藍を輸出するに至つた。茲にドイツ工業の研究に見逃すべからざる事は、ドイツに於ける工業の大集中である。ドイツの工業は近來著しく集中的傾向になつて來た。卽ち株式會社の全盛時代とも稱すべきであらう。小規模をはなれて大規模となつた。組合又は同盟と云ふやうな組織も完備するやうになつた。ドイツの天然の富源の豐富なることは說明するまでもないが、鋼鐵の產額の巨大なることはドイツ工業の活力の源泉ともいふべく、銅、鉛、亞鉛、岩鹽等の鑛產も亦富豐である。而して此等の天然物を集散すべき水路と鐵路とは亦十分に備はり、一八四〇年にはドイツの鐵道線路が英國の半分にすぎなかつたが、一八九七年には其の總延長に於て英國に二倍する盛況を呈したのである。水路政策も亦良好の結果を來し、人煙稀なる地方に運河を鑿穿し、昔の荒蕪地は今日の隆々なる工業地と化し工業の發達に甚大の影響を及ぼしたのだ。尙ドイツ工業に少からぬ關係を有するものは人口の激增と植民地の膨脹である。國內にあふれた人口は潮のやうに海外に移往する、ドイツが工業國として取るべき方針は卽ちこの植民政策でなければならない譯である。

伯林フリードリヒ停車場

▲電氣業者の活動

余は少しくドイツの電氣事業の發達について述べなければならぬ。ドイツ政府が鐵道を國有とし水路掘鑿に熱中してゐる間に、電氣と瓦斯とは民間の手に依つて發達した。斯業に關係ある民間の資本家は到る處にオーバーランド中央大發電所を設立して電力を普く公私の使用者に賣つけ、又國有の電氣機械商會等があらゆる精力で馬車鐵道を電氣鐵道に變更することに腐心し又有數の商會はベルリンに於ける電氣鐵道を各所に建設して、電車の如きも全國各市に敷設せられ、地方の鐵道をも電氣鐵道たらしめんと熱心に運動をなしつゝある有樣である。民間の電氣業者の勢力は大したもので、電力販賣に對して最高の利益を得ん爲めに各地に中央發電所を設立して低廉なる水力電氣を起したり石炭燃料等を殆んど原價で求められるやうな炭鑛の附近に建てたりしてゐる。民間の資本家が斯くの如く活動してゐるのに、市營の中央發電所は狹隘なる地方の供給に甘んじなければならない有樣である。此等の民營電氣會社中の最大なるものはエッセン市に於ける

レーニッシュ・ウエストファリアン電氣會社であらう。同會社は始め市當局の指揮の下にエッセン市に電力を供給する目的で一八九八年に創設されたものであつたが、一九〇二年ダィゼン及びスチンネス二氏は協力して同會社の有望なるを豫想し、全然會社組織に變更した。そして事業の第一着手としてエッセン中央發電所を擴張し、最新の機械を据付け、石炭不用瓦斯を利用し最高の電力を發生せしめ、一方には又數多くの大小發電所を手に入た。かくして十餘年間の中に都市町村八十の自治區域を顧客となし得たのであるが、元來同會社の特長とも云ふべきは、他の大工業會社との相互條約である。クルップ會社を初め其他有數の會社と特約して其の會社が電力の不足を告げた場合には何時でも電力を送り、又電力に剩餘を生じた時は之れを受入れることに定めてある。以てドイツの電力が如何に工業界と相關連してゐるかを知悉すべきである。

▲瓦斯と其の副産物

電氣と相伴つて近來著しき發達を遂げたものは瓦斯事業であらう。瓦斯は西ファリア、其他の炭坑に在るコークス窯の瓦斯を遠近の市町村に輸送したのが元で、現今では到る處瓦斯の製造所を見るに至つた。西ファリアのコークス窯から出る瓦斯の量は一ケ年七十億立方尺で之れを價格にすれば二千萬圓に當るとの話である。ドルトムントのコークス製造所九十二ケ所中瓦斯を利用したのは一九〇五年には四ケ所に過ぎなかつたが、一九〇七年には五ケ所となり最近にては九十六の製造所中八ケ所に増加し八億七十萬立方尺の瓦斯を供給するやうになつた。エッセン及びミュイハイムの兩市ではウェスファリアの炭坑から瓦斯を買つてゐるし、ボッヒューム市では市の瓦斯製造を廢してクルップスのハンニバルとハノーベルの炭坑から供給を受け、ゲルセンキロフエン市でも之れと同樣の方法を取つてゐる。バルメン市の如きは瓦斯の市營を廢してハムボルンのカイゼル炭坑から瓦斯の供給を仰ぎ、之れを仲繼販賣として一ケ年五萬圓の利益を得た。其他數多くの炭坑でも争ふて市町村に瓦斯の供給を行ひ、莫大の利得と成功を收めてゐる。以てコークス窯の廢物利用法の盛大であることが分る。瓦斯事業の勃興に伴つて起つたのは、其の副産物たるコークスの利用である。コークスは之れを蒸溜してコールタールを製し、此のコールタールよりは更に石炭酸、クレオソート油、アニリン染料、其他種々の藥品を製造することが出來る。故にコールタール業は瓦斯事業に伴つて起るべきもので瓦斯事業の盛なるドイツに於てコールタール事業の早く起つたのは當然の現象である。殊に石炭酸、アニリン染料等の製造高は莫大なるもので、其の輸出額も巨額に上つてゐる。日本で使用する石炭酸、及アニリン染料は是まで凡てドイツから供給を仰いでゐたのであるが、歐洲大亂の勃發と共にドイツよりの輸入全く杜絶し、日本の當業者は大恐慌を來すに至つた。斯くの如くドイツは瓦斯事業に於ても又コールタール業に於ても長足の進歩發達をしたことは世界の均しく認むる所である。

▲化學工業の發達せる所以

ドイツの工業中に於て最も目覺しき發達をしたものは化學工業であらう。而して此の化學工業は他の諸工業に比して重要の地位を占めてゐる點が其の發達を速かならしめた要素であらう。ドイツの工業教育の濫觴は一八二七年リービッヒ氏がギーゼン大學に化學試驗室を創立し政府が其の結果の良好なるに勵まされて各縣に工藝學校を設置したのに基する。一八二〇年代の化學工業は實に貧弱であつたが教化の力は忽ちにして現はれた。機械の輸入鐵道の發達、資本の集中等は大に此の工業教育の成長を助けた。ドイツの工業教育は大學よりも高等工業學校に重きを置かれてある。此の工業學校は大學程度の組織で全く專門的なる獨立せる工業の知識を與へる。其他地方には中學程度の工業學校又は工業徒弟學校補習學校が設立せられ、工業教育の機關は實によく完備し整頓してゐるのである。其の教育は特に學術を重んじ、學理の研究に專ら力を注ぎ、而も決して空理空論に流るゝことなく之れを實際に應用することを忘れない。又實業家の如きも日本の如く孤立獨行と云ふことなく、互に一致協力して學理の研究實地の應用に力をつくしつゝある點も與つて力がある。ドイツ人は學理の研究殊に化學上の發見には極めて適せる國民であると思ふ。ドイツ人の頭腦は緻密明断で如何なる困難にも堪へ、學者も製造家も一致して事に當るの精神に富んでゐるのはたしかに斯業發達の一要素とも見ることが可能やう。

▲學者技術家の輩出は世界の偉觀也

余は更にバイヤー博士の發見にかゝる人造藍について一言したいと思ふ。人造藍の發見は實にドイツの化學工業界に於ける代表的名譽を示すものであらう。ドイツは是まで長く東インドの藍を多量に輸入せなければならなかつた。一八九七年バイヤー博士は多年研鑚の功茲に現れて人造藍を發見するに至つた。是に於いて一時に輸入藍を驅逐したのみならず、國内の需用に剩餘を生じ年々多量の輸出を見るやうになつたのである。ドイツに於ける人造染料の産額は一ケ年一億八千萬圓で世界の全産額の四分一強を占め、世界到る處に其の勢力を扶植してゐる。染料製造を目的とする大會社は數多いが、バーデッシュ、アニリン會社の如きは其の規模の宏大なる他に其の比を見ず、ドイツの化學工業の爲めには大なる誇と謂ふべきである。尚ほドイツの化學工業界に忘るべからざるは學者大技術者の輩出である。十九世紀の前半より中葉にかけ、ホフマン、リビヒ、バイヤー、フィッシャー其他多數の學者續出してドイツの化學工業界の面目爲めに全く一新したのである。斯の如き學術的偉人の輩出は他國の見る能はざるところ、ドイツが數十年の間に隆々として世界無比なる英國の工業を一蹴し以て覇を天下に鳴らすに至つた所以は洵に偶然ではない。ドイツは假し今回の大亂に敗を取るとするも其化學工業は炳として日星の如く、將來益々發達の域に進み、光輝を放つであらうと信ずるのである。

八、獨逸の强味は理詰めの强味

『能力充實三百萬圓改革物語』著者　池田藤四郎

▲生來の無駄嫌ひ

獨逸の頭拔けて强いのは、申迄もなく緻密とエフィシエンシーの賜である。何人と雖も之には異存のない筈である。

獨逸は、その爲すべき一切の事物を、科學的に硏究し、正味無駄なしの最良方法を決定して、否應なく規則攻めに之が勵行を計つて居る。由來、軍隊式の絕對服從に慣れて居る上に、抑もの無駄嫌ひであるから、獨逸國民一般、善意の干涉を快く承容れる傾向がある。此邊の具合は誠に治者に取つて好都合に出來て居る。獨逸の强味を現はすエフィシエンシーの最も著しく發達して居るのは、今次の戰爭に證據立てられた軍事方面である。

▲肌身離さぬ一個の鍵

現役を首尾克く濟ませて、愈よ兵營を辭し去らうといふ瀨戸際に、一個の鍵が獨逸兵の手へ渡る。除隊後の彼は、この小さな鍵を細紐に結んで首に掛け肌身離さず御生大事に守つて居る。獨逸の軍事方面に於ける能力充實を說明するには、この鍵こそ實に持て來いの代物である。

雲行が妙に怪しくなつて來て、秘密中に動員令は下つた。戰時の非常召集に接した豫備兵は、時を移さず、豫定の集合地へ向けて發足する。獨逸國内であれば如何に遠隔の地方に居る際でも、鐵道の係員に召集命令を示すのみで、斯る場合に無料乘車が出來る。鐵道の係は、何事を措いても此重大なる使命に對して、有ゆる便宜を與へねばならぬ。萬一にも之を拒んだが最期、その係は身分の如何に關せず、立派な反逆罪に問はれる。

▲飽迄行届いた準備

軈て豫備兵は、恙なく豫定の集合地點たる聯隊所在地へ到着する。此所へ來ると、彼は何等少しも迷ふ處なく、一直線に、自分の鍵と同一番號の戸棚を設けた一室に赴き、身につけた鍵でその戸棚を開く、戸棚の中には、寸法通りの軍服と軍靴が用意してある。襯衣も股引も一切合財準備が整ふて居る。首へかける革財布から、姓名所屬隊號を記した眞鍮製の迷子札に至るまで、手落なく揃ふて居る。强て無きものを求むれば、それは沓下のみで獨逸の兵卒は自身で沓下を用意する定めである。

此戸棚の中には悉く手入れ濟みの軍銃、軍刀、背囊、豫備靴、水筒等を殘る隈なく取揃へてある。背囊の内容は、御規則通り完全に一切のものを詰めてある。水筒には新鮮の飮料水が波々と入れてある。そして此水は非常有事の日を俟つて每日必ず取代へられるのである。

召集に應じた豫備兵は、平服を脫ぎ捨てゝ、立ろに用意嚴しき戰時武裝の軍人姿となる。藥盒には規定通りの小銃彈が詰められて居る。軍服の一のポケットには應急手當用の包帶ガーゼが二包、他の大きなポケットには非常携帶行糧がチャンと入つて居る。非常用の糧食は、ソップを粉末にしたものが主要なるもので之は數年經たものでも味の變る憂ひがない。熱湯を注げば忽ち旨いソップが出來る。戸棚の中の一切を身につけて武裝を終ると、跡に殘るは丈夫な一枚の厚紙と一條の細紐と一片の荷札とである。この厚紙は、脫ぎ捨てた平服を包むための包紙に充てられ包の上を細紐にて十文字に縢り屆け先を記した荷札を之に結んで戸棚へ入れて置く。斯うしておけば、後に係の者が集めに來て、夫々名宛先へ無料配達する。

動員令が下つてから遲くも四十八時間以内には、戰時編制を濟ませて、出發の用意が整ふのである。軍事方面に對する緻密とエフィシエンシーの働き具合は、此實例に由り略了解さるゝであらう。

▲『獨逸製』の三字に籠る力

軍事方面に次で、著しく能力の充實して居るのは、海外貿易である。獨逸の一切の機關は海外貿易の發展に向つて全力を注いで居る。緻密と充實は遺憾なく此方面に發揮されて居る。獨逸の强味は海外貿易の發展に由り層一層加はつたのである。

吾々は、世界の貿易市場を荒し廻りつゝある『獨逸製』即ち Made in Germany なる三文字の重大なる意義を染々と感ぜざるを得ぬ。歐洲の大戰も此三文字から生れ來たつたのである。

其昔、獨逸の輸出品と云へば、頑健無比の移民と、音樂と、詩と、哲學とに限られたものであつた。それが今日に及んでは、有ゆる文明の利器一切に Made in Germany なる銘を打つて、世界各國手の屆く限り之を賣弘めて居る。さてこそ英も米も日本も『獨逸製』の三文字には全く以て威嚇されて了つた。英國がドレッドノート型の新戰艦に思ひついたのも、元を質せは獨逸品の跋扈に刺戟されたからである。

▲此の成功は天惠に非ず

左ればと云つて、固より獨逸人に神通力が備はつて居るのではない。敢て他國人の企及し能はざる特種の能力を有する譯でもない。天然の利源に富んで居る處の沙汰ではない。却て其反對を證明すべき材料の多きに苦しむ程である。それにも拘はらず、比較的短時日に獨逸の海外貿易は、『獨逸製』なる三文字を旗印として、著しき長足の進步を遂げた。

▲良く考へる獨逸人

天然の利源に乏しい國の住民は、勢ひ此缺陷を補ふべく、他に倍して緻密

に頭腦を働かせる。之は自衞上當然の成行で畢竟、獨逸の物質的成功の裏面には、秩序と集約とを旨とする獨逸式考案の力が籠つて居るのである。これこそ實に Made in Garmany なる三字に生命活氣を與へた原動力である。

獨逸の獨占事業とも云ふべき化學染料の如きも、コールタアから始めて染料を見出したのは、獨逸人ならで、正に英國人であつたのだ。然るに此發見を基礎として、今日のコールタア工業を起したものは秩序的に頭腦を働かせた獨逸人の力である。獨逸が化學製品及び藥品業に就て、世界獨得の地位を占めて居るのは要するに斯うした拔目のない頭腦の働きから出た結果である。

曾て米國の某會社が製鋼所を新設した際、獨逸の某會社は下の如く申出でた『今後十ケ年間無料で製鋼所用のコークスを供給するから、願はくば構內へ自費でコークス製造所を設けさして貰ひたい。十ケ年の後には必ず無償で此建物を御引渡し申す』と提言した。獨逸の會社は十年コークスを無料で供給し、其上に建物まで進上すると約束したのだが、それはコークス製造の副產物が欲しいからであつたのだ。無論石炭は米國の會社が負擔したものだ。

ポーの探偵小說を讀むと、犯罪に關係する肝腎の書類を探し出すため綿密な家宅搜索を行ふ一節がある。卽ち家屋內の各室を細かく碁盤目に區別り、其一區切々々を片端からヂリ〱と搜し立て、一寸一分の隙も漏さず、殆んど氣息の出來ぬ程の刹那い感を與へる。獨逸人の事物に對する研究の態度が又實に此通りである。冷やかにヂリ〱と理詰めに詮じ來る力には、到底如何なるものも抵抗することが出來ぬ。市政の問題でも、科學の問題でも、悉く容赦なき理詰めの尺度に充てられ、其處に寸毫の緩みを許さぬのである。獨逸人は實に好く考へ、何事にも行き涉つて居る。

▲駱駝見物に現はれた佛英獨氣質

曾て斯ういふ話を聞いたことがある。

或時、佛蘭西人と、英人と、獨人との三名が打連立つて駱駝見物に出掛けた。佛人は早速之を滑稽交りの見物記に認めて新聞紙へ寄稿した儘、アッサリと一切を忘れて了つた。英人は駱駝を見ると、例の獵人氣質がムラ〱と起つて、容易に制し切れず、歸宅も早々鐵砲を肩に沙漠を指して駱駝狩りに出發した。一方獨逸人はと見れば、彼は其日から圖書館へ立籠り、駱駝に關する一切の書籍を涉漁し、軈て自分も亦た此動物に就て完全なる書物を著はさうと決心した。彼は未だに此著作に從事して居るが、恐らく今後十數年の後ならでは之を上梓する時期が來からうといふ評判である。何事に對しても緻密を尊び十全を期する獨逸人の性格が此處にもアリ〱と讀れるのである

▲無駄を恐るゝ國民

更に又、獨逸人は一般の想像以上に儉約である。

獨逸某市の郊外に、凡そ十町程の道路を照らすために九基のアーク燈が設けられた。郊外のことではあるし、夜分十時過ぎには人通りも稀れとなり、電燈は唯徒らに淋しき往來を照らすのみであつた。この無駄に氣着いた當局者は、其後每夜、十時過ぐると同時に一切の燈火を消すことに決定した。その代りに十時以後の通行人は、往來の兩端に立つアーク燈の自働裝置へ金十文(五錢)を投ずると、九本ともパッと明るくなる。軈て普通の步調で此處を通り越した頃に、燈火は再び消える。

獨逸の地下鐵道は、暗黑の地下から地上へ出ると、車內の燈火が自働的に消滅する。割長屋の大戶を開けると、廊下の電燈は、丁度入口から階段の上あたりまで人を送つたかと思ふ間點火する。一枚の新聞紙を三四戶で共同購讀すると云ふことを行る。ホテルの部屋女中は、客の殘した古狀袋から古郵便切手を剝がして、之を賣る。此外之に類する實例は擧ぐるに遑なき程である。獨逸の強いのは、緻密とエフィシエンシーの賜である。

(前頁の地圖は有名なる獨逸の鐵道網にして東普の一部を示す)

▲一人當富力 (高橋秀臣氏調査)

國	富力
英國	三千五百六十八圓
佛國	三千二百五十圓
米國	三千〇四十九圓
獨逸	二千二百三十九圓
伊國	千三百二十四圓
露國	七百五十九圓
日本	七百二十五圓〇七錢四厘
支那	二百六十七圓五十錢七厘

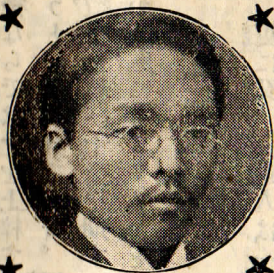
▲横山章君

=實業界カリカチユール(其一)=

議會閉會後の報告演說だがね、あまり金をかけたくないのさ、僕は安價に佛樣の後光を浴びながらお寺で御說敎式報告演說をやるつもりだ、何が扨て田舍の事だから、お寺とか佛樣だとか云へば一も二もなく有難がつてウヨ〱やつて來る……まアづ雜つと三十圓で申譯が立つのさ、と親の光りの大隈信常君佛樣の御光迄拝借せんとする魂膽を金の光りの横山君ニコ〱しながら、長いアゴを扇子で隱しながら「ナール程ね」

九、野心標的としての獨逸の世界政策

『帝國教育』主筆　藤原喜代藏

▲名譽恢復の第一聲

獨逸は強國だと云ふことは世界列強の夙に認むる所であつたが、今回の戰爭位強いとは他國の均しく豫想しなかつた所であらう。一國と一國との戰ならば當今に於いて獨逸に匹敵し得る國は世界中にないと云ふことが認めらるゝに至つたのである。獨逸が此の如く強大なる所以は一つは兵力の然らしむる所もあらうが、今日は兵力のみならず、其の兵力を發揮する後楯ともなるべき萬般の國家的要素が充實して居らなければ駄目であるが、獨逸は其の要素に於いても充實してゐる。獨逸が今日の如く偉大となつた原因に就いては、種々の方面から觀察研究することが出來るけれども、余は其の中に於て根本的主因とも稱すべきものは、即ち獨逸が國家としての絶大なる野心標的を高調して、之に向つて全力を傾倒し來つた所に在ると思ふ。然らば其の所謂野心標的とは何であるか。之れを歴史的に云へば幾度か變遷を來したるも、近世に於ては奈翁一世時代に於て、プロシアを蹂躪せられ、獨逸は一時亡國の慘狀を呈したのであつたが、獨逸國民は其當時の國辱を何時かは雪がんとの讐念深く〳〵腦底に印象せられたのであつた。で、政治家も國民も上下擧つて悲憤の涙を振ひ、國力を挽回し佛國への復讐を報じて獨逸大帝國を建設しなければならぬとの決心を抱いたのである。尤も其れ以前にも所謂獨逸帝國なるものは在つた。而も此の獨逸帝國を破壞し、プロシアを中心とせる獨逸大帝國を創建せんことは彼等獨逸國民の熱望であつたのである。此の野心標的に到達せんが爲めには、彼等は全力を傾け盡して計畫し實行した。幸にして其の計畫が成功するの日は到來したのである。即ち普佛戰爭は其の報復的名譽恢復の第一聲であつた。即ち獨逸は此の戰に於て佛國を撃破し、プロシアの盟主となつて年來の宿望たる獨逸帝國を建設し、茲に始めて歐洲の中原に雄飛するの目的を達することが可能たのである。

▲海軍擴張の實現

此の如くにして獨逸國民は、其の第一目的を貫達したのであるが、彼等の

野心は決して茲に止まらなかつた。彼等は更に獨逸の力を以て全世界を支配すべしとの大野望を企てたのである。カイゼルの所謂世界政策(Welt Politik)なるものが盛んに唱道せられ、國民の標的としてあらゆる階級の人士は深く之れを念頭に鏤刻し、勇往邁進を敢行したのである。今日獨逸の世界政策なるものは何人も均しく知悉する所であるが、其の獨逸の世界政策が今日に至るまでには、カイゼル及び政治家はあらゆる手段方法を講究し、其の野心を達せんが爲めには、先づ海軍を擴張せざるべからずと曰ふに在つた。ビスマルクは獨逸帝國が歐大陸に雄飛するの大野心を逞しうするには、陸軍のみで十分である。海軍は之れを擴張するの必要ないと宣言したのであるが、是は其の當時の駈引に過ぎなかつたかも知れない。兎に角カイゼルの世界政策を標的として立つや、先づ海軍を擴張し、次に增税を實施し、皇帝は躬親しく議會に臨んで二時間に亘る海軍擴張に關する大演説を試み、以て擴張案を可決せしめた位に熱心であつた。此の如き事例は世界列強中全く其の類例を見ない所であるのだ。加之皇帝は列強海軍の比較表を作成して之れを國民に示し、且つ地方を巡幸して海軍に關する講演を試み以て民心の意嚮を海軍に向はしむる等、あらゆる苦心經營を施されたのである。

▲尙武勤儉を躬行す

皇帝は斯く一面には海軍の擴張、海軍思想の涵養に努力せらるゝ傍、一面勤儉尙武の氣風を皷吹し、政治家も當局者も擧つて之れを一國政治の方針としてあらゆる方法、あらゆる方面に亘つて之れが實行に力めたることは爭ふべからざる事實である。今日獨逸の勤儉は實に世界第一であると思ふ。余が獨逸に在るや、或る大會社の支配人が晝飯に燒パンにバタを附けて食ふのを見たことがあるが、大會社の支配人がかう云ふ質素な食事を取ると云ふことは他の歐米諸國では見られないことである。日本の如きは一會社の支配人は元より月俸四五十圓の會社員と雖も、晝飯には洋食とか牛鍋の辨當を取つて食ふのが普通である。然るに獨逸人は千人が千人まで必ず自宅から辨當を持參する。下宿屋の如きも食物は拙く、英佛のそれに劣ること數等である。單に食物のみならず衣服も極めて質素である。かう云ふ勤儉は消極的ではあるが、積極的の勤勉に於ても亦歐米第一である。英佛の如きは僻地に行けば、未だ耕作されない原野が少くない、牧場の大なるものがあつても働く者は大抵男子のみで婦人はごく稀である。然るに獨逸に入ると原野にも多く女の働くのを見受けるのである。一般に獨逸人が勞働を尊び少しも之れを厭ふの氣風のないことは他國人に模倣することが可能ない美點である。例へば千五百圓位の月俸を取る小學校長を訪問すると主人が客と談話してゐる間に、其の妻君は傍に在つて編物をしながら其の談話を聞いてゐて、時々客に愛嬌を振り蒔く位である。英佛等ではかう云ふ光景は見ることが可能ない。衣服でもベルリンの婦人は大抵木綿物を纏つてゐる。故に英佛の婦人を都會の女とすればベルリンの婦人は田舍の女である

獨逸人が斯く勤儉力行を實行して倦まないのは何の爲めであるかと云ふに、是れ即ち獨逸の世界政策を實現せんが爲めに、國力を培養しなければならぬ是は海陸軍の擴張のみでは駄目である、宜しく國軍を動かす大富力を養はなければならない、而して其の富力を培養するには即ち勤儉力行を措いて外に方法はないと考へたからである。

▲學術の根本的研究

第三の理由としては敎育及び學術の奬勵發達に全力を傾注したことである。世界各國に義務敎育制度を施いたのは獨逸である。中等敎育を發達せしめたのも亦獨逸である。是等は元より世界政策を實現すると云ふ根本的なる國家的野心から奬勵するに至つたものであらうが、今日の敎育は世界各國獨逸の右に出づるものがない。學術に於ても然りである。實業に於ても獨逸位學理を應用し之れを實行する國はないのである。汽車に乘つて和、佛、伯、等の諸國を巡遊して見るに、耕作してない未開地が澤山あり又作物のある耕地でも極めて不規律であるが、一度獨逸の國境に入ると未開地はなく、山林畑地の光景が全く異ふ。山林の如きは實に整頓せるもので、自然林はなく、人造林のみである。是れは農業に學理を應用した結果である。日本の陸軍歩兵操典中に林間戰爭なる語があるが、是は日本では想像が出來ない。何となれば日本の歩兵操典は獨逸のを直譯したもので、獨逸の歩兵操典には林間戰爭と云ふことがある。それを日本に直譯したのは實に滑稽である。獨逸の山林は人造林が多いから林間戰爭が出來るが、日本の山林は全く自然林で林間戰爭のなし得る理由はない。其他工業上に於ても學理的なることは固より云ふまでもないことである。價の高いものを作らうとすればいくらでも高いものが出來、廉いものを作らうとすればいくらでも廉いものが出來る。彼の有名なクルップ會社では四十三珊の巨砲が製造され、兵力丈では之が操縦出來ず、技師を派遣して操縦したと云はれてゐる。其の兵器が如何に學理的に科學的に研究されて居るかゞ解るであらう。其學理を應用し其の原理を究むること凡て此の類である。

ツエッペリン飛行船の勇姿

▲少數天才主義か多數凡人主義か

普通敎育に於ても獨逸は世界第一と謂はなければならぬ。義務敎育を第一に施行せるは獨逸である、今日では大いに改良進歩された。尚一つ獨逸の敎育について考ふべきは多數凡人主義の敎育と少數天才主義のそれとが克く調和して居ることである。是の兩者は余の命名した稱呼であるが、大體から云へば英國の敎育は少數天才主義であり獨逸のは多數凡人主義であるとも云ひ得る。而して現代の敎育は世界各國とも多數凡人主義である。即ち普通敎育に於ては多數凡人主義を取り、高等敎育に於ては少數天才主義を取てゐる。全體から云へば一國の敎育としては何れを取るべきか各一長一短あり、少數天才主義の敎育は優秀なる材能を大成せしむることが可能る。秀才を保護し之れをして特別なる發達の途を講ずるは乃ち天才主義の敎育である。故に英國に於ては高等敎育の發達早くして初等敎育は比較的後に至つて發達した。ケンブリッヂ大學、イートン、ラグビー、ハルトン等の中學校が早く已に名聲を馳せた所以のもの亦實に玆に存するのである。要之天才主義の敎育は秀才を養成することは可能るけれども國民全體の平均能力を培養することは不可能である。國運の發展を圖るべき政治家學者は少數天才主義の敎育の下にそれを育成し得べきも、又一面劣惡の者不良なるもの、其中に生ずるは勢の免るべからざる所である。然るに凡人主義の敎育は、大人物の出現は極めて異數ではあるけれども、甚しく劣惡不良なる國民は出ないのである。即ち國民の平均能力が高められる譯である。天才主義の敎育に依つて大人物出現しよく國家を統卒して好成績を擧ぐるは元より望ましいことではあり、一國の君主たるものが專制政治を行ふとも眞に愛民の大精神を以て之に臨むならば大いに歡迎すべきである。大人物出で、多數國民を指導統卒するならば國運の深長を來すと雖も、一國として大人物なければ其國は竟に危いのである。凡人主義の敎育は之に反し國民全體の能力進歩し國家の基礎鞏固になるけれども國家凡人のみにして大人物出でざれば一國の文物は平凡化して全く特色を失ふに至るであらう。故に平凡主義と天才主義とは各一長一短あるけれども、今日のデモクラチックな時代に於ては大人物の出現を俟たずに國家を治むるの道を講じなければならぬ、此點から云つても多數凡人主義の敎育は必要なることゝ思ふ。

▲普通敎育の偉力

獨逸の敎育に於て特筆すべき第一事は、普通敎育の點に在る。最近に於ては、高等の學術は勿論、低腦兒敎育、林間敎育、盲啞敎育、不具兒童、感化事業、等の所謂下層民敎育は實に至れり盡せりである。殊に林間敎育の如きは他に其比を見ざる程整頓せるもので、林間に學校を設け、身體の虛弱又は疾病にて正規の學校敎育を受け得ざる兒童を收容し、身體の保護靜養を主とし、可成學課を減少し普通の初等敎育の十分の一位の學科を授け只管身體の恢復を目的とする敎育法で、其の設備の完全なること世界第一である。つまり獨逸人は如何なる拙劣なる人間でも敎育を施して一人なりとも屑のないやうにすると云ふのが目的なのである。其他勞働者の托兒所を施設したり私生兒

救濟の爲めに國費を以て市町村に收容所を設け之れを敎育したり、下層敎育の機關は殆ど間然する所がない。

然らば高等敎育は如何といふに、是れ亦學理の研究に全力を傾注し、一世の碩學に對しては巨大の保護を與ふることを吝まない。コッホ博士の如きは生前一ケ年二百萬圓の保護を其の研究所に受けて居つたが、其の死後は研究所も全く沒落して了つた。併し獨逸人は元來人間本位であるから、世界的學者の實在は眞に國家の至寶なりと云ふ自信よりしてコッホ博士を保護したのである。日本の如きは全く役所本位で役所の都合の爲めには人間を犧牲に供しても平氣である。夫の一時大問題であつた傳染病研究所の移管の如きは其の一例である。政府が眞に人間の仕事を尊重し其の學術を信賴するならば、北里博士に研究所を設置せしむべきである。學術技術の如きは全く人間本位にやらなければ決して進歩するものではない。獨逸の敎育は元來多數平凡主義を取つて來たのであるが、近來は少數天才主義の敎育にも力を注ぎ、秀才學校なるものを設立して兒童中の拔群者を拔擢し、特別の敎育を施して其天才を發揮することに努力を怠らない。

▲世界の支配者たらむとする野望

之れを要するに獨逸が根本の目的は即ち全世界を獨逸の統治下に置くと云ふ世界政策である。之れを實行する一の方便として第一海軍の擴張、第二勤儉尚武、第三敎育學術の普及に努力熱中して居る譯である。之れが實行を期する爲めには皇帝を始め政治家も學者も全力を傾注して奮勵し、世界政策は獨乙の國是であり、國民の愛國的代表であると確信し、擧國一致朝野協力して國力の進展の爲に力行をなしつゝあるのである。如上の三要素は實に今日の獨逸をして斯る強大なる國家を建設せしめた最も顯著なる主因と稱すべきものであらうと思ふ。

十、無謀なるカイゼルの軍國主義

陸軍少將　草生政恒

▲獨軍の強きに非ず

我輩は獨逸に行つたことはなし、又獨逸に關しては殆んど研究したこともないから、獨逸が何故強いかと云ふことの眞相は我輩には判斷が出來兼ねる。が、我輩一個の觀察より云へば今回の戰爭で獨逸が強いやうに思はるゝのは獨逸が眞に強いのではなく協商側が案外弱いのではあるまいかと思ふ。又日本と獨逸との比較に於てもその通りである。日本軍が青島を陷落したのは、僅々四五千人の守備軍に對して二個師團の兵を以て攻擊したのであるから、其の兵數に於て雲泥の相違がある、故に是れを以て日本軍が獨軍より強いと云ふ證據にはならないのである。兵の強弱如何は同等の兵數と同等の武器を用ひて戰爭をした結果始めて定むべき問題であつて多數の兵を以て少數の兵を破つたのを以て兵の強弱を判斷するは早計である。日本軍と獨軍との強弱を比較するは些か不穩當ではあるが、我輩の見る所では鴈行伯仲の間に在るものであるまいかと思ふ。

我輩は一體獨逸人は大嫌ひであるから獨逸を稱讚するのを好まない者であるが、併し彼等にも却々長所はある。獨逸人は軍人に限らず凡て眞面目で規律が正しく上官の命令はよく遵奉する。軍隊の如きは秩序整然一絲紊れず、上官の其の部下を取扱ふこと、宛も手足の如くであるから事に當つては一致團結して全力を傾倒することが可能る。獨逸の陸軍を大成したのは現皇帝の力である。カイゼルが軍國主義を以て國是となし、内治外交に於て凡て此の政策を實現せんとするやうになつて以來、陸軍は勿論海軍の大擴張を斷行した。世界列國の陸軍は凡て範を獨逸に取つたことに徵しても其の設備の完全なることが解る。

獨逸步兵の進軍

▲感心出來ぬ獨逸人

カイゼルが特に力を用ひて奬勵したのは青年の軍事敎育である。全國に數千の青年會を設け中央に本部を置きカイゼル自ら之れを統率し、時々名士を派遣して講演をなさしむる等軍國の青年を敎育することに至大の力を注いでゐる。上已に斯の如くであるから國民全般も亦是の軍國主義を理想とし國是として之れが實現を期すべく熱中したのである。今日獨逸の強大は一に此の軍國主義の結果であらうと思ふ。併し我輩が獨逸に就いて甚だ感心の出來ない事は、獨逸人が自國を思ふの情よりでもあらうが、他國に歸化してからも間諜となつて祖國に通ずるやうなことを平氣ですることである。自國の爲めを思ふ愛國心は大いに嘉すべきではあるが、一旦歸化した以上は其の國民であるから其の國の爲めに盡すのは當然である。昔大阪の役眞田幸村父子三人が其の主君を異にする爲めに、二人は豐臣方に從ひ一人は德川方についた

のは左もあるべきことだと思ふ。併し獨逸人には獨逸魂と云ふものがあるが、日本人の所謂大和魂とは其の趣が異ふ。獨逸魂は獨逸人一流の國家的愛國心とも謂ふべきもので、獨逸人は國家の爲めカイゼルの爲めにつくすと云ふ精神以外何物もない、其の暴漫獨特な態度は今日列國の怨恨を買つた原因の一であらうと思ふ。

▲獨逸の覆轍に鑑みよ

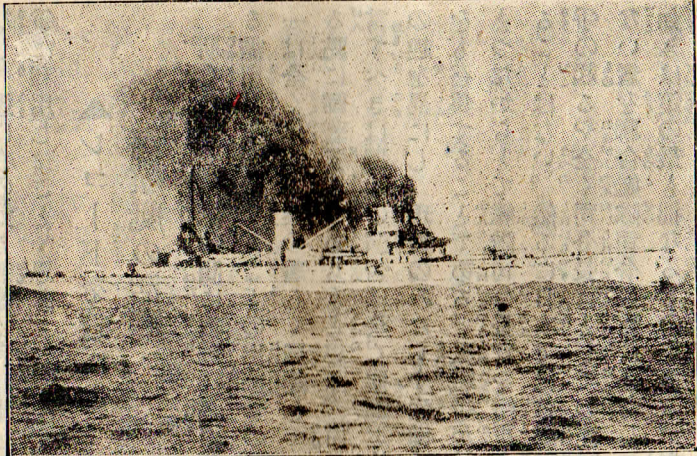
我輩は思ふ、カイゼルの軍國主義は獨逸に崇つたのであらう。カイゼルが今日列強を相手にして立つたのは感心ではあるが、縦し獨逸が今回の戰爭に勝つと假定しても、獨逸國民は是が爲めにどれ丈の損失を蒙るか知れない、獨逸國民は實に氣の毒である、數十萬の人命を失ひ數十億の財産を損耗し、海外の殖民地は悉く他國の手に奪はれ、世界に永久の禍を遺す、軍國主義は大いに注意すべきものである。日本の如きも然り、海外の發展は國家の發展上大に意義あることであるが、只領土の擴張のみに腐心するが如きは大いに危險である。軍國主義の末路はやがて獨逸の徹を覆むの運命に際會しなければならぬであらう。現時世界の大勢に鑑みて軍備の必要なるは論を俟たないが、單に軍國主義侵略主義の目的であり、領土擴張を唯一の標的としての軍備擴張は大いに考へものである。

我輩は重ねて曰ふ、獨逸人の强いのは其の勤勉力行の結果であり、カイゼルの軍國主義の賚であるけれとも、其軍國主義のもたらす結果は實に恐るべく憂ふべき禍恨を後世に遺すに至つたことを深く考へなければならぬ、我輩は今回歐洲の大戰爭に逢着して、獨逸帝國の運命の將來を思ふと共に、更に日本の現狀に鑑み大に感慨に堪へないものがある。日本國民は此の大亂に依つて大なる活教訓を受け、深く自ら警戒しなければならぬこと、信ずる。

十一、獨逸海軍の威力と國民性

元海軍大佐　太田三次郎

▲獨逸海軍の濫觴

獨逸の海軍の原は陸軍から起つたものである。陸軍國たる獨逸に海軍を興さうと云ふ考は、今より七十年前國民運動の勃發した當時已に一部の識者に依つて唱へられた議論であつたが、之れを實行し創始したのは今のカイゼルであつた、カイゼルは海軍擴張の一日も忽にすべからざるを覺知するや、先づ帝國議會の開會に際し議員一同を晩餐會に招待して海軍擴張の緊急事を詳説し、其他演説の機會ある毎に彼は海軍擴張の必要を説かれたのみならず首相海相を始め大學の教授連までが口を揃へて海軍擴張の急務なるを主張し、獨逸の海軍熱はかくして其の最高潮に達したのである。其の結果、海軍協會なるものが生れた。此の協會は世界中で最大にして最有力なる國民的の結社である。斯くの如くして獨逸は着々海軍の擴張を實行し、爾來十餘年の間に於いて獨逸海軍の偉力は殆ど英國に髣髴するの觀を呈するに至つた。

前にも云ふ如く獨逸海軍の出師準備は元は陸軍を模倣したものであるが、元來獨逸海軍に於いて最も特筆すべきことは、平時と雖も戰爭に對すると同樣の準備をなしつ丶あることである、世界列强の軍備は今日大抵獨逸を模倣してゐる。獨逸は軍備の必要の爲にはあらゆる事を犠牲に供して少しも惜まない。白耳義の中立を破るごときは彼に於ては何でもないことである。七十年戰爭の際獨逸がライン河に於て中立國たる英國汽船を砲撃して之れを沈沒せしめたるが如き其の一例である。今一つ特記すべきは獨逸の海軍は凡て常備艦隊のみで豫防艦隊なるものがない事である。一國の經濟上他國に於ては平時は常備艦隊及び豫備艦隊の二部に編成し置き、戰時に當つて出師準備を爲すのが常であるが、獨逸に於ては平時より已に戰爭の爲めの準備をなしてゐるから出師準備が立ろに成立つて了ふ譯である。一旦戰爭の起つた場合には出師準備の迅速でなければならぬことは勿論のことであるが、併し獨逸以外の列强は一國の財政上之れを實現することは不可能事である。其の點に於いて獨逸はたしかに卓拔せる手腕を有してゐる。是等は凡てカイゼルの海軍政策から割出した遣方である。

獨逸戰艦モルトケ號

▲中隊本位の海軍

獨逸の海軍は全く中隊本位であるが是も亦陸軍に倣つて編成したものである。何か一つ事をなさんとするには必ず先づ實驗をなし其の實驗に基づいて仕事をするのである。故に仕事には空理空論がない。カイゼルが曾て英國に行幸した砌同國の海兵團を視察した時カイゼルは眞面目に我國の海兵團は二百八十人に一人の中隊長を置く規則な

るが、貴國では斯の如き多人數に對し一人の中隊長を以て差支なきかとの質問を發したと云ふことである。獨逸は中隊の編成には最も重きを置き、決して間に合せをやると云ふやうなことはしない。獨逸は憲兵でも巡査でも消防でも凡て軍隊組織で中隊より編成され中隊には必ず中隊長がある。單り軍隊が戰爭本位なばかりではなく、此等の消防巡査等に至るまで凡て戰爭本位の組織である。又國内には平時使用せざる鐵道を敷設し草茫々として狐狸の住家となつて居るが一旦戰爭が始まれば此の鐵道を利用して軍隊及糧食の輸送をなし、忽ちにして有用なる軍事機關となるのである。又最近に於ては四萬輛の自動車を使用して軍隊を自由に輸送して居るとの記事を新聞で讀んだが、從來自動車は獨逸よりフランスの方が遙かに多數を有して居つたのであるが、獨逸は近き將來に於て戰亂の勃發すべきを豫感してか、政府は努めて自動車を増加せしむべき方法を講じ田舍の乘合馬車の免除を許可せず、可成自動車を使用せしむる方策を取つたので、數年前余が獨逸に赴いた當時も、田舍の乘合馬車は多く自動車に變じて居つた。而して今回の戰爭の勃發した以後も、獨逸は盛んに自動車の製造をなし、遂に右の如き無數の自動車を戰爭に利用したことゝ思ふ。

▲レコードを破れる潜航艇の活躍

斯くの如く速急の間に戰爭に必須なる需用品を準備することの出來るのは一は全く化學工業の著しく發達してゐる點に歸著するであらうと思ふ。尚一言すべきは獨逸の演習は全く他國と其の趣を異にし、現役のみならず豫備兵をも召集することである。又戰爭が始まつたからとて艦隊司令長官を變更することはない。然るに日本では日露戰爭の起るや全く司令長官としての經驗ない者を聯合艦隊司令長官に任命した如きは策の最も拙なるものである。東郷の成功したのは全くの僥倖と謂ふべきである。戰時司令長官を變更する如きは歐米諸國には殆ど類例のないことであらう。

獨逸が今日の如く強いのは、商工業が兵事と共に進歩發達してゐることも一因であらうと思ふ。而して斯業の進歩は一に教育の然らしむる時であらねばならぬ。商業大學が世界に先だちて設立せられ、各種の實業學校が無數に存在し、保姆學校下女學校等に至るまで設けられ、教育の設備に於ては間然する所ない一事に徴しても之れを知ることが出來やうと思ふ。彼の有名なる潜航艇エムデン號が獨逸本國を離れて遠海に出没し、克く敵國の商船移動の有様を諜知し、軍艦の在らざるに乘じ巧みに之れを奇襲して効を奏し暴威を東洋の海上に逞しくし又は南洋に於ける英艦隊の虚を襲つて一擧奇勝を博し又近くはルシタラア號を敵國の海中に撃沈せる如き、人をして其の通信機關の甚だ巧妙なるに驚倒せしめたのであるが是等の敏捷奇抜なる行動は、其の機關の巧妙なるは元より當然ではあるが、又一面官民一致協力して事に當るの精神に依ることは、今日軍需品糧食を密輸入することの如何に巧にして容易に缺乏を告げざるのを見ても想像し

得らるゝのである。

▲根本は人間に在り

併し余は思ふに、獨逸が強いと云ふ根本の理由は、是等の施設及學術發達の力よりも獨逸民族其の者の偉大性である。獨逸人は人も知る如く如何なる困苦萬難にも堪へ得る國民である、事を爲すに當つては上下一致協力して其の成功を期する國民である。又規則規律を重んじ、オーソリテーに對しては絶對の服從をなし、上官の命令等は決して違反することがない、故に物事をなすに當つても凡て規律正しく秩序整然として一糸紊れざるの觀がある。權威ある學者技術者等の創見發明に對しては全く之れを尊重信服し、執拗に熱心に研究を怠らない。又政府の方針については決して不平を云はず、國家の爲め國民の爲めならばどんなことでも忍んで服從するのである。人間としては獨逸人はむしろ愚に近い方であらう、併し是の愚が却つて權威に服從し命令を遵奉し一致協同して事に當るの精神を涵養するに至つたものであらうと思ふ。我慢執着、服從は獨人の特有性とも云ふべきであらう。軍隊が風紀肅然士氣大いに昂り、寸毫の間隙なき其の訓練振りは實に見上げたものである。かく士氣を鼓舞することは、カイゼルが苦心慘憺の結果ではあつた。所謂カイゼルの軍國主義、世界政策は國民全體に深く〱鏤刻され、それを實現するが爲めには如何なる犧牲も敢て惜しむ所ではなかつた。カイゼルの威力命令が如何によく國民に行はれて居るかは之れを以て想像することができやう。

獨逸人の愛國心はどうかと云ふに、日本人の愛國心とは全く其の趣が異つてゐる樣に思ふ。彼等の愛國は前にも云ふ如く獨逸國民が世界の支配者たるべしと云ふ一のプラウドから起つた國家的觀念の表現である。自己の國民を保護し國家を熱愛するの念は實に熾烈なものである。又獨逸人は其の勇猛なる點に於ては些か缺くる時ある樣に思ふ。

之れを要する獨逸國民の強大なる所以は一に其の國民性の然らしむる所であるが、其の偉大なる國民性が一結して一の大野心大抱負の目標の下に敢然として勇往邁進した所に其強大を實現することが出來たのではあるまいか。

▲一人一ヶ月の平均所得 （高橋秀臣氏調査）

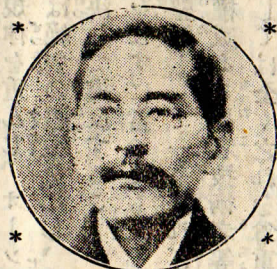
國	所得
英國人	二十九圓七十三錢
佛國人	二十七圓〇九錢
米國人	二十五圓四十一錢
獨逸人	十九圓四十四錢
伊國人	十一圓〇四錢
露國人	六圓三十六錢
日本人	五圓九十七錢
支那人	二圓二十五錢

▲一人一日の平均所得 （高橋秀臣氏調査）

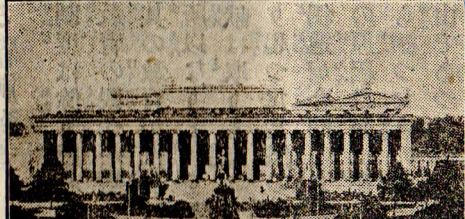
國	所得
英國人	九十九錢一厘
佛國人	九十錢三厘
米國人	八十四錢七厘
獨逸人	六十四錢八厘
伊國人	三十六錢八厘
露國人	二十一錢一厘
日本人	十九錢九厘
支那人	七錢五厘

十二、獨逸の思想教育の哲學的基礎

東京音樂學校長　湯原元一

▲哲學思想の感化

獨逸は單り其の教育に限らず何事も根本的である。是は一面輕快を缺き機敏を缺くの弊害に陷り易いが、他面には大なる眞理が伏在してゐる。獨逸人は何事にも必ず學理の應用を基礎としてゐる。此の根本的學術的なる獨逸國民の特性は何處より得來たのであらうか。余は之れを以て獨逸の國民性が與へた賚であらうと思ふ。思想學術の方面に於いては、カント、ヘーゲルの哲學思想が深い根柢をなしたのである。今日のあらゆる獨逸の思想は茲に胚胎して居るといつてもいゝ。其の思想に於ては既に此の如くアイデヤリズムであるが、之れをマテリアリズムに應用しても依然として根本的である。即ち物心二元の兩界に於て一如の根柢的基礎を有するのである。ダーキンの進化論も之れをヘーゲル哲學に敷衍するときは、忽ち獨逸式に化して了ふのである。此の意味に於て獨逸の文明は奥行深く根ざす所堅く依然として其の長を發揮するものと謂ふべきである。

▲根本的なる實際主義

獨逸の教育は此の深遠なる思想に基き形作られたものである。ボーナルロー曾てロンドンに於て演説して曰く、獨人は昔世界第一の理想を重んずる國民であつたが、今や實際を尊重する第一の國民となつた。此點に於て獨人の性格は英人のそれに類似して居る云々」。併し獨逸の實際主義は英國のそれとは面目を異にしてゐる。獨逸の實際的なるは只單に實際的なるに非ずして根本的研究を經たる實際主義である、一時的の便利主義では決してない、其の實際的と云ふ背景には、必ず深き研究があり、根本的基礎がある。ボーナルローの所謂獨逸人を以て根本的なりと云ふ點は一致してゐるが、更に其の根本に遡れば根本的と一時的との差異になるのである。ミュンヘンが生前其の子弟に分擔せしめて外國人に獨逸の教育を知らしめんが爲めに著作をなしたが、彼は其の序文の中に右と同じやうなことを書いてある。『近來獨逸の教育を評して實際的に傾いたと云ふ聲を聞くが、其の實際的に成つた所以は、決して世の所謂實際的にはあらず、實際とかけ離れて思想し考覈するのである』と。是等は畢竟するに、カント、ヘーゲル等の哲學の深刻を受けた爲めである。例へば化學工業が獨逸に隆盛になつたのは、必要に迫られて發達したのではなく、學理を根本的に研究すると云ふ習慣より來つたものである。獨逸の教育の特長は全く其の根本的なるに歸着すると云ふの、大に肯綮に當つてゐると思ふ。今日に於いては全く議論を避けて實際を重んずるの傾向になつて來たが、實際のみを以て事足れりと云ふにはあらず一事を終へれば又一事を力め決して滿足すると云ふことはない。飽くまで徹底せざれば已まない、十二分に研究し考覈して其の成果を擧ぐるに至るまでは中止しないのである。只一時の皮相的の見解に滿足すると云ふことはしない。日本の教育に比較すると雲泥の相違である。日本の如く生徒に閑文字の試驗をすることは全くない。

王立博物館

▲人間本位の教育

然らば獨逸國民は現在の教育を以て滿足してゐるかと云ふに決して然らず、獨逸の教育は未だ理想的に達せずとの聲が起つてゐる。かう云ふ精緻綿密なる考へを以て事に當つてゐるから、獨逸人は物事を疏末にしない、教育ある人が獨逸人は合理的國民なりと評するのは大いに意味のあることであつて獨人を形容するに適切なる言だと思ふ。獨逸人は決して譯の解らないことはしない。萬事に無駄がないからどうしても理屈詰になり易い。一體人を教育するに百人中一人位の屑が出來るのは已むを得ないと云ふのは日本の教育法である。然るに獨逸人の教育法は全く之れと異り、百人が百人に完全なる教育を施さなければ滿足しないのである。獨逸は低能兒教育が普及されてゐるが、低能兒は低能兒として役に立つ樣に教育を施す。人を一人たりとも無駄にせぬと云ふ主義方針である。即ち人としての能力を發揮せんことを期してゐる。男女は男女として老幼は老幼としての應はしい用務をなさしむることを心掛けてゐるのである。故に教育に無駄がない。若し教育を施して効果が擧らなければ改革に改革を重ねて其の効果の顯はるゝまでそれを繼續する。例へば小學校の義務教育は八年であつたのを、更に二ケ年を增して十年に改めた、教育の普及の爲めには金錢は殆ど問題ではない。金が缺乏すればこれを調達しても飽くまでやる。かう云ふ方法で教育は一日〳〵と新しき思想新しき研究に進み、以て遺憾なからんことに力めてゐる。教育制度の如きは抑も枝葉の問題であつて要は只人間の如何に在る

教育者其人の考も大いに見上げたもので、一事をなせば其の目的を達するまで繼續し、時間がないとか金がないから中止すると云ふやうなことはない。善と信じた所のものは何處までも遣り通すのである。

▲偉大なる精神教育

余は獨逸の敎育制度は餘り感心しないが、國民の精神敎育の觀念が實に偉大だと思ふ。是れ其の敎育が世界に多大の貢献をなした所以なりと信ずるのである。是の貢献は取りも直さず國民の根本的思想より起つた當然の結果ではあるまいか。獨逸が今回の大亂に強いのも其の根本の原因は茲に在ると思ふ。此頃青島から歸つた人の話に、青島の附近は元禿山であつたが、獨逸人が居住するやうになつてから、土質氣象等を十分に研究し各種の樹木を植ゑ、今や東西兩洋の樹木繁茂し昔日の禿山は欝蒼たる深林となり諸鳥獸類が生棲するに至つたと云ふことである獨逸人が飽くまで學理的に根本的に大成を期すること概ね此の類である。

▲個人主義と愛國心

獨逸は元來個人主義の國民である。町村に於いても自由主義を實行し、個人の權利人格を尊重して居り、個人思想がよく發達してゐる。ルーテルの如きは獨逸國民の代表的人物であらう。宗敎もゲルマンの氣風を帶んでゐる。獨人は小兒も老人も凡てカントの血が流れてゐる樣に見える。此の個人思想と愛國心とか結合して獨逸民族の偉大性を表すものではなからうか、獨逸の作り上げた文明は他國にない文明である。此の文明は獨逸國民の至寶である是は獨逸人でなければ進步し發達せしむることの出來ない文明である。此の國家の至寶を保全せんが爲めには他國と干戈を交へなければならない運命に立至つたのである。獨逸の愛國心とは即ち此の獨逸文明を熱愛し渴仰する心である。獨逸の碩學ハルナック氏は獨逸文明は他に其の比儔を見るべからざる文明である。即ち文化を保護し發揮する精神を養ふ所の文明であると云つたが、此の思想は最も克く現代獨逸を代表するものであらう。此の文明を愛するの心、文化を保護し發揮するの觀念はやがて、鄕土を愛するの精神ともなるのである。

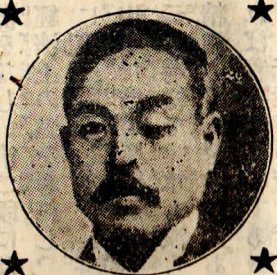
▲現代の代表的偉人

青年の敎育も飽くまで徹底的である都市は勿論地方にも到る處青年會なるものが組織せられ、極めて組織的に青年の敎養に努めてゐる。而して此の青年會を統率するものはカイゼルである。總司令官のゴルツ元帥は本部の會長である。此の青年會では、時々名士を召聘して講演會を開き、頗る旺盛なるものである。其他國民敎育と云ひ、軍事敎育と云ひ、貧民敎育と云ひ獨逸の敎育は實に世界獨步と謂ふべきである。其の思想一貫し其の內容充實す。名實相伴へるものと云ふも過言ではあるまい。而して獨逸は單り敎育のみならず思想藝術音樂に於ても亦世界隨一である。今盛んに世界に歡迎されつゝあるオイケンは其の藝術的氣分ある學者としては代表的であり、又ヴント、ハルナック、ヘッケル、オストワルド等

の學者は現代獨逸の代表者であり誇りである。要之獨逸の強大は全く其の國民性に在ると思ふ。獨逸は此點に於て偉大なる國民である。學術を尊重し思想を尊重し之れが研究の爲めにはあらゆる蘊蓄を傾けつくして吝まない。かくの如き國民は全く他に其の比を見ざる所である。

十三、余が獨逸人に見たる勤儉素朴の生活

早稻田大學敎授　安部磯雄

▲精刻なる研究

私が獨逸留學當時、獨逸國人の性格に就いて他の英米諸國民と全く異なれる一の大なる特色を感得した事がある。其れは彼等が學問に對する態度の極めて忠實なる點であつた。當時同じく留學して居つた先輩が私に語るには『獨逸人は實に學問に對しては忠實で、英米人の如く學問と云へば直ちに之れを實用化して仕舞ふ樣な事はない。勿論獨逸人とても實用と云ふ事に考へ及ばさぬ譯ではないが、學問其のものを最も尊いものと考へて居る。彼等の學問に對する心持ちは、恰も日常缺くべからざる用品を備ふる如く、更に進んで一年に一回乃至二回位使用するに過ぎぬ道具とか或は金屛風を備へて居る如く、獨逸人は實用向以外に學問其のものを尊んで居るのである。從つて研究が極めて深遠にして他國民の企て及ぶべからざる新らしき發見發明を爲すのである』と。如何にも其の通りであつて、彼等は何か一つの問題を捉ふるや解剖に解剖を加へて研究の盡くるまで之れを續けて行く。斯くの如き有樣であるから獨逸人がホンの一疋の虫について尨大なる冊子を作る事敢へて珍らしくないのである。苟しくも大學の敎師にして、何か人と全く異つた然かも價値ある獨創的の意見を發表する位でなければ大學敎授として一向尊敬されぬのである。之等の事は今日より十年前の事である

▲萬事が科學的

然らば今日の彼等が學問に對する態度は如何であるかと云ふに、二十年前の態度とは自から異なるものがある。彼等は斯くして學問其ものに極めて忠實なる研究的態度を取つて來たので、彼等の研究せる學術は確固たる基礎を作り、其れがため一切實用に供せられて誤りなきに至つた。今日に於ては萬

事萬端を科學的に處すると云ふ形となつたのである。此の事が獨逸の最も偉大なる特色であつて、又獨逸の強い主要なる原因であると思ふ。彼等が何か一つの事業を起す場合には、先づ其一段として事業に關する萬事を科學的に有らゆる方面から調査設計をなし、第二段に及んで經濟上の點を考料し、最後に第三段として、其事業の出來た結果影響を考へると云ふ有樣で、水も洩らさぬ精細の研究を俟つにあらざれば着手せぬのである。而して此等の三段を遺憾なく研究して、之れならばと思ふや直ちに實行に取り懸かるに躊躇せぬのである。であるから、獨逸人の事業は必ず成功する。

▲學術の實際的應用

小さな問題ではあるが、都會の公園などの設計は極めて巧妙なるものにして、伯林に有名なるチール、ガルテンと云ふ公園があるが、其中には大森林があつた。時々伐木をなして市の費用となし、池には舟を浮べて遊覽者より舟の貸料を徵收し、大なる圓柱を設けて之れに廣告せしめ廣告費を收め、便所を設けて稅を徵收するなど拔目のない經營法を實行して居るので、公園費の七八割は此等の諸稅を以て補ふ事が出來る樣になつて居る。又下水の如きも伯林は世界一の理想的設計をなし、伯林から遠く離れたる田舍に廣大なる土地を購ひ其處に下水を導き農產物を盛んに作るので、下水費などは殆んど此農產物の賣上費を以て事足る程である。斯くの如く驚くべき程の用意周密なる科學的處置を實行して居る。

ベルリンのチーガルテン

聞く所によれば今回の戰爭が勃發するや、政府は直ちに大學の教授に向つて食糧問題に就いての意見を專門的に訊ねたのであるが、直ちに專門的の立派な報告が澤山集つたとの事である。從來は學問は學問として研究したのであるが、今日に於ては學問は實際的となり專門的となり、從つて戰爭も凡べて科學の基礎の上から行つて居る。獨逸の強大なる主要の原因は實に此の點にありと思ふ。

▲勤儉粗朴の生活振り

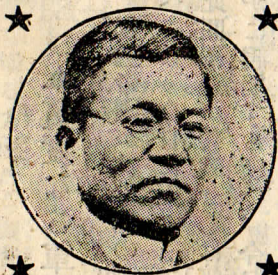
次に今一つ獨逸の強い重要なる原因とも見るべきは、彼等の勤儉粗朴の生活にあると思ふ、私が伯林に居つた當時、印度にて二十年以上も宣教師の生活を送つた事のある老牧師の家に寄宿して居つたが、彼等の質朴の生活には

全く驚いた。私は下宿料を支拂ふので每日肉を出したのであるが、彼等は一週間に二回位の肉食をするのみであつた。而して肉の汁は之れを翌日の芋を煮る料として殘し置くと云ふ有樣である。又私の友人で、地位のある人であつたから、獨逸知名の士と交際を結んで居つたが、其の友の語る所によれば日本に歸る時に樞密顧問の人に暇乞ひに出かけた。然るに晚餐を喫するから是非來いとの事で夕刻其家を訪れた。が食卓に上りし御馳走如何と見れば、驚く勿れ、魚一皿、肉一片と黑麵麭のみであつた。然かも子供には肉など與へぬので、無邪氣なる子供等は欲しがると、父なる樞密顧問は目にて叱ると云ふ有樣であつたので、何うしても食ふ氣になれなかつた。主人は君は黑麵麭は嗜好に適せぬからと云ふて、ボケットから金を出して小供に白麵麭を買ふべく命じた。』と。獨逸人の粗朴なのに驚いたと語つた。然し同時に友人は私に語つて、獨逸人を稱讚した。其れは其樞密顧問の職にある人は二人の子供があるが、子供に對する教育の熱心には又感心すべきものがある。學校教育を受けさすのみならず。家庭には別々に二人の家庭教師を招いて子供の教育に全力を注いで居つたとの事であるが、此點は實に獨逸人獨特の美風であると思ふ、今回の戰爭についても、獨逸人は衣服に又食物に他の歐洲交戰國民の如く贅澤でないから、如何なる苦境にも堪へ得るのである。獨逸國が四方から敵に包圍されながらも尙且優勢なるは、實に彼等の國民性の科學的であると云ふ事と、粗衣粗食に甘んずるの性に由る所大なるものであると思ふ。

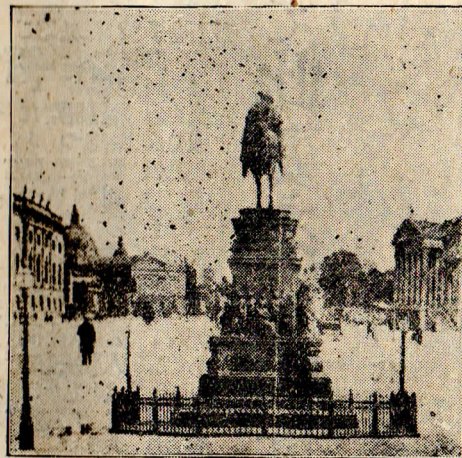
十四、此夫にして此妻あり此母にして此子あり

前代議士　早川鐵治

▲質實なる軍國主義

獨逸帝國が英佛露の列強と干戈を交へてより今日に至るまで殆んど一ケ年此間獨逸が善戰せしは既に事實の明らかに證明する所で、今日に於ては獨逸の偉大なる力を何人と雖も認めざるはなきに至つた。最近に於ては伊太利も蹶起して聯合軍側に投ずるに至つたが之れが爲めに多少の打擊は蒙る事あるとも、獨逸が直ちに敗を取るに至ると觀察するは尙早計なりと云はねばならぬ。何故に獨逸は斯く強きか。と云ふ問題は之れを一概に論ずる譯には行かぬ。其れには幾多の原因があるのであらうが、若し何物が其原因中の有力なる原因であるかと云へば、我輩は一言以て答へるのみである。即ちフリード

リッヒ三世以後の名君賢相が夢寐の間も忘れずに踏襲し來たれる、質朴なる軍國主義と云ふより外はないと確信する。

▲百年前の獨逸

元來獨逸は他の歐洲列强國に比して問題とならぬ程微弱な國であつた。獨逸の霸權を掌握して居るプロイゼンが其昔ブランデンブルグの大名として北歐に蹶起したる當時は其勢力實に微々たるものであつた。近くは今より百年以前フリードリッヒ三世がナポレオン一世の爲めに苦しめられたる當時の慘憺たる有樣は到底吾人の想像に及ばざる所である。卽ちフリードリッヒ三世は初めナポレオンの銳鋒に當る事を痛く恐れて、歐洲大陸は戰亂の巷と化して居つたにも拘はらず、局外中立の態度を維持して居つたが、遂に一八〇六年ナポレオンに對して宣戰を布告するの止むなきに至つた。果たせるかな、同年エナの戰に於て一敗地に塗れ、伯林、ポツタム相次で陷落し、非常なる敗戰の屈辱を受け、翌一八〇七年のチルシットの平和條約後に於ては、常備軍を制限されたるのみならず、一億萬圓餘の償金、並びにライン河とイルベ河との間の領土を分割せられ、殆んど再起すべからざる程度の打擊を蒙つたのである。

フリードリヒ大王記念像

▲軍國主義の端緒

此國運の一大危機に際して獨逸國民は如何にして此恥辱を雪がねばならぬかと云ふ事に考を廻らさゞるを得なかつた。フリードリッヒ三世は國家の隆盛を圖るには一つに教育の力に俟たねばならぬ。而して國民の生活は勤儉尚武の主義を文字通りに實行せねばならぬとなし、之れを以て永遠の國是となすに至つた。獨逸の軍國主義は實に此時に其端緒をなしたものと言ひ得るゝのである。今日世界の最高學府として謳はれて居る伯林大學の如きは實に當時の創設にかゝつたものである。而して此主義を最も力強く主張したるものは政治家のスタイン及哲學者として有名なるショウペンハウエル等である。彼等は何づれも異口同音に、獨逸帝國をして將來世界の霸者たらしむるには絶對軍國主義を以て、外部に發展せねばならぬ、之れがためには國民は如何なる犧牲をも厭ふべきに非らずと爲した。而して後代に及びビスマーク、モルトケの名宰相、名將又此主義を固く踏襲し、其結果は六十年後の一八〇七に至つて佛蘭西を一擊の下に擊破し、一擧にして獨逸帝國を建設して、慘憺

たりし過去幾十年の苦辛は十分に酬ゐらるに至つた。

▲獨逸國民の美風

斯くして獨逸帝國の基礎は安全に確立せられたるも、彼等國民は決して過去の慘憺たる歷史を忘れなかつた。其後國民は益々此軍國主義の發展に努力した。學生は健兒の社を立てゝ、尚武の氣風を養成し、今日獨逸國民は、苟しくも紳士と稱するものにして顏面に傷痕なきは紳士としての衿を失ふに至る程である。之れは學生が尚武の美風を養ふ爲めに、盛んに決鬪を行ふ。其行爲の稍蠻風たるの譏は免れざるも、如何に獨逸國民が尚武の氣風を重じ、軍國主義に心醉して居るかを窺知するに難からずである。又他の一面に於ては勤儉の美風を涵養するに努めて居り、衣服の如きも、中流以上の紳士すら尚年中脊廣一枚にて生活し、季節に應じて下着にて溫度の調節を圖ると云ふ有樣である。斯くの如き主義を以て萬事を推して行く所に他國民の學ぶ能はざる獨逸國民の强味がある。獨逸國民が如何に偉大なる國民であるかは。是等の些々なる氣風を觀察するのみにて既に驚嘆すべきものがある。

▲婦人も亦勤儉尚武

男子に此美風あると同時に、獨逸の婦人にも亦他國民の到底及ばざる美風がある。彼等は粗衣粗食に甘んじて、男子に劣らざる働きをする。從つて健康狀態も極めて良好にして思想も堅實である。其結果子女は何づれも健康にして發育も良好である。斯くして第二の健全なる國民は健全なる婦人に依つて教育されて居るから、獨逸國民は年を逐ふて健全なる發達を遂げつゝある。更に獨逸婦人の偉大なる點は、男子をして常に尚武の美風を涵養せしむる事に努めて居る。彼等婦人は徵兵檢査に合格せざる不健全なる男子に對しては一種の侮蔑の眼を以て迎へ、婦人と云ふ婦人は軍人を最も尊敬し且其の妻たる事を欲して居る。我輩が曾つて駐獨公使館在職當時に美少年の給仕を使用して居つた。附近の婦人は其美貌に惑はされ五月蠅く付け纏つたものであつた。然るに徵兵適齡に及び齒の惡しきため不合格となるや、婦人の態度は直ちにして一變し、之れを顧るものなきのみか、甚しきに至つては非常の侮蔑を蒙る事さへあつた。此一事、些々たる一事に過ぎぬが、如何に獨逸國の婦人までが尚武の氣風に富めるかを證明するに十分である。

▲日本は第二の朝鮮か

然るに維新以來の我が國教育は夥しく主知的色彩を帶び德育體育の二方面は漸く看過せられんとする傾向なしとせず、殊に相當の學識教育あるものが却つて日本傳來の武士的精神から遠かつて行く傾向がある。此間に在つて下層社會の浪花節、義太夫等が僅かに武士道の鼓吹に努めて居るの有樣ではないか。維新以後僅かに五十年、然かも今日の武士道の氣風廢頹を見る。果して然らば今後五十年經過したる日本の有樣は如何と云ふに、我輩は多く言ふに忍びざるの感なき能はずである。願くは第二の朝鮮支那の轍を覆まざらん事を切望して止まざるものである。

ガイゼル周圍の人々

―(口繪の說明)―

カイゼル・ウヰルヘルムの銀婚式に際して、帝の無限の鴻業に對して捧げられた讃美の聲は數多い。中にも帝が自身の國家を列強の頂點へ導くに努めた、過去廿五年間の追想を籠めたのは、帝を『獨逸商會總支配人』と稱した一語である。世界は帝の奕々、殆ど萬花鏡に似て、往くとして好からざるなき人格を見るに慣れ、遂には世を擧げて、獨逸帝の非凡な發展の立作者と目するがやうな傾向がある。然しながら、獨逸の發達は一人の以て能く成し得た業ではない。極めて少數者の聲名のみが海外に聞えてゐる他、尙ほ多くの、近代獨逸の建設者が匿れてゐる、多年『紐育タイムス』及び『倫敦デイリー・メール』の伯林特置員たるフレデリック・ウヰリアム・ウヰレー氏の名著『カイゼル周圍の人々』は、これら最近の『チコトニック士爵』卅二名に關する性格と事業とを最も鮮明的確に描寫してある。

獨逸の國務を指導した、過去現在の政治家中から、ウヰレー氏は特に、千八百九十八年以來、帝國海軍大臣たり、『カイゼルの艦隊の眞の創設者』たり、且つ將來の首相たるべきアルフレット・フォン・チルピッツ大將を初めとし、帝國の首相にして、哲學者たり、且つ『皇帝に對する忠僕』たるジーオバルト・フォン・ビーツマン、ホロウェッヒ博士。第四次の首相にして『獨逸が議會を有して、然も議會政治を有せざる間、外交の衝に當つてゐた』外交政治家ベルンハルト・フォン・ビューロ公。圓滑な外交家、老練な政治家で、殊に禮讓、勤勉、典雅を以て名あるヘル・ゴッツリーブ・フォン・ヤゴー外相。ヤゴー外相の後繼者で、敢爲、直言、曾て各種の國際問題にたづさはり、モロッコ事件に關してフランスを強迫しようとして失敗したフォン・キーデルレン、ワェヒテル。獨逸社會改革者の先覺で、社會法案の立定者たり、チュートニック貴族共和黨の建設者たる伯爵アルッール・フォン・ポサドースキー、ヴェヒネル博士。駐英大使にして、他の在英獨人に優つて最も好く英國と英語とを解すと云はれてゐるカール・マキシミリアン。リッヒノースキー公、屢々獨逸在つて以來の名外交家と呼ばれ、コンスタンチノープルに拔く可からざる獨逸の勢力を扶植し、後に大使として倫敦に駐任中、病を得て薨去したマーシャル・フォン・ビーベルスタイン男爵。華盛頓に駐米大使たり。『近世獨逸外交家の最高型を代表』し、倫敦に生れて『いかなるアメリカ人よりも達者に英語を話せ』て、『獨、英、米三ヶ國間の一致、友情』を唯一の理想とするヨーハン・フォン・ベルンストルッフ伯。伯林大學の歷史の講座を擔當し Preussische Jahrbücher 誌の主筆たり、又『大獨逸主義の熱烈な使徒』の一人たるハンス・デルブルック教授。名聲嘖々たる海軍同盟の總裁にして、老練な海員であり、祖國海軍建設者の一人として知られてゐるハンス・ルードウイッヒ・フォン・コエステル元帥。成功せる第一次の植民卿で、銀行家で、太貿易商たるベルンハルト・デルンブルヒ。元帥陸軍大將にして、軍隊監察長官たり、獨逸の陸軍力は勿論、世界各國の陸軍編成者として名高く、普佛戰役の老勳、陸軍の諸問題に關する書籍、の著者たり、他國との交戰に際して常に野戰の司令官たるフォン・デル・ゴルッ男爵等を推薦讃美した。

けれ共、獨逸を偉大ならしめるに與つて力のあつた人々は、これら政治家、軍人、執政官以外にも多々ある。『廿世紀に於ける絕大獨逸』とは、カイゼル自身が、古稀の大發明家フォン・ツエッペリン伯に與へた稱號である。ハンブルヒ、アメリカ汽船會社の總支配人たるアルベルト・バルリン氏は、カイゼルから、『獨逸の商業と貿易業者中一等先見の明ある不眠不休の開拓者』であると稱せられた。獨逸銀行の上級重役で『此帝領中最高の財政家』であり『獨逸産業界の最大船長』の一人であるアルツール・フォン・グウキンネル。アルゲマイン電氣會社の社長で、斯界に『皮手袋にも比すべき興味と感化』とを有し、『殆ど軍隊と同じ大組織を有し若しこの團體を無視すれば獨逸は今日あるを得なかつた』ほどの力を持つてゐるエミール・ラジノー氏。議會に於ける社會共和黨の首領にして、生れついての術數家たり、『世界中で最も善く訓練された』獨逸社會共和黨の將星たり『若し獨逸に今のやうな雜駁な連中に代つて本當の內閣が出來れば、屹度カイゼル反對黨の指導者になるであらう』『オーガスト・ビーベル氏。農民黨の領袖で、『プルシアの無冠の王』たり、少數の保守黨たる農民の指導者として、凡ゆる反對に屈せず、一七深く政府に迫るエル、スト・フォン・ヘーデブラント博士。獨逸日刊中最も優勢な「ベルリネル、ローカル、アンジーゲル」の創刊者兼持主たり、兼て近代獨逸新聞の創始者たるオーガスト・シェルル氏。獨逸製鋼業界の巨星にして、祖國を産鋼國として歐羅巴に紹介した第一人者であり、歐羅巴大陸に『アメリカ主義』を宣傳し、遂に獨逸のカーネギーとして知らるゝに至つたオーガスト・ザイッセン氏。及びガスターフ・クルップ・フォン・ボホレン氏に加ふるに、大砲女王として知らるゝその令夫人がある。藝術家、劇場主、作家等の中にもその功業以て祖國今日の大を飾らしめた人々がある。ウキレー氏は獨逸の舞臺を管掌して、海外の尊敬を注めるほどの立派なものにしたマックス・レーンハルト氏を初め、優秀な作曲家で『この大陸無双のオ

獨逸皇太子フリードリッヒ親王殿下

ーケストラ指導者』としてのリチャード・ストラウス氏。革命的畫家で、その伎倆今が盛りのマックス・リーベルマン氏。變通自在、奇才縱橫、辛辣を極め、『不滿足な獨逸が毎週吼え立てる蓄音機』ともいふべきZukunftの主筆たるマキシミリアン・ハルデン氏。『獨逸文學に一新紀元を造つた』著者、戯曲家、哲學者、兼てノーベル賞金を贏ち得たハウプトマン等の事業をスケッチしてゐる。

獨逸の科學は、この貴重なる一卷に於ては、藥學界の大發明家で、獨逸から『閣下』の尊稱を受けた初めての猶太人、ポール・アールリッヒの事業の描寫を以て代表せしめられてある。

最後に、カイゼルの宮廷同勞者たる、帝の御弟、獨逸海軍監察長官、位階局長、兼ホーヘンツォーレルン艦隊司令官たるプルシアのヘンリー親王と、獨逸陸軍の偶像である皇太子フレデリック・ウヰルヘルム親王とが描かれてある。フレデリック・ウヰルヘルム親王は、果していかなるカイゼルとなられるであらう乎。ウヰレー氏は、その日、その時今の皇太子は必ずや臣僚の先驅者たるべき英明の君主となり給ふべしと推論し、その證據に氏は、皇太子の『予の狩獵日記』中に手記せられた左の一句を引用してゐる。

『予は予の聖なる祖先、フレデリック大王の箴言を信奉する。そして、大王と共に、國民各がそれぐ〜その好む道に從つて、幸福と救とを享くることを許さねばならぬ、といふ事を承認する。』

更に獨逸の運命は、國望の背後の一勢力たる、マキシミリアン・エゴン・ヅ・フルステンベルヒ親王によつて守護される。彼は『カイゼルの快活な友人で、帝の喜びを頒ち悲を侶にする分身』である。

以上は、平和に於て、商、工、貿易を、軍事に於ては、大英國は海上權を掌握しつゝあるに對して陸軍の勢力を、共に世界列强の第一位に推し登す爲めカイゼルを助けた重なる人々の名前である。

カイゼル、ヘンリー親王、及び皇太子は何れも共に太く此書――『カイゼル周圍の人々』――を嘉納あらせられた。三方共に、著者から書物を受納せられ、三方別々に直筆の禮狀を著者に賜はつた。

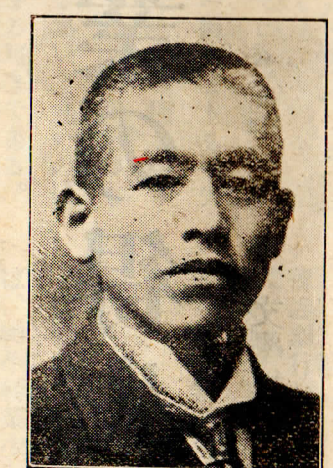
獨逸皇弟ヘンリー殿下

列國の富力

（高橋秀臣氏調査）

國名	富力
米國	二千八百〇四億二千三百四十三萬九千〇三十四圓
英國	千六百四十二億五千四百九十一萬三千七百六十圓
獨逸	千四百五十三億六千九百二十一萬八千三百二十七圓
佛國	千二百九十七億〇四百九十萬四千四百九十圓
支那	千〇六十一億三千三百二十五萬三千九百五十七圓
露國	千億〇二千六百十六萬五千九百圓
伊國	四百三十億〇八千四百八十萬圓
日本	三百七十五億二千三百四十七萬六千六百五十五圓

文明的商人壹百人（其廿一）

綿花商（大阪）西松喬君

◎官尊民卑の熱度高き明治初年、卒業して直ちに洗濯屋を開業した非凡人があつた。此人こそ現今大阪に在つて綿花直輸入業をなし、關西に覇を稱へてゐる西松商店主西松喬君その人である。

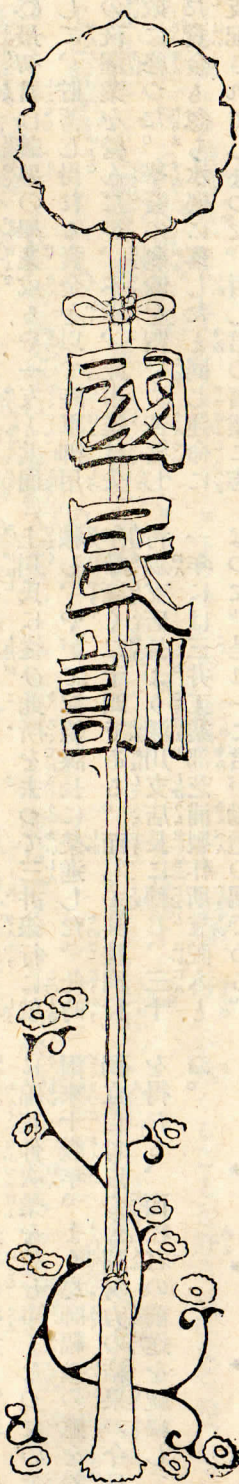
◎君は慶應元年美濃國大藪町に生れ、十八才の時京都に出で、次で慶應義塾別科に入り、二十年に義塾を卒業した。君の手には此時既に、在學中の貯蓄積つて、小商賣を爲すに足る小資本が握られてゐた。君の用意の凡ならざるを見る可きである。

◎最初君は義塾の學業成るや一友と共同して、貯蓄し得たる資金を以て陸軍御用の洗濯業を營んだが、不幸、此事業は失敗に終つた。學資の剩餘を割いて苦蓄した資金も忽ち水底に落したと同じ運命に支配されてしまつた。併し君の實業に志した決心は是が爲めに破られる事は無つた。再起の熱望を胸中深く秘めて、君は知己にして、一代の豪たる中上川氏の紹介に依り三十三銀行の飜譯係となつた。

◎其後再び中上川氏の盡力に依つて、山陽鐵道會社會計課に入り、暫時にして中上川氏に從ひ此所を去つて三井銀行に就職し、やがて記錄課長に榮進した。此時年齡漸く二十四である。而して其後同行青森支店長より深川支店長に轉じ、三十一年には三井工業部芝浦製作所支配人となつた。是れ一に君が勤勉の賜である。

◎斯くて三十二年に至り、君の抱負の實現さる可き機運は巡つて來た。即ち綿花商界の覇王日比谷平左衞門氏の小僧たらんと望み、數月の後、君は芝浦の支配人の好職を擲ち小僧の風姿となつて日比谷氏を訪れ、其決心を見拔かれて終に橫濱支店に使用される身となつた。支店長の好地位を捨て、一小僧となる事は到底凡人の企て及ばざる所である。君の抱負の那邊に在るかは是を以ても知らるゝであらう、今時の青年は之を何と感ずるか。

◎三十三年日比谷商店の神戸支店大損害を蒙りたる時君は是が整理の任に當り。將來其支店長たらしめんとするを聞くや「他日獨立自營をせん爲め余は今日の苦痛を忍ぶもの也」と固く是を辭した。茲に於て日比谷商店は君の爲めに西松商店を大阪に開いて吳れた。君は此時始めて實業に對する最初の抱負を實現して、茲に綿花仲次業を營む事となつたのである爾來十數年、よく恩師福翁の意を體して獨立自尊以て奮鬪努力の結果の今日あるを得たる、西松君の前途を祝福して已まぬ。

* * * *

轉學轉業の得失

文學博士　三宅雄二郎

◎轉學轉業は大體に於て惡し

轉學轉業は大體に於て善くない事になつて居る。何でも續けて惰力を利用するが最も力の經濟である。車は曳き出す時に力を要し、曳き出して了へば僅かの力で動いて行く。曳き出しては止め、曳き出しては止めては、無益に力を費して草臥れて了ふ。如何に惰力を應用す可きかは、事業に從事する者の殊に注意すべき所である。

學校に行つて面白く無く、他の學校へ轉ずる。士官學校へ入らうか、高等工業へ入らうか、高等商業へ入らうか、米國へ行つて勞働しつゝ學業を修めやうか。いろ〳〵と考へて豫備校を變ずるうちに、何も修むる事が出來ないやうに爲る。いろ〳〵と氣の變るのは學生の禁物である。

職業に於ても、古雜誌を大道に並べたり、飯屋を開いたり、株に手を出したりして居るうち、高利貸に責められたりする。石の上にも三年、何でも初めた事は成績の見えるまで續けるに越した事が無い。

◎轉學轉業の得失は心掛け次第

處が、之は大體に於て言ふ可きであつて、誰れでも皆斯くあらねばならぬと極める事が出來ぬのみならず、場合に依つて轉學轉業を必要とする事がある。

人は性分で違ひ、生れ付き鋭敏なのと、生れ付き遲鈍なのと、一樣に取扱ふ事は出來ず、生れ付き次第で、變化する程力の現れるのもあるが、多數の上では、轉學轉業の得失は主として心掛け如何にありとする。

◎不適當と知らば仕事を變へよ

途中で變化して惰力を失ふのは確かに損失であるにしても強いて不適當なる事に從事するのは、其の損失よりも損失が大きい事がある。不適當としたならば、早く居る所を變ずるに如くは無い。丸いものが四角の中に居つたり、四角のものが丸い中に居つたりするのは双方の利益で無い。丸いのは丸い穴に收まり、四角なのは四角な穴に收まる可きである。

初め樣々な事情で志を立てるが、實は其の志が身に不適當なりと後に知らるゝ事がある。不適當なるが明らかであつて、猶ほ之に從事せねばならぬ程、不利益な事は無い。不向きと思ひ、嫌々ながら從事して、思はしい事が成る可きで無い。

◎咎む可きは薄志弱行

政治志望で地方から東京に出ても、醫科が適當であり、理科が適當であるとしたならば、斷然變る可きであり、醫科志望であり、理科志望であつても、己れに不適當であるとしたならば他に轉ず可きである。唯、何が我が身に最も適當であるかは直ぐと解らず、あゝでも無い、斯うでも無いと迷ひ、迷ふたり惑ふたりするのが癖となるのが恐る可きである。

現在の狀態を變ずるのが、我が身に適不適を見拔いての事であればそれで善い、困難が前に横はるのを避けやうとする薄志弱行から來て居るのならば甚だ惡い。咎む可きは薄志弱行であつて、轉學轉業で無い。言ひ甲斐無き薄志弱行では、何んなに善い境遇を與へられても何事をも爲し得ずに終る。

◎轉學して學者となつた人々

善い目的を定め、如何にしても之に達しようと努めるならば、轉學轉業少しも咎む可きで無く、却つて其の人の爲めに賀す可きである。

隨分之れまで轉學して學者になつたのがある。植物學者の松村氏は初め法律を修めたのである。歷史家の箕作氏は動物學を專攻して留學し、眼が惡くて顯微鏡での研究に不適當なるを知り、史學に變じたのである。畫家の渡邊氏は佛國で法

律か何か修める積りであつたのが、道樂半分の繪畫を専業とする事になつた。

◎轉業して成功した人々

學者から他に轉じて成功したのも稀れで無い。第一銀行取締役なる土岐氏は、大學で植物を専攻したのである。日本銀行總裁なる三島子は農業のやうな事を學んだのであつて、財政の類を學んだので無い。

今は餘り例の無い事であるが、嘗て故西郷侯が陸軍中將より海軍中將に轉じ、樺山伯が陸軍少將より海軍少將に轉じ、何れも皆海軍大將となつた。今は陸海軍充分に分業となり、飛入り將官は役に立たぬやうであるが、それでも融通する事が出來たならば、轉任して適當なのもあらう。

◎初一念を貫くと轉業と

況して、斯くまで分業になつて居らぬ實業界に於ては、轉業變化、意の儘である。

家代々の職業に就く者は格別、己れ一代で成り上げた者は、初一念を貫いたのと、いろ〳〵と轉業をしたのと何れが多いか。岩崎兄弟の成功は、何程か初一念とも言へやう。早く海運事業に從事したのは、後に三菱會社を有つて半官の運輸會社と爭ひ、之を叩き付けた所以である。それでも、今から見れば、金を作るが主であつて、海運事業が主で無い。今の三菱會社は以前の三菱會社で無い。

◎安田氏、大倉氏、森村氏

安田氏は初一念の金貸業で、彼の如く富むを得た。大倉氏の諸負も幾干かさういふ所がある。併し何を請負ふかとなれば、其の時々でいろ〳〵と變つて居る。鐵砲を請負つた事もあれば、毛布を請負ひ、罐詰を請負つた事もある。

森村氏は輸出入商に於て成功したが、それでも次から次ぎと新らしい事を目論見、尾張の硬質陶器に力を添へ、更に護謨栽培に從事して居る。變化では無いが、少くも新事業を初めたのである。

◎變化で利益を得た澁澤男

澁澤男は、第一銀行で銀行の模範を示し、之が續いて來たが、他にいろ〳〵の事業に關係し、一時指で數へられぬ程であつた。或は無責任と言はれたが、日本實業界の代表者となつたのは、實に腕を能ふ限り擴げたからである。而も、男が嘗て官吏であつた事を考へれば、男は變化で利益を得て居るのである。或は官吏で續けば、現に男爵で無く、伯爵であると言はれるが、伯爵には田中光顯伯、渡邊千秋伯などいろいろあつて、餘り面目でも無からう。

◎變化すべきには變化せよ

一代身上の人は大抵何事にか執着して、之を爲し遂げ居るにしても、いろ〳〵の變化を免かれぬ。成金に至つては、唯だ變化を是れ妙として居る有樣である。機會もあらばと、機會ばかり覘ひ、機會黨の隨一である。元より機會に乘じ、濡れ手で粟を掴まうとして泥を掴み、絶頂より谷底へ落ちたのも珍らしく無い。成功者に比して失敗者の方が多からう、或は遙かに多からう。けれども、其の成功したのは、苟くも機會を見れば、前に從事した所を捨て、新たな位置に向つて突進したからである。變化すべきに變化するのは、成功に缺く可からざる事である。

◎變化と年齡と時勢と

普通で言へば、二十代には幾ら變化しても善く、三十代では用心して變化すべく、四十を越しては適當であつても不適當であつても、何でも變化せずに繼續すべきであると定めて善いが、それとて、時勢が急に變じ來れば、四十以後に進んで風雲を捲き起す事が出來る。クロムウエルは四十まで何の聞える所は無かつた。其儘に過ぎたらば一の百姓とし終つたらう。所が大變亂が起り、彼總大將となつて、内外に權力を振つた。ミラボーも四十まで聞えなかつた、併し、變亂が起ると共に、常人の一生懸つて爲し得ざる所を僅かに二年間に成し遂げ、一の巨人とし現はれ、巨人とし歿した。

變化して可なれば、何程老いても變りは無い。リツトレーの佛語辭典の如き、學士院會員が悉く協同しても出來まいと言はれた所、而も彼は五十を過ぎて獨りで著手し初め、而して物の見事に成し遂た。

◎萬己むを得ずして變化すべし

善い事であり、之を成し遂げる能力ありと信せば、何時でも企つ可きである。もう遲いと思ふやうな事は無用である。別けて、其れ程年老らぬ間は猶更である。然し、或人が斯くして成功したとて、誰れでも必ず斯くして成功し得ると限らぬ、最も安全な道は、初め手を掛けた事を續けて行くにある。途中で變化して成功した者も、初めから其の方針を採り、中頃變化するの必要を感じなんだならば、更に一層成功したであらう。クロムウエルの勃然として起つたのも、それまで自然界で元氣を養ひ、煩瑣なる人事に煩はされなんだ事が與つて居るとも言へる。リツトレーとて絶えずいろ〳〵と事を爲し、充分に手心を知つたので、晩年に大辭典を作り得たのである。先づ成る可く變化せずに思ひ立つた事を續け、萬己むを得ずして變化する事にす可きである。

實驗論語處世談（二）

男爵 澁澤榮一

◎青年子弟の感果して如何

私が論語を服膺して、今日までに其教訓を實地に行ひ來れる所謂「論語處世談」を「實業之世界」に掲載するのを讀まれて、今の青年子弟諸君が、果して如何なる感を抱かれるかは、私の切に知らん事を欲する處であるが、論語の教訓は、單に之を論じたり批評したり、或は又單に之れを難有い貴い教訓なりとして一方の高い處に片付けてしまひ、之を尊敬するのみで過ごすべきものでは無い。然し、兎角、當今の世の中にはかくの如く知と行とを全くの別物に取扱ひ、孔夫子の說かれたところは斯く〳〵であるが、世の中の實際は爾う〳〵聖人の教訓通りに行れるものでは無い、なぞと勝手の擧動に出でらるる人々が多いやうに想はれる。これは、私の頗る遺憾に感ずるところである。

支那にも孔夫子より少しく遲れて、墨翟即ち墨子が出で、兼愛の說を唱へ、又楊朱即ち楊子が現はれ、墨子に反して、自愛の說を主張し、當時支那北方の學者が主として孔夫子の說を祖述せるに對し、南方の學者には、孔夫子に少しく先つて現れた楚の李聃即ち老子の無爲說を祖述する者が多かつたのである。然し何れも學說の上でのみ爭つたもので、之を實地に行つたといふのでは無い、隨つて、無爲說でも兼愛說でも自愛說でも、議論の上からのみならば、如何やうにも之を面白く述べ立て得られるに相違ないが、孔夫子の論語にある教訓は、たゞ議論をする爲に組み立てられた所謂「說」と申すものとは全く其趣を異にし士太夫庶人より下は匹夫匹婦に至るまで凡らゆる階級の人をして實地に躬行せしめんが爲に、說かれたもので、他の空理空論とは其根本の性質に於て異るところがある。故に、孔夫子の說は毫も一方に偏すること無く、先づ「仁」を主とせられてあるには違ひないが、「仁」ばかりでは實地に臨んで去就に惑ふ者を生ずる恐れあるべきを豫め慮られて「仁義」を兼ね教へられ、「仁」と並んで「義」をも說かれたものである。それでも猶ほ、誤解を生ずる者の出づるのを憂ひられたものと見え「仁義禮智信」の五常を以て、人倫の根本なりとし、之を論語のうちには併せ說かれて居る。

◎今の賢者の處世振りを悲む

這個に就ては、曾て法學博士穗積陳重氏も論ぜられた事のあるやうに記憶するが、墨子の兼愛說の如き、一寸聞いたところでは、如何にも面白く感ぜられ、如何にも尤もらしく思はれ、又、そのうちには、或る眞理をも含んで居るに相違ないが、さて之を提げて實地に臨めば往々にして行き詰りになつてしまはねばならなくなる。假令ば、今日の國際上にまでも墨子の兼愛說を演繹めて行はうとすれば、其結果は果して如何あらうか。思ひ半ばに過ぐるものがある。是に至ると、孔夫子が論語に說かれた仁義禮智信五常の道は、之を古今に通じて謬らず之を中外に施して悖らぬ、坐しても行ひ、起つても亦行ひ得べき、實際の處世に最も適切なる教訓であるといふ事になる。

大藏省租税司正勤務當時の澁澤男（明治三年五月）

孔夫子と殆んど同時代の支那に於てさへ、孔夫子の教訓は單に一種の學說として取扱れたほどのものである。況んや、今日の我が邦に於て、之を單に學說の如くに取扱ひ、如何にも結構な教である、といふ丈けで、之を實際に施して躬行する者尠なく、聖人の教訓は聖人の教訓、實際の處世は實際の處世、と別々に分けて考へる人々の多くなつたのも、敢て怪むには足らぬ次第であるが、偶々之を實地處世の上に躬行した人があるかと思へばそれは、多く中江藤樹先生とか或は熊澤蕃山先生だとか——蕃山先生は多少治政の事に關係もしたが——の如き所謂道學先生である。實地の社會とは懸け隔れた人々のみが、論語に孔夫子の說かれて置いた教訓の實行者になつてるのは、如何にも遺憾である。

近頃の實業界などで少し險しく立ち廻られやうとする方々なんかになると、其の根本の理想が全然私なぞと違つて、依然、仁義は仁義で隅の方に押し付けて置き、利はうける事で、全く之を仁義の觀念から離してしまひ、勝手に日常の去就進退を決し、聖人の教や、論語の教訓を其儘實踐

躬行したんでは、到底、今日の世の中が渡れるもので無い。金儲けなぞの能きるものでは無い、事業に成功するなぞは思ひも寄らぬ事だと考へて居られる如くに見受けられる。殊に甚しい方々になると、心は仁義を無視した行動に出られやうとしながら、それでは餘り世間への體裁上面白くない、餘り自利主義の如く見えて、彼是と非難を受ける恐れがあるからとて、自分が孔夫子の説かれた仁義に據らうとする心は露僅かもなくして、却て、自分で勝手な眞似をする行動の方に仁義を引き寄せ、仁義をして自分の行動を辯護させる道具に使ひ、世間の手前だけを繕ろはうとせられる。心から眞に仁義を行はんとする精神無く、皮層ばかりの仁義で世の中を渡らうと致される方が無いでもない。

然し、聖人の道は斯く實地を離れて片隅に押しつけ置かるべき性質のものでなく、錙銖の利を爭ひつゝある間にも、人は仁義を實地に行つて往けるものである。否な、仁義を根本にして商工業を營めば、敢て爭ふが如き事をせずとも、利は自から懷に這入つて來るものである。世の中は總て分業で、學者は學理を研究して新らしい學理上の法則を發見し、治者は政治上に新らしい意見を立て、國家の繁榮を計るやうになつて居る。恰度そのやうに、商工業者は商工業を營んで利を擧げ、孔夫子の論語に説かれてある道に合致してゆけるものである。

◎論語を躬行するに至れる徑路

私は、論語に孔夫子の説かれた教訓は、是れ悉く實踐躬行の爲にあるもので、士太夫庶人より匹夫匹婦に至るまで凡らゆる人の行ひ得、又行ふべきものであると信じ、孔夫子の御精神のある處を身に體し、今日まで之を實地に行つて來た積りであるが、素より不肖の凡夫で孔夫子の如き聖人には及びもつかぬところより、私の一言一行が悉く知行合一であるとは申上かねる。殊に壯年以來、身を磊落に持つ慣習のあつた先輩友人と多く交はつて來た爲に、他に罪を嫁するわけでは無いが、婦人との關係なぞに就て別して、論語にある孔夫子の遺訓そのまゝに行つて參つたとは廣言しかね、及ばぬところばかりで慚愧に感ずる次第であるが、明治六年實業界に身を投じて以來、少なくとも實業の上に於ては、不肖ながら、論語の教訓を其まゝに我が身に行つて來たものと斷言して憚らぬのである。

私は、今日でも又今日までも、如何な方の御訪問を受けても故障の無い限りは必ず悦んで御面會をする。決して面會を謝絶するやうなことを致さぬ。斯んな事は一些事の如くであるが、折角、訪問ねて來て下されて面會を斷られるやうな事があると、誰でも何んとなく不愉快な面白くない感じを催すものである。私は、自分の行爲で、他人に斯る不快を御與へ申したく無いと思ふから、誰彼にでも御面會するのである。御面會して御話を聞き、何か御相談でもあれば自分で能きる事なれば能きる、能きぬ事なれば能きぬ、宜しい事なれば宜しい、宜しく無い事なれば宜しく無いと、自分の意見を申上げ、毫も隱くすとか僞るとか、或は又包むとか云ふ事の無いやうにして來たものである。事業に當るに就ても、矢張、同

樣で、僞るとか包むとか、體裁を繕ろふとかいふ事をせずに總て孔夫子が論語に説かれてある教訓を實地に行ふ事にのみ心を盡くして參つたものである。

斯く私が論語の遺訓を、處世の實際に行ふやうになつたに就ては、稍々餘談に亘る恐れはあるが、私が實業界に身を投ずるに至つたまでの徑路を、簡略に申述べねばならぬ。私が實業界に身を投ずるに至つた徑路は、是れ即ち私が、前回にも申述べたる如く論語によつて世に處し、論語を尺度にして實業界の事に當らう、と決心するに至つた徑路であるからである。

◎京都に出で、思想一變す

却説、私は前回にも申述べたる如く、自分より十歳年長の從兄で漢學者であつた尾高惇忠に就て漢籍を勉強する間にも家業の農と藍の商賣ともに父に勵まされ勉強して居るうち、十七歳になつた頃には、家道も追々と繁昌するやうになつたものだから、私の郷里(埼玉縣深谷驛より北一里の血洗島村)の御領主安部攝津守より、私の村へ千五百兩ばかりの御用金を言ひ付かつたる際、私の父も五百兩を調達して差出すことになつたが、その時に私の父は代理として私の村より一里ばかりも隔つた岡部村にある御領主の陣屋に罷出でた。ところが、陣屋の役人は私に對し如何にも權柄づくめの御取扱をなさるので、心中甚だ快ならず、これも畢竟、幕府の政治が弊竇の極に達したるの致すところと憤慨して居る矢先、世の中の調子が漸次變つて參り、徳川の政治を非難する聲が到る處に喧しく、殊に私に取つては漢籍の師である尾高の弟に當る長七郎といふ人が早く江戸に出で、天下の大勢を辨へ居つた丈けに江戸より歸村する度毎に、當時の模樣を詳しく説いて聞かせられ、更に二十四歳の文久三年に、私が二度目に江戸に出で、海保の塾と千葉の道場とに這入つて塾生をするやうになつてからは、かねて讀書に依つて學び覺えて居つた國體論が深く私を感動し、私は愈よ百姓を廢めて國家の爲に盡さうといふ氣になつたのである。

依て、私は江戸に四ケ月ばかり留まつたのみで郷里に歸り、漢學の師である尾高惇忠を統領と仰ぎ、同姓の澁澤喜作と私との三人で密議を凝らし、他の力を借らずに一揆を起し、先づ其血祭に或る大名を討ち、直に其兵力を利用し一擧して外國人の居留地たる横濱を燒擊したら、外國よりは問責の師は日本に向けて來るに相違ない。さうなると、幕府が到底支へ切れずに顚覆するに至るは必定だ、と考へ、近頃云ふ不軌とまではゆかぬが、兎に角一揆を企てたのである。然し、これは尾高の弟の長七郎に諫止せられて果さず、それこれするうちに、私等に此る企てのあつた事が、其頃幕府の探偵であつた八州取締といふもの丶耳に入り、夫々手が廻つてるのを聞き知つたものだから、尙ほ郷里に安閑として留まつてるのは、身を危險の淵に置くのみで毫も國家に盡す所以でないと心付き、脫走といふでは無いが、郷里を去つて一ト先づ京都に出で、天下の形勢を觀望するに如かずと決し、私と同姓喜作との兩人は相携へて京都に赴く事になつたのである。これが、確か文久三年の十一月八日であつたやうに記憶する。さて、

京都に着いて觀ると、從來の過激であつた私の思想は、茲に一變せねばならぬやうな事情を生じたのである。

◎平岡圓四郎に招かる

私と同姓喜作との兩人が、京都に出づるに就ては、途中の詮議も却々嚴しくなり、且つ百姓では帶刀が能きぬといふので、兩人は一橋家の用人平岡圓四郎の家來であるとの先觸を出して置いて、東海道を無事に京都まで通過したのである。當時一橋慶喜公は禁裡御守衞總督の役を仰付かつて京都に在らせられ、用人の平岡圓四郎も亦京都にあつたのであるが、私と喜作とは江戸の海保の塾と千葉の道場とに出入するうち友人よりの緣故で平岡に知られ、一橋家に仕官を勸められたこともあつたので、愈よ私共兩人が京都へ出發する事に決まるや、平岡の留守宅を訪ね家來の者に面會し、實際の事情を述べて『京都まで御當家御家來分の積りで先觸を出すから許るして下されたい』と依賴に及ぶと、平岡よりは既に、同氏の留守宅へ私共兩人が家來にしてもらひたいと賴んで來たら何時でも許るしてやれ、との申付が同氏の京都出發前留守居の者にあつたといふので、直に私共の賴みを聽き容れて吳れたが、私にも同姓の喜作にも素より平岡の家來にならうとの氣は毛頭無つたのである。たゞ、京都まで途中を無事に通過する便宜上、平岡の家來分たる名目を冒したのみである。文久三年も暮れかけたところで、漸く京都に着したので、伊勢大廟に參拜したりなぞするうちに、その年も暮れてしまひ、翌けて元治元年の春を迎ふることになつたが、郷里に於ける漢學の師であつた尾高惇忠の弟長七郎が、私の京都より發した出京を催す書簡を懷中にしたまゝ、郷里より江戸に出る途中、或る行違で幕府の役人に嫌疑を蒙り、捕縛されて傳馬町の牢屋に繋がれるやうになつたとの獄中よりの通信を、私は長七郎から受取つたので、私の發した手紙の爲に、長七郎が或は斯く嫌疑を受けたのでは無からうかと心配し、割腹して長七郎の爲に冥途の先駈をしやうとまで、一時は憤激もしたが喜作に止められて果さず、或は江戸に下つて長七郎と運命を共にしやうか、或は長州に奔つて多賀屋勇に賴らうかなぞと小田原評定をして一夜を過ごすと、翌日に至り喜作と私とは書面を以て平岡から招かれたのである。

平岡圓四郎と云ふ人は、今になつて考へて顧ても實に親切な人物であつたと思ふが、私共二人が京都に出て來た理由を問ひ訊されたので、事情の始終を隱し包む處なく物語ると、平岡は、兩人の一揆を起さうとして果さず出京したことも既に知り居られて、その事は早や幕府の方にも探知せられ、兩人が果して平岡の家來なるや否や、を其筋より一橋家に問答せ來つて居る事情までも話して吳れたのである。

◎遂に一橋慶喜の家臣となる

それに就て、平岡は、幕府に於ても既に、兩人が自分の家來で無い事を知つて居る際だから、強ひて家來であると僞つて報告するわけにゆかず、さればとて、平岡の家來で無いと報告してしまへば直に召捕られてしまふ恐れがある、其邊甚麼したものだ、との相談で態々と私共が郷里に居つて懷いて

たやうな一足飛びの過激な構想では、到底事の成るものではない、それより寧ろ此際節を屈して一橋家に仕へ、草履取かち始じめる決心で、追々と政治上に實際の權力ある人に自分等の意見を進言し、之を行はしむるやうにした方が賢い道であると說き諭されたのである。喜作と私とは卽坐に返答しかねて、其場は其儘引き取り、宿に歸つて徹夜で兩人は一橋家に仕へる是非に就ての相談を凝したのである。

これまで德川幕府を倒さうとして奔走して來たものが、如何に焦眉の場合なればとて、幕府の支流たる一橋家に仕へてその家臣となるのは面白くない、とは思つたが、此際躊躇へば其うちには縛せられて犬死をするばかりである、と考へ、猶ほ私は從來のやうな急激な理想では、到底、國家の政治を改革することの能きるものでない事にも想ひ到り、且つは又私共兩人が一橋家の家臣になつた事が明かになれば、江戸傳馬町の牢屋に在る長七郎の嫌疑も、自然或は晴れるだらうとも考へて、茲に喜作と私との相談が一決し、兎に角、一橋家に仕へて槍持からでも草履取からでも何んでも始めやう、その代り一旦仕へた上は、飽くまで君を堯舜にせねば止まぬとの決心を固め、翌日之を平岡に返事し、愈よ兩人とも二月二十三日を以て一橋家に召抱へらるゝことになり、茲に從來の私の思想が一變したのである。

◎慶喜公の將軍職に反對す

一橋家に召抱えられた時には、奧口番と申して奧の口の番に當る役柄で、四石二人扶持滯京手當月四兩一分づゝの俸祿を受けることになつたのであるが、間もなく一橋家の外交向を取扱ふ役所で、禁裡御所に對する接待、堂上公卿との交際諸藩の引合筋等に對する始末をする御用談所の下役といふものを仰付けれ、身分は奧口番よりは下でも、一橋家の外交事務に參與する事が能きるやうになつたのである。そのうち、豫ねて私より一橋家に召抱えらるゝに先つて申入れて置いた建言が容れられ一橋家に於ては、一旦有事の日に備ふる爲め廣く天下の志士を召抱ゆることになり、私と同姓の喜作とは關東人選御用掛といふものを命ぜられて、五月の末か六月の初旬であつたと思ふが、公然關東に下ることになつたのである。當時、水戸の藩中に政爭があつて、志士は多く之に赴いて居つた爲に、應募者が極めて少數だつたが、一橋家の御領內にある各村を巡回し廉潔忠誠の農兵三四十人を募集し、之に江戸で採用した劍客八人と漢學生二人とを加へ、京都に歸つたのである。

私の關東滯在中、平岡圓四郎は六月十七日京都の一橋邸附近で水戸藩士の爲に暗殺されてしまつたのであるが、平岡の死後用人として一橋家の政務を掌つた黑川嘉兵衛といふ人が幸に私と喜作とを重用して吳れたものだから、九月の末には身分が御徒士に進み、食祿八石二人扶持滯京手當月六兩になつたのである。翌けて慶應元年二月には私も小十人といふ身分に進み、十七石五人扶持滯京手當月十三兩二分となつたが、その頃、一橋家の兵備といふものは極手薄で、幕府より何時なんどき引揚げらるゝやも測り難い幕府より借し與えられた二小隊の御客兵が主である。それでは一橋家が一朝有事

の日に禁裡御守衛總督の大任を盡すわけにもゆかぬと私は考へたので、農民募兵の儀を慶喜公に謁見して言上し、遂に獻言が容れられて私は歩兵取立御用掛といふものになつたのである。

かくて、私は兵隊組立御用を仰付かつて、一橋家の領地を巡回し居るうち、領內の產米と木綿とが他領のものに比し値段が安くなつてる事や、硝石の產額が比較的領內に多いにも拘らず大規模の製造所が無い爲に頗る不利を蒙つてる事に氣が付き、種々と建言する處があつたので、私は遂に食祿二十五石七分扶持滯京手當月二十一兩の一橋家御勘定組頭を仰付かり、種々と財政上の案を立て會計事務を扱取ふ事になつたのである。勘定奉行といふものが、昨今で申せば大藏大臣の格で、その次に勘定組頭があつたのだから、昨今で申せば私は一橋家に於ける大藏省次官の格になつたのである。然るに茲に一つ困つたのは、德川十四代の將軍家茂公が、慶應二年八月二日薨去になつたので、慶喜公が一橋家より宗家に入られて德川十五代の將軍にならせらるゝ、といふ事である。之れには私は大反對であつたのである。

◎男爵豪族政治を夢む

私は、この時とても、依然、德川幕府は倒してしまはねばならぬもので、又、天下の大勢から察しても倒るべきものであると考へてたのであるが、若し、これまで君公として仕へ奉つた慶喜公に、一度將軍になられてしまひ申すと、情誼の上から私は幕府を倒す爲に力を盡すわけに參らぬ事情に陷つてしまふ。のみならず、その當時私は、幕府も早晩倒れるに相違ないが、倒れた跡が今日のやうな御親政にならうとは夢にも思はず――今になつて思ふと誠に畏れ多い次第であるが――當分のところは豪族政治のやうなものになつて、薩長か其他の有名なる藩が寄り合つて天下の政治を行ふことになるものと信じたのである。斯う考へて德川一門を見渡すと、尾州公でも水戸公でも豪族政治の仲間入が能きさうな人傑では無い、たゞ一橋慶喜公だけは人傑であらせられるから、公を推し立て、行きさへすれば、豪族政治の仲に割り込んで、我が志も行へるといふものだが、慶喜公が一旦將軍に御成りになつてしまへば、幕府が倒れた時に如何とも天下の政治に志の叙べやうが無くなつてしまふ。そこで私は、飽くまで慶喜公を一橋家に引き留めて置いて將軍職には御就かせ申すまいとしたのである。然し、これは後年に至り御面會を致した際に初めて承つて知つたことであるが、慶喜公には此の時既に大勢の赴くところを御察知あらせられ、當時私共の想ひ及ばなかつた御深慮を御持ちになり、大政を奉還して御親政の道を開きたいとの御志望から、愈よ將軍職に御就きになることになつたのである。

私は此際ほど因つたことはない。これまで倒さう〳〵と心懸けて來た幕府であるから、假令、是まで仕へて來た君――君といふのは少し穩かでないかも知らぬが――が將軍になられたからとてオメ〳〵幕府に付へて幕吏となるわけにもゆかず、さればとて今更浪人して試たところで仕方が無いのみならず、甚だ危險である。いつそ割腹して相果てやうかとまで

に一時は思ひ詰めもしたが、それでは犬死になるから、と暫く苦痛を忍んで、幕府の陸軍奉行支配調役といふものに仕官したのである。そのうち、佛蘭西留學を仰付かる事になつたが、此時ほど又私の嬉しく感じたことは無い。これで、進退に谷まる憂も先づ無くなつたと思ふと、實に嬉しかつたのである。慶應三年の正月三日に京都を出發し、佛蘭西郵便船のアルヘー號で横濱を出帆したのが、正月の十一日である。

◎靜岡に商法會社を起す

私の佛蘭西に參つてから後の慶應三年十月十四日、將軍の慶喜公は愈よ大政を奉還せられて御親政といふ事になつたのであるが、速に歸朝せよとの命があつたので、漸く佛蘭西語は文法書の一つも讀めるか讀めぬぐらゐに過ぎなかつたに拘らず、遺憾ながら止むなく歸朝することになり、明治元年の九月佛蘭西を出發して日本へ着いたのが、十一月三日である。着いて觀ると、國內の形勢は洋行前と全く一變して居り、同姓の澁澤喜作は榎本武揚と共に函館の五稜廓に立籠り、尾高長七郎は元年の夏に傳馬町の牢屋から出獄はしたが既に歿して居る。朝廷に立つて時めいてる人々のうちには、知己舊識といふものが全然ない。多年恩顧を蒙つた慶喜公は、駿河で御謹愼中の御身分であると知つては、新政府の役人になるも甚だ心苦しいので、當時駿府と申した靜岡に退隱し、一生を送ることにしやうと私は考へたのである。

佛蘭西に留學中多少見聞したところもあるので、敢て整然たる八釜しい理論の上から考へたのでは無かつたが、商工業を盛んにして國を富まし兵を強くするには、之に當るものに報酬を多く與へるやうにせねばならぬ、然るに、小さな資本で商工業を營んだのでは、多くが報酬を引き出す道がない、依て小資本を集めて大資本とし、合本組織の會社法で商工業を營まねばならぬものである、と思ひつくに至つた事は、前回にも既に由述べた如くである。靜岡に參つてから此の意見を藩の當路者等に話して聞かせると、幸にそれが容られて、當時、新政府で發行した紙幣を廣く全國に通用さする目的で、各藩に貸付けられた金額のうち恰度五十三萬兩だけが靜岡藩にあるから、それを民間よりの資本を寄せ集めて、私に一つ會社を經營て試たら如何か、との相談になつたのである。明治二年の春、私は愈よ、それを引受けて、今日でも其跡が浮月と申す料理屋になつて猶ほ殘つてる靜岡の紺屋町に事務所を置き「商法會社」といふものを起して、商品低當の貸附をしたり、鰊粕、乾鰯等の肥料類を買入れて農民に買つたり、又、米の賣買等を取扱つて居つたのであるが、明治二年の十一月二十一日に、太政官から急に私へ御召狀があつたのである。

私には素より新政府に仕官をしやうとの意が更に無かつたものだから、如何かして御斷りをしたいものと思ひ、藩廳より御免を蒙つて出京を辭するやうに取計つてもらひたい、と藩の大久保一翁まで願つて試たが取あげられない、又慶喜公なども傍から御口添で懇々私を諭され、この際そんな事をしては、靜岡藩が有爲の人才を惜んで朝旨に悖つたことにせられるからと、いふ仰せなので、私も止むなく出京はしたが、その時には當路の方に面會して御免を蒙つて歸藩する積であ

つたのである。

◎大隈伯の八百萬の神論

十二月初旬東京に着いて、一ト晩如何にして任官を勸められた時に斷らうかと充分に熟慮してから、其頃大藏大輔であつた今の大隈に遇つて見ると、一地方に引つ込んで居つては兎ても志の行はれるもので無い、志を行はんとするには全國に勢力の行き渡る中央政府に這入る方が可い、と色々に説き聞かせられたのである。その時、大隈伯は八百萬の神達が天の安の河原に神つどひにつどひ、神はかりにはかるやうにして、これからの新政を行つてゆくのだ、と盛んに論談せられて、從來幕人に對しては何れかと云へば私の方から意見を話して聞かせることになつて居つたところを、大隈伯からは私の方が反對に諄々と話して聞かされるわけになり、大隈伯の八百萬の神達論で吹き飛ばされてしまつたものだから、私も近頃の言葉にいふ一寸面喰つた形で、遂に斷りきれず、大藏省租稅司正といふ職を仰付けられることになつたのである。

愈よ任官の御受を致して、二三日大藏省に出仕て見ると、省内は徒にガヤ〳〵騷々しくして居るばかりで、事務が些つとも捗つて居らぬ模樣である事が知れたのである。これでは折角の八百萬の神達も神はかりにはかるわけには參るまいから、官の組織を整然と設くる必要があらうと大隈伯まで申入れる事に致すと、大隈伯も恰度其心があつたので、改正掛といふものが大藏省の中に置かれることになり、私も其一員となつて、職制が從來、亮、輔、丞、佑などに別けてあつたのを、更に細かく分けて改正する事や、度最衡、驛傳法、幣制、鐵道等の事までも、この大藏省の改正掛に於て評議するに至つたのである。

それこれするうちに、明治四年となり大藏大輔であつた大隈伯は參議に轉じ、井上侯が其後を襲ふて大藏大輔になられ明治五年には私も大藏少輔になつたのであるが、明治六年五月二十三日種々の事情から官を辭して民間に下り、孔夫子の論語に説かれてある教訓によつて、實業の振興を計らうとする決心を固め、以來官に就き治者の位置に立つ念を、全く絶つたのである。然し大隈伯、井上侯及び故伊藤侯の三人は右の如き關係より、其後も私の親しくした先輩である。

後年になつてからも、私は、大藏大臣になれとか何んとか屢々官に就くのを勸められたものである。殊に明治三十四年故伊藤公が内閣を組織せらるゝ際には、是非、大藏大臣になるやうにと、勸告せられたのであるが、この時も斷じて御免を願つたのである。それでも却々聽かれさうが無かつたので、そんなら止むを得ん次第故一應銀行と相談の上、銀行が若し私の大藏大臣になるのを承諾ならば、忍んでも成りませうと申上げ、銀行から御斷りをするやうにしてもらつたほどで、論語にある孔夫子の教訓によつて實業を經營し實業界に身を終らうといふのが、明治六年以來今日まで一貫して變らぬ私の志である。

◎孝弟と三省との功德

私の「論語處世談」は、甚だ餘談に亙つたが、これから、猶ほ論語「學而」篇の章句に就て、處世の實際上に感じたことを些か申述べることにする。

有子曰。其爲レ人也。孝弟而好レ犯レ上者鮮矣。不レ好レ犯レ上而好レ作レ亂者未二之レ有也。君子務レ本。本立而道生。孝弟者其爲レ仁本與。（有子曰く、其人となり孝弟にして上を犯すことを好む者は鮮し。上を犯すことを好まずして亂を興す者は未だ之れあらざる也。君子は本を務む。本立ちて道生ず。孝弟なるものは夫れ仁を爲すの本か）

有子は孔夫子十哲の一人では無いが、論語の序文にも論語は有子と曾子との門人の手によつて編まれたとの故、孔子の御弟子のうちでも、有若と曾參とには特に「子の」敬稱を附し「有子」「曾子」と論語のうちに書かれてある、と記せられてるほどで、有子の言には、敬重すべきものが多く、私は頗る之を悅ぶものである。却說、人間は如何に智慧があつても、人情に惇樸なところが無いと、兎角惡るい事を爲るやうになり勝のものである。故に、私は他人を賴んで使ふにしても、智慧があるよりも人情に惇樸で、我が家族に對し孝弟の道を盡くす親切な心のある者を、力めて採ることにして居る。孝弟の道を辨へ親兄弟に親切な人でも、仲には惡るい事をする者が絶無であるとは云へぬが、さういふ人は鮮いものである。素より上を犯す如き事は、甚だ稀である。上を犯すを好まざる者は亂をなすといふ如き事は「未だ之れ有らざる也」で絶對に無い、隨つて人情に惇樸な孝弟の道を辨へた人々を集めて事業を經營すれば、ゴタ〳〵なぞの起る心配は、まづ以て稀れであると云へる。

曾子曰。吾日三省二吾身一。爲レ人謀而不レ忠乎。與二朋友一交而不レ信乎。傳不レ習乎。（曾子曰く、吾れ日に三たび吾が身を省る。人の爲に謀りて忠ならざるか。朋友と交りて信ならざるか。傳へて習はざるか）

曾子は、孔夫子の御弟子中でも私の甚だ氣に入つて居る人物であるが、私は曾子の茲に說かれてある如く一日に三度我が身を省るといふほどまでには參らなくても、人の爲に忠實に謀つてやらねばならず、友人に對しては信義を盡くさねばならず、又、私が孔夫子より教へられた道を閑却せず常に修めて行かねばならぬものであるといふ事を、忘れずに心懸けて居る。人の爲に忠實に謀り、友人に信義を盡くし、聖人の道を修めるに汲々としてさへして居れば、人は怨みに遠かる事が能きて、決して他より怨まるゝものでは無い。私が御訪問を受けさへすれば、誰彼にでも御面會し、隱くし包むところなく意見を申述べるのも、この章句を些か身に體して行ひたいからの事である。「傳へて習はざるか」との句を「他人に聖人の教を傳へて置きながら自分では之を修めぬやうなことが無いか」との意味に解釋する人もあるが、矢張「他より教へられて居りながら、たゞ聞いたのみで之が實行を怠つてるやうな事は無からうか」といふ意味に解釋するのが宜しからうと思はれる。

◎禮と位とは如何なるものぞ

有子曰。禮之用。和爲レ貴。先王之道斯爲レ美。小大由レ之。有レ所レ不レ行。知レ和而和。不二以レ禮節レ之。亦不レ可レ行也。（有子曰く、禮の用は和を以て貴しとなす。先王の道斯れを美

となし、小大之による、行はれざる所あり。和を知つて和するも、禮を以て節せざれば亦行ふべからざる也）

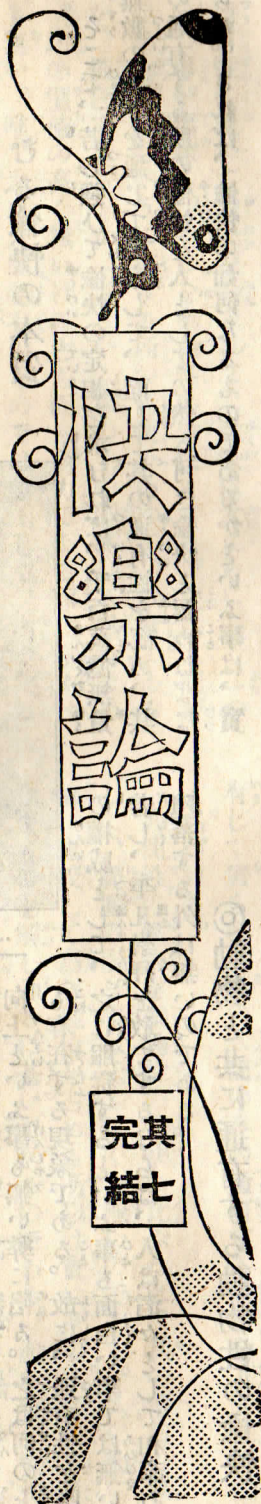
茲に有子が曰はるゝ「禮」とは、普通の言葉に於ける「禮」と其意味を異にし、頗る廣い意義の禮を指したもので、そのうちには、禮記にある禮を總て含んでゐるものと觀るべきである。隨て、この句にある「禮」の一字中には、周の刑制のことも亦含蓄せられてあるのだが、禮の精神が和にあるのを忘れては禮が禮にならず、却て之が、お互に疎隔する原因になつてしまふものである。刑の根本なぞに於ても、和を以て精神とし之を執り行ふことにせねばならぬものである。然し又、和が餘りに過ぎると、互に狎れて却て不和となり、世の中の秩序を紊すことにもなるから、そこは、禮を以て之を節して參らねばならぬもので、中庸を得たるところに眞の和が在るのである。

有子曰。信近レ於レ義。言可レ履也。恭近レ於レ禮。遠ニ恥辱一也。（有子曰く、信、義に近ければ言履むべし。恭、禮に近ければ恥辱に遠ざかる）

如何に、信は重んずべきものであるからとて、不道理な約束を仕て置いて之を履行するといふのは宜しくない事である。道理に適つた義しい約束であればこそ、茲に初めて人間は之を飽くまで履行せねばならぬといふ信を生じて來るものである。然らずして、義に近かざる事でも何んでも信を立てゝ約束を守らねばならぬものだ、といふことになれば、泥坊をする約束でも何んでも履行せねばならぬ、といふわけになる。過日も興信所員の訪問を受けたから、能く此の事を御話して、義しい約束を重んずる信の念を盛んにするやうにせねばならぬものである、と申述べた次第である。また、恭虔も結構な事ではあるが、禮を以て節せずに其度を失するやうになれば、卑屈となつて恥辱を受け、その上、姦であるとの譏をさへ受けねばならぬやうになる。處世の實際に臨んで、是等の點は何れも深く注意すべきものであるから、有子は此の章句にある如く說かれたのである。

如上、申述べたる處によつて、一ト先づ「學而」篇を終り、次回よりは猶ほ論語にある處世上に必要なる教訓の章句に就て、實驗上より多少意見を御話して試る積である。（青柳生憶記）

▲片岡直溫君＝實業家カリカチユール（其二）

片岡君、加藤、八代兩相と正面桟敷に納つて三日目の相撲を見物して居ると、葉巻の煙り君が御面相の凹凸に従つて凹凸し、額の上をツル〳〵と上つたが、オットドツコイ、後頭の斷崖に落ちては大變と、未練な煙してユラ〳〵と天上する。

人間性の愉快と動物性の愉快

文學博士　幸田露伴

◎愉快の相は漠然として捕捉し難し

幸田博士

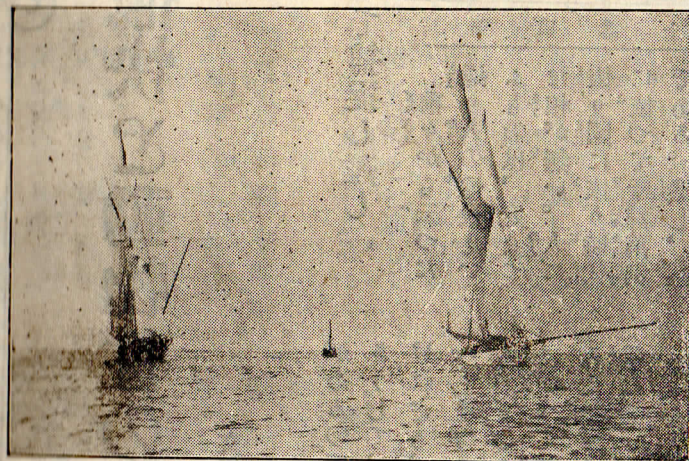
前々から云つた通り人の愉快といふものは、定まつた相が無い。人に依り國に依り時代に依つて千種萬別である。然し、其の間に又自ら定まつた所の相がある。要するに、不定の定で、之を固定の定として取扱ふ事は出來ない。唯、自らにして定まつてゐるといふ漠然たる捕捉し難い相があるので、此の相に背くものを然る可らざるものと假定し、さうして、此の相に背かざるものを然る可きものと假定する。けれども、既に本據がグラついてゐるものであるから、然るべしとするも然るべからずとするも、共に虚空を捻るが如きものである。快不快について論ずるが如きは、恰も流るゝ水に向つて其の味ひを論じ、捕へ所無き風に向つて其の姿を見んと欲するが如きものである。徒勞と云へば之に上越した徒勞は無い。

◎何人も愉快の定相を知らんとす

如何にせん、人は愉快を追及し、不愉快を忌み避ける本能があつて、此の本能に従つて多くの人は行動するのである。それ故に、然る可き愉快が如何なるものであるかといふ事を

知り、又然るべからざる愉快が如何なるものであるかといふ事を知り、そして、然るべきに就き、然るべからざるを除くやうにせねばならぬといふ事は、自然に起る問題である。此の當面の問題を無價値である、不必要であるとは云へ無い。であるから、何人も愉快の本質を知り、其の定相を知る事を企圖せぬものは無いわけである。唯、愉快其の物が他の石とか木とか、酸素とか水素とか云ふが如くに存在するもので無くて、人間の身及び心に就いて存在するもので、其の單位は之を數式に現はす事も出來ず、客觀的に確たる形を有たせて現はす事も出來ぬものであるから、何處まで追及しても、決定を與へる事は困難である。それ故に、從つて其然るべきと然るべからざるとを論ずる事も不可能に屬する傾きがある。

◎人間の通有性に認むる愉快の本質

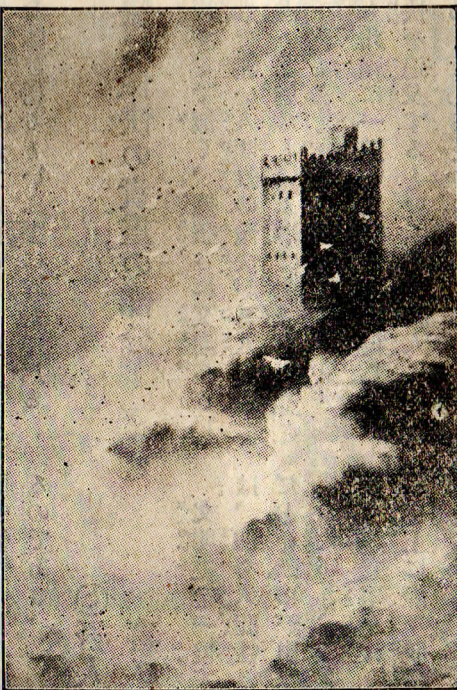
そこで、若し強ひて愉快の定相を求むれば、千百萬億無量無數の人々を通じて觀察して、而して其の通有性を認め、其の通有する所の愉快を人としての然る可き愉快と認めねばならぬ。されば、愉快の如何なるものであるかといふ事は、實に通有性といふ一ケ條の下に判ぜられる事になる。然るに此の通有性なるものも亦、動かざるを得ないものである。何故といへば、既存の人は知るべく、未現の人は知るべからざるものであるからである。詳しく論ずれば、通有性なる一條件の下に、愉快を論じても之れ亦不定に終るべきである。然し暫く之を差し措いて、既に存在してゐる人々に就いて論ずれば、大凡そに人の愉快の如何なるものであるかといふことは言ひ得る。即ち、多數の人が愉快とする所のものを然るべき愉快とし通有性といふ約束に背く偏倚性のものを然る可からざるものと定めて差支無いのである。

空遠く幸住むと人は言ふ……

◎通有性を權威とすれば平凡に陷る

然し、通有性のもの、不偏性のものを正當とする事は、何時も平凡崇拜といふ事になる平凡の崇拜といふ事は、波瀾を平地に起す如き弊害を避け得る代りには、進步といふ事も向上といふ事も無い弊に陷る。之は何の上にも存在する現象である。故に、通有性を唯一の權威として、之に服從するといふ事も面白い事では無い。若し、平凡崇拜を敢てするならば、人は滔々として相率ゐて墮落する外は無いのである。

◎動物と共に通有する動物性の愉快

通有性に就いて愉快を論ずれば、愉快は大凡そにして二つに分つ事が出來る。一つを動物性の愉快とする。之は人間が他の動物と同じやうに有する所の愉快であつて、飮食であるとか、性色であるとか、さういふ事の上の圓滿なる遂行である。之の價値の高く無いけれども而も有力である事は爭ふべくも無い。唯、之は人間特有のものでは無くして、劣つたる他の動物と共に通有する所のものであるから、之を動物性の愉快と云つてよからう。若し平凡崇拜を極端に擴充する事になれば、人間は動物的愉快を以て然る可き愉快として、それに止る事である。然し、それは、他の一面の愉快、即ち人間性の愉快を追及するといふ上から、それだけでは已み難き傾向を人間が有してゐるといふ事も明白なる事實である。

◎人間性の愉快は價値高く範圍廣し

動物性の愉快に對して立つ所の他の一つの愉快を人間性の愉快と云はう。之は人間より劣れる他の動物の通有せぬ所で獨り人間のみの通有する性質の愉快である。道義の上の滿足であるとか、趣味の上の滿足であるとか、知識の上の滿足であるとか、さういふものは、人間は通有するが他の動物は通有して居らぬ。此の人間のみの通有する愉快を人間性の愉快と名づける。人間性の愉快を動物性の愉快に比ぶれば、其の價値の高くして、範圍の廣き事は云ふ可くも無いのである。人の他の動物に比較して高き地位を占める所以は實に此の人間性の愉快なるものを解し知るに基いて居るのである。動物性の愉快は限りがある。限りが無いが如くであつても其の實は繰り返し即ち重複といふ事になるのであつて、其の範圍の如きは、寧ろ狹隘なるものである。

水夫は老いの眼を開き……

◎進步し擴張せらるる人間性の愉快

然るに、人間性の愉快は繰返さるゝといふ事は少いまでも、其の範圍は非常に大きいものである。少くとも、吾人自らが其の範圍を知る事能はざるだけそれだけ廣いのである。知識が吾人に與ふる愉快、誰れかその愉快の範圍を極め盡くす得るであらう。知識は殆んど無際限に進まんとしつゝある。即ち知識の上の愉快も亦、無際限に其の範圍を廣げんとしつゝあるのである。趣味の範圍、誰れか趣味の範圍を知り得るであらう。吾人の趣味の世界は日に月に其の大いさ、其の深さ、其の精しさを增して、之も亦際限無からんとするものである。

即ち吾人が趣味の上に享受すべき愉快も亦際限無く其の分量其の大いさ、其の深さ、其の精しさを增さんとしつゝあるのである。道義の上の愉快も亦此くの如くである。凡そ此等の人間性の愉快は彼の動物性の愉快に比して、其の範圍の無限に擴張せらるゝといふ事を特性とし居る、その進步するといふ性質を有して居るといふ事を特性として居る。故に、人間の他の動物に比して幸福なる所以の最大原因は斯くの如き人間性の愉快を解釋し、之を味ひ得るといふ點に存して居るといつても差支無い。

◎人間性の愉快は愉快の貴重の部分

斯くの如く見來ると、反復するで無く、擴張され又進步さるゝ性質の愉快、即ち動物性で無い人間性の愉快が吾人の所謂愉快の中の貴重の部分を占めて居るといふ事は明瞭である故に、通有性といふ一條件の下に、愉快の性質を考へ、及び愉快の取捨を考へるにしても此處に一道の光明を認め得る。即ち、人間性の通有する愉快を追及するといふ事は吾人にとつて逸すべからざる重要なる事であるといふ點である。

◎愉快の擴張を爲すは社會の先覺者

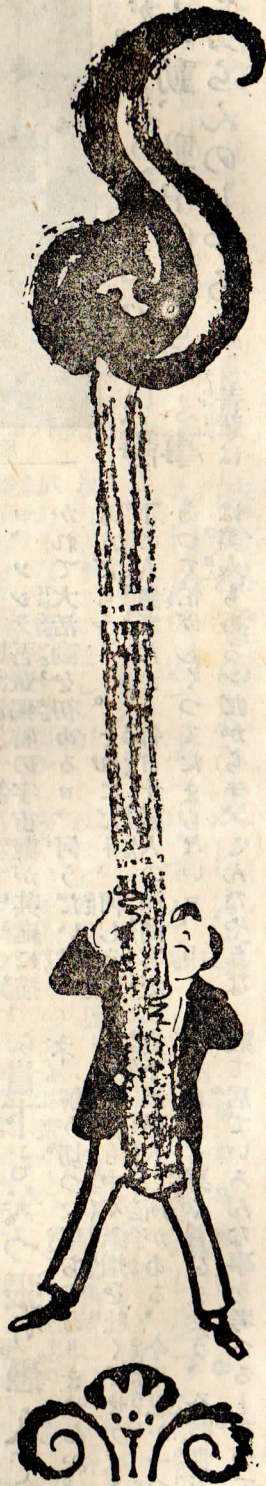
知識、趣味、道德、及び此等に附隨する各種の高尚なる愉快は甚だしく多くの階段を有するものである。それは此等の愉快の性質として擴張及び進步といふ特性を有して居るからである。未擴張と幾分かの擴張との間、未進步と幾分かの進步との間、それらの間の階段は無數である。然し乍ら、低きものは漸く高くならねばならぬ、小なるものは漸く大ならねばならぬ、低きが高きに至り、小なるが大なるに至るは、之も亦人間の自然の傾向である。

然る時は、其の段階は無數であるにせよ、多くの人々は現在に於てある段階を占めて居るにせよ、漸々に移動して、低きより高きに、小なるより大なるに至るべきである。此の人間性愉快の擴張をなし、進步を爲すものを社會の先覺者とするのである。

◎吾人は人間性の愉快を愉快とするを喜び、且つ感謝す

文明史を一瞥すれば、文明史上に赫々の功を樹てゝ居る人は、即ち人間性の愉快の範圍を擴張し、進步せしめた所の人だといふ事が出來る。其の人々は吾人に愉快の分量を增し、其の大いさ、深さ、精しさを增し、他の動物が世界創造以來繰り返し事を繰り返して居る間に、獨り人類をして繰り返し事以上に漸々發達するに至らしめたのは、畢竟此等先覺者の恩惠である。

吾人は此の恩惠を喜び、感謝し、そして吾人が平凡といへども猶は能く此の擴張と進步とを特性とする人間性の愉快を愉快として味ふ事の出來るものである事を喜び、且つ感謝し、而して前途に海の如く、大虛空の如くに存在してゐる愉快を望んで進み得る事を大愉快とするのである。

* * * * * *

野依社長を一個の名士として
病床に快氣焰を交換す

一記者

△記者病床に趨參す

記者『今晚は貴下を社長としてゞ無く、一個の名士としてお訪ねしたわけです。それは外でもありませんが、編輯會議の結果、貴下がいろ〳〵の名士を訪はれて快氣焰を交換された記事、即ち『名士と記者の快氣焰』が天下一品として喝采を博して來たのだから私が社中を代表して、貴下を名士とし氣焰を交換して書いて見やうといふのです。』

野依『あゝさうですか、御苦勞なわけですナ、それぢや僕も天下の大名士となつて君の御質問にお答へしよう、何でも片ッぱしから聞き給へ、併しだネ、吾輩も一と月から入院してゐるのだから、君の方で旨く引っぱり出さないと氣焰は無いよ。』

記者『承知しました。平常破天荒の活動をされてる貴下が斯うしてお寢みなつて居ては、氣がいら〳〵したり、御退屈であつたりしやしませんか。』

△動中の靜、靜中の動が分るまい

野依『馬鹿言つてらア、ソンナ事を言ふから君方は困るヨ、君方は、吾輩が手足を動かして三階から階下に下りたり、上つたり、綱ッ曳きで駈けずり廻つたりして

病床の野依社長抵抗療法を受けつゝある所

居なけりや活動して無くて退屈だらうなど、思ふだらう、コンナ質問をするやうだから何年吾輩の所に居つても吾輩の眞價が分らないのだヨ、君方には、**靜中の動、動中の靜と言ふ事が分らんのじやろう、**吾輩は平生ガミ〳〵言つて、いかにも忙がしさうに働いて居るから、少しも靜かに考へる事なぞしないンだらうと思ふだらうが、併し、吾輩の活動する事は靜かに考へた事が卽ち直ちに活動となるから、考へる暇が無いやうに思はれるのだが、さうぢや無いヨ、吾輩のは考へと活動とが同時に出て、其間髪を容れない位ひ早いのだから、君方見たいな凡人から見ると、考へずに唯だ無茶苦茶に働いて居るやうに見えるンだヨ、それと同じ理窟で斯うして寢てゐるとボカーンとして居るやうに見えるだらう。ところがそうぢやないよ、何時でも頭が動いてるのだ、卽ち活動してるンだヨ、吾輩の頭は時に議會に在り、時に社の金庫の中に在り、或る時は基督、釋迦と語つて居るヨ、それからネ、或る時はズーッと地上を離れて何億萬里の天空の恒星の邊に行つてるヨ、ソシテ吾輩獨特の宇宙觀が其處に描かれて大活動を初めるヨ、何うだい偉いもんだらう……。それにだネ、何しろ天下の人氣者だから毎日十數人の訪問客があつて忙がしくつてたまらないヨ、中には美人もあるンだから子、こんなやうな具合だから君、君方がイクラ心配して呉れても**矢ッ張り神經衰弱は癒らンヨ、**だから吾輩も社の事を君方に一切任しても差支無いやうになつたら、萬事を放擲して何處か轉地療養をしようと思つてゐるンだ。』

△貴下は矢つ張り愚人ですネ

記者『イヤ、御說御尤もです中々偉いですナ、矢ッ張り社長樣ですヨ、同時に矢張り貴下は愚人ですネ、尤も氣焰を伺ひに來たンだから、イクラ氣焰を吐かれても仕方がありませんガネ、併し、私達を凡人だから仕方が無いなンて言ふけれど、凡人だからこそ貴下に使はれて怒鳴られても喰つ付いて居るンではありませんか、それを今更の如く凡人だなど言ふのだから**貴下も矢つ張り愚人です**ネ、解り切つた事ぢやありませんか。何うです私も中々氣焰を吐くでせう。まだ貴下が愚人の所がある、今度私が一つ貴下をウンと惡く言ひませう、全體貴下が寢て居ていろんな事を考へると言つて威

張るけれど、それがつまりバカではありませんか、動中の靜とか、靜中の動とか言つて學者ぶつて威張つて居るけれども、私はこれでも中學を三年までやつて飜譯も出來ますヨ、學者ぶつて貴下が靜中の動、動中の靜など、言つたツてもABCも知らないぢやありませんか。ホントに可笑しいですヨ。外の病氣と違つて神經衰弱といふのですから、靜かな病院に寢てゐて何も考へず無念無想で居るこそ偉い餘裕のある人間といふ可きでせう、其上おマケに未見の讀者から見舞狀が來るのに一々自分から返事を出すなンて餘計な所に餘計な精力を消費するわけですナ。』

△嫌ダヨ歸り給へ

野依『お說一應御尤もでござンすナ、エヘン、フン、ちやンちやら可笑しいヨ、成る程お說の通り私は英語も讀めません中學にも參りません。けれども識見があります、君方は本に書いてあるより外の事は知らないだらう、**吾等はネ、學者以上の學者なんだヨ、本に書いて無い事、その上今時の學者の思ひ及ばん事を自分の頭で考へ出すから**ネ、君は精力浪費云々といふ事を吾輩に御注告下さいましたが、それほど御親切があるなら夜の十時頃から來て、吾輩のお說が無いと雜誌が寂しいからなど、精力の浪費をさせるやうな事は止して下さい私も折角アナタ方の切なる御忠告に背いても不可ませんから、精力浪費はもう止めますから、どうぞお歸り下さい。』

記者『さう皮肉に出られちや困りますヨ、何もさういふ風な惡い意味で申したンぢやありませんがネ、近來雜誌が野依式が充分に發揮されて無いといふので寂しいといふのに、貴下が病氣されて何もお話し下さらんとあつては益々困りますから雜誌が可愛そうならマア大に氣焰を吐いて下さい。』

野依『イヤダヨ、僕も今日は天下の名士、而も……代名詞？バカ言ひ給へ君**其の代名詞ぢやないンだヨ、大きな名士と云ふ事なンだ**ヨ、だから雜誌も何も可愛く無いヨ、マア今夜は歸り給へ。』

△社長意氣に感ず

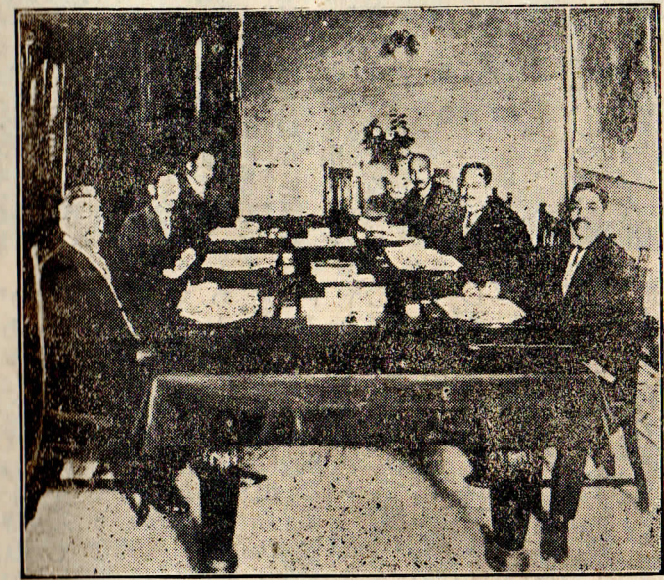
記者『ソンナ事を言はずにお話し下さい、困りますから、實業之世界には三宅先生のお說が無いと、ドノ位雜誌の權威に關するか知れませんが、……此處は私も思ひ切つて、日支交涉の如くに、大讓步をして貴下を三宅先生以上に奉るから是非話して下さい。』

野依『君は却々旨いナ、矢ッ張り野依秀一の乾分だけあるヨ、此の自惚れで固まつてる野依秀一が頭の上らぬ三宅先生より吾輩を偉いとして呉れるナラ、吾輩豈に意氣に感ぜざるを得んやだ、大に饒舌るからドシ〳〵質問し給へ。』

記者『貴下も私に一杯食はされましたネ、併しもう何と言つても仕方が無い、貴下は私に負けたンですから、仕方がありませんヨ。貴下は先き程、議會に頭が行つてると言ひましたがドンナ風に行つてゐるンですか、それを承りたいんです』

△大乘外交論

野依『ソリア君、昨日サ、外交失體の彈劾演說があると言ふから氣が氣ぢや無いぢ

や無いよ、吾輩が刑事被告人で無くつて、そして病氣で無かったら素敵な事をやってるネ、斯うして寢て居ても事國家の問題になれば、吾輩の神經昂奮して勇氣凜々となるから、ネ、堪らんヨ、吾輩は今度の日支交渉は根本的に謬まつて居るといふ意見なんだ、日本が支那に對して睨みの利く國なら、最後通牒も宜からう、歐洲大戰亂の虛に乘じて談判をするも宜からう、青島占領を好機として談判開始も宜からうサ、けれども日本は支那に對しては少しも睨みなんか利か無いンだヨ、袁は兎に角大怪物だからネ、大狸だからネ、同じ狸でも早稻田邊に住んで居るのと大分段が違ふよ……、それだからサ、日本が此際餘計な談判なンかするよりか、歐洲戰亂の終結を待って、其時快く青島を還附してやって眞に日支の親善を計り、平和の戰場に於て、而も永久的に利益を得る名を棄て實を取る所の方法に出るのが是れ大乘の、而して文明的の大外交家の取る可き道だヨ、何うだい名論だらう、そうすれば今回の交渉に依って得た所の利權を白紙の言ひ分ぢや無いか、本當に談笑の間に得られるンだヨ、そして、支那をして日本の親しむ可き友邦である事を思はしめたならば、日支の合辨事業も圓滿に出來、猶ほ且つ永久的に日支貿易を隆盛ならしむる事が出來るぢや無いか、外交問題を選擧に使ったり、內閣乘取策に利用するンだから堪らんヨ、今日の政治家なんて言ふ奴は、上、至尊を犯し奉り、下六千萬の同胞を欺くもんだヨ、吾輩は斯ういふ大經綸を有ってゐるンだから、議會で外交彈劾演說があると聞いちや何かせんぢや居れんぢや無いか、だから、吾輩は當日の彈劾演說者たる犬養毅と佐々木照山と林毅陸の三人に宛て、激勵の電報を病院から出したンだヨ、サア、イクラでも質問し給へ、イクラでも答へてやるヨ。』

日支新條約調印の日
日置公使（中央）　陸外交總長（中央）

△誰か隈閣に代る

記者『成る程、貴下も却々外交眼があるンですナ、併しです、然らば大隈以外の內閣が此の衝に當って居ったなら、今日よりかヨリ以上の事が出來たでせうか、疑問ぢや無いでせうか』

野依『それは元より解らンヨ、そんな事は餘計な心配だ、我々は現在が惡いから其の惡い奴に責任を負はして之を破壞すればそれで可いンだ。』

記者『それぢや無責任ぢやありませんか、殊に御大禮を目前に控へてさう頻々と內閣の交迭を見るといふ事はさう面白い事ぢや無いと思ひます、全體大隈內閣が假りに倒れたら、後は誰がやるンでせう』

野依『誰かやるサ、人間はイクラもあるヨ唯だやらせんから遣り手が無いだけヨ、又遣りたい奴があっても遣れないやうに出來てるから遣らんまでヨ。』

記者『だってそれァ抽象的議論で困りますヨ、眞逆英國のやうに聯立內閣が出來る氣遣ひもありますまいし、寺內、後藤、原、犬養、仲小路等が出たッて何うも仕樣が無いでせうと、言って蒲燒きが又候出る事もありますまい、それでは大隈內閣が倒れたら何ういふ風な內閣が出來る御意見ですか』

△野依秀一何時でも大臣の椅子を頂戴する

野依『ソコだヨ、寺內でも後藤でも原でも出ろが可いサ、出て又不可なかったら又倒すサ、さういふ風に摺ッた揉ンだやってるうちに進歩がソコから生れて仕方無く青年が出なくちゃならんやうな幕になるヨ、**世界中日本ほど老人跋扈の國はあるまい、**それには何うしても惡い奴が代る〜〜出て來れば片ッ端し倒して行って、次第〜〜に其處に新人物が……、たとへばサ、長島隆二なンて云ふ若い人物が割り込むサ、そして又其處で新人物舊人物又議論するサ、そして又潰れるサ、又遣り直し、又其處に新人物が更に割り込む、そして次第〜〜に少壯內閣を作って元氣ある青年が眞に一身一家を忘れて誠心誠意、以て國家の爲めに奮勵努力するサ、君は先き程御大禮云々といふ事を言ったが、**御大禮は國家無上の大慶事だから此時に當って國家勃興發展の新機運の爲めにゴタ〜〜するのは眞の意味に於ける國家の慶事ぢや無いか、眞に忠君愛國の赤心のある人間は思ひを此處に致さねばあらんヨ、**何でも物は根本的に行かなくては駄目だ、姑息の慶事呼はりに吾輩の與する能はざる所だ、憚りながら、**遣らせるなら何時でも野依秀一國務大臣の椅子を頂戴するヨ、**不肖愚人、草莽の微臣野依秀一は今の國務大臣よりか一段上だヨ、見給へ、百年以前に英國は二十六歳のピットを總理大臣にして國家を改革せしめたでは無いか。』

△家賃停滯は奈何

記者『エライ氣焰ですナ、聊か脫線的氣焰ぢやありませんか、併し、其の脫線中にも貴下の眞に國を思ふの熱情がアリ〜〜と見えるのは部下の私も嬉しく思ひます。今度私も脫線して方面を變へて御質問します。貴下は却々よく働いて仕事の遣り振りも可成り旨くて、金も相當に儲かっても何時もピイ〜〜で、吾々が五圓貸して下さいと言っても今日は都合が惡いから明日にして吳れろなんて言ったりしますが、……、そして、金があると矢鱈に仕事の手ばかり擴げて新聞廣告をして、家賃を拂はなかったり、電話を抵當に入れたりして高い利子を拂ったりするのは何ういふわけですか、國家論外交論は旨くても經濟は駄目です。』

△脫線せる脫線論

野依『イヤ却々エライ御質問です、今度は一本參りましたナ、と言ひたいが實は參りません、私には私の獨特の經濟論があります、經濟論の前にチョット脫線論をやりませう、君は脫線といふ事を言ったが、線とは一體何物だ、社會一般に認めて……、卽ち多數凡人の見て以て之が普通の議論だ、之が普通の道だといふの

を稱して線といふのだらう、さうして見ると其線たるや餘り有り難く無いわけだネだから普通以外な事を言ふと脱線／＼と言はれるんだ、併し、脱線にも善いのと悪いのがある、下向き脱線するのは元より取るに足らんが、又愼まなけりヤならんが、併し、其處に自分で新らしい善い線を作つて普通の線を脱して行くのは極く善い脱線ぢや無いか、之が即ち向上進歩といふものぢや無いか、吾輩の脱線は此の脱線だヨ、君方は少し飛離れた事を言ふと直ぐ脱線だといふが、善い脱線なら少しも悪くないぢやないか、寧ろ獎勵すべき脱線ぢや無いか、是れ即ち吾輩の脱線論ある所以だ、何うだ、名論だらう……。』

△此理窟が分るか●●●●●●

野依『さて經濟論に移りませう、君の先き程の質問も誠に一應尤もだ、併し、俗論たるを免れんネ、經濟の要たるや、その經濟が社會國家人類を益するか益せんかに依つて、其の經濟議論價値があるのだ、イクラ利益を生んでも、イクラ勘定引き合つても、其の遣る事が多數の爲めにならなけりヤ何にもならん、唯だ仕事をする人間の利益になるばかりだ。元より利益が無けりヤ其の仕事が潰れるから、利益のある事が善いだらう。然し、イクラ利益があつたつて國家社會が益しなけりヤ潰れた方が善いンだ。元より世の中に利益あつて其の仕事が存在する以上は、全然社會に不必要なもので無い事は論を俟たない話だが、物は唯だ比較の問題だからネ。酒の飲み手が多くて酒屋がウント利益がある、それで酒屋が儲かるから酒屋がウント殖えるけれども、一方に酒が人を毒し、延ひて國家を毒し、禁酒令さへ發布された國家がある場合に當つて……、そりヤ禁酒令を布くといふのも一の方法であるが、同時に酒屋が儲からないやうに、ウント税を掛けて酒屋の儲からぬのと同時に酒が高くて飲み得ないやうにするといふのも一の方法ぢや無いか、此の反對に國家社會人類を益する事なら損をしても――經濟上――遣らなけりヤならぬ仕事がイクラもある、實は斯んな仕事は其の仕事其の物に於ては經濟上引き合はんでも、其の仕事を離れて、他の方面に大に利益があるのだ、此理窟は分るだらう、何うだい……』

歌舞伎座の外交彈劾演說會(四日)

△吾輩に一の病あり●●●●●●

野依『其處で吾輩のやつてる仕事は、事業其物では經濟上損をして居る。全然營業本意の見地から見れば、それは吾輩のやる仕事だつて半分以上は皆相當に利益があるヨ、だから其の利益を損する半分の方に埋めた儘にして置いて、吾輩が營業本位の頭になれば少

しも困らないんだ、然るに、吾輩に一の病がある。之は經濟上損だとアリ／＼と見えても其の事がいい事であると信ずれば、ドシ／＼遣ッ付けるんだ、だから何時も金が無くてピイ／＼して居て、君方から十圓貸して呉れと言はれても待つて呉れといふやうになるンだヨ、だから、吾輩は過去に於て、隨分先輩から經濟を考へなくちや不可ん、少し金を蓄めなくちやいかんと忠告されたものだ、中には、君の無慾淡泊主義も頗る好いから、それを標榜して、人の知らぬ間にソーッと四五萬圓蓄めて置かぬと困るヨと注意して呉れた先輩もあつた、だが、我輩は此先輩の忠告に斷じて耳を傾けなかつた。僕は彼等先輩並びに世間一般と全然異つた見解を有つてゐるンだから仕方が無い。成る程、損をしないやうにして金を儲けて經濟上の基礎を作る事も必要だらう。然し、金が蓄まると、金を蓄める其事が面白くなつて來て、普通の本屋サンになつて了ひヤせんか、普通の本屋サンは皆金儲け本位だ、吾輩に金を儲ける爲めにやるなら、コンナ小ツポケな――金錢上――仕事は遣らんヨ、若し、金を儲ける事が吾輩の目的なら、或は米國にゐたらう、或は南洋に居たらう、或は内地に居つて大實業を成して居たらう、少くも今頃は何百萬何十萬の金が出來てるかも知れない、基礎々々といふ事を能く言ふが、基礎とは一體何を意味するのか、金錢以外に基礎を作る事は出來ないのか、世の中に金錢以上の基礎は無いのか、金以上の或る物は無いのか 見給へ、吾輩が五萬十萬の小金を蓄めて居たら、今日の野依秀一は果してあるか無いか大疑問ぢやないか、ソンナ小金に目をくれずにドシ／＼やつて來たからこそ今日の野依秀一が存在して居るのぢや無いか、即ち金以外の或る大なる基礎が吾輩に出來て居るのぢや無いか、だから、三宅先生の如き偉人が無報酬で以て吾輩の事業を助けて下さるのぢや無いか、即ち、金錢を以て動かす事の出來ない三宅先生を吾輩が動かして居るのぢや無いか、吾輩が今日まで少しズルクやれば、監獄にも行かずして、而も世間に誤解されずに、おマケに十萬や二十萬の金は出來て居るンだヨ……。併し、世の中には、吾輩と意見を同じうする人は殆んど無いのである。さうさう吾輩の同情者と雖も金を出しても呉れンし、又吾輩もさう／＼出して貰ふのも氣の毒だし、又快く出して貰つても強請つて取つたなど言はれるのもつまらん話だから、現在は立ち行く範圍に於て活動する事にしてゐるンだヨ。吾輩も又、もう或る點までは、金以外の基礎が出來たから、これから多少營業といふ事を考へて遣る事にしたヨ、だから『女の世界』も出したワケだ。先ア君世の中を達觀して見給へ、全體、世界に金が有る、その金を堀り出して通貨にして使ふ、唯だ使ふだけで向ふにある金をこつちに取る、此方に有る金を向ふにやる、唯だ取り遣りして誰れかゞ金を儲けた、金滿家になつたといふだけにしか過ぎないぢや無いか、そして喜んだり威張つたりして見たッて何の價値があるか、吾輩の考では、必ずや近き將來に於て、經濟論の原則が根抵から覆へる時が來る事があると確信して居る。何うだい、解つたかネ、名論だらう。

△諫言し奉る事●●●●●●

記者『よく解りました、お說御尤もです、然し、解つたかネ、名論だらうの註釋付きは聊か恐れ入りますネ。何にしても、印刷屋の支拂や月給の支拂位に間誤付かん程度迄には金といふ事も考へて貰ひた

いものですネ、ソンナ事を言ふけれど……三四年此の方、藝者買ひは止めて居るやうだが、其の以前に隨分使つたでせう、ソンナ事は無駄な事ぢやありませんか、貴下は自ら好んで世間に誤解されるやうな事を爲さるやうに私達には見えますが、少し御注意なすつてはどんなもンでせうか、現に世間の或る部分では、野依と言へば恐い奴、強請でもするやうな奴と思はれて居るのだから、貴下の名を利用して隨分惡い事をする奴が多いぢやありませんか、何としても少し注意された方が宜からうと思ひます。』

△吾輩は喬木たるを欲す

野依『イヤ何うも御忠告有り難いですナ、君は何うだ名論だらうと斯ういふと、ソンナ註釋付きは恐れ入りますネと言ふが、相模や芝居を見て居ても、旨い時は拍手をするなり、ヤーとかコーとか言はなければ、遣つてる方で氣乘りがしないヨ、それと同じに吾輩が病中を押して名論を吐いて居る時には、旨いですナといふ位言つて呉れなくちや氣乘りがしないぢやないか、それを君の方でポカーンとして居るから、君に代つて吾輩が言つてやるンだヨ、寧ろ感謝す可きぢや無いか。それから誤解の問題だが、誤解が何が恐いンだ、何が損なンだ、吾輩には解らんヨ、**沈香も焚かず、屁も放らずで居りや誤解も何もされんがネ、それぢや社會に何等の貢献も爲さんからネ、**喬木風多し、出る釘は打たれるといふ事を君は知つてるか、吾輩は出たいからネ出て何か生き甲斐のある事をしたいからネ、吾輩は喬木になりたいからネ、誤解は覺悟の前だヨ然し、それが爲めに監獄に行くのだけは嫌やだネ。』

△誤解の功徳を論ず

野依『然し、君、**誤解はさう損だけのものでは無いヨ、却々徳があるものだヨ、よし、誤解の功徳を少し論じて遣らう、**先づ誤解といふ誤解其物から吾輩獨特の解釋を下して見やう、誤解は讀んで字の如し、誤り解せられるといふ事だらう。即ち、誤解は其者の本來の面目を正當に解してゐるので無く、誤つて解するといふ事なンだから、**誤解された者よりか誤解する者の方が惡いわけなんだ、**頭から正解されたのでは、其處に何等の興味が無い、けれども、事實惡くないものを惡く解される事は成る程一時の損には違ひ無い、けれども、**眞に信念あり、眞に氣力ある者は、一時誤解されてそれと奮鬪して遂に正解される程愉快な事は無いヨ、**吾輩を惡黨のやうに思つて居ても吾輩に逢つて話をして見ると、先きの誤解が直ちに溶けて、正反對に吾輩の大なる味方となるのである。斯ういふ味方は最初からの味方よりか案外強い味方になるもンだヨ、**惡くも無い者を惡く思はれる事は案外面白いもんだヨ、**それから又吾輩のする事を何でも、アリア野依式だと言つて世間で**天下御免**で通して呉れるから何をしても一向氣苦勞が無くて、萬事に頗る便利で案外氣樂だヨ、これらが所謂誤解の功德といふもんだらう。即ち苦を見て樂をするといふ正當の報酬を得られるンだネ。』

△彼等吾輩の徳を解せざるのみ

野依『とは言ふものゝ、仕事をして居ると、誤解といふ奴も一寸面倒だネ、君の云ふ

通り吾輩の名前を利用して隨分怪しからん事をする奴があるヨ、然し、これとても、何うも仕方のない話だからネ、惡用される吾輩が惡いので無く、する奴が惡いンだからネ、コンナ事を言ふと、君**方は吾等が不德だからと言ふかも知れないが、吾等に言はせると決して不德ぢや無いよ、つまり世間の奴が吾等の德を解するだけの力が無いンだから仕方が無いヨ、**世間の奴は口先ばかり體裁のよいやうな事ばかり言つて置けば、それで滿足するのだから馬鹿々々しいわけサ、馬鹿々々しいと云へば、イヤ實に馬鹿々々しい事があるヨ、吾輩が何でも恐喝してゞも金を取るやうに思つて居る奴があると見えて、吾輩が斯うして寢て居ても吾輩を利用しようと思つて來た奴が二人あるヨ、其の一人は信州の某代議士だヨ、それは會社の名は發表せんでやらうが、或會社に不正事件がある、それに吾輩の名前を以て記者を誰か一人遣つて、或る事を質問させるとそれを書かんでも先方から二三萬の金は出すと言つて來たお利巧な方があるンだからネ、も一人は東京の地代の事について、吾輩を惡用に來た奴だヨ、マア世の中はコンナもんかネ、何うだい、解つたかネ、餘り長くなるから此邊で御免蒙りたいネ。』

記者『逐一よく解りました、大變長く御邪魔しました、オヤ〳〵もう一時半ですネ、今から歸つてまた細君に嫉妬を燒かれる次第かヤレ〳〵』

野依『吾輩が證明しませう、……、吾輩の信用が當てにならんて、バカ言ひ給へ、斯うして病院に寢て居れば信用があるヨ。』

（六月五日午後十時入院中の社長を訪問す）

無限軌道發明家高松梅治氏の爲めに辯ず

最近帝都某大新聞に無限軌道の發明者高松梅治氏の身上に關する無根の誤傳が記載された。其は即ち氏が約三十萬の私財を所有して居ると云ふことであるが、是は啻に高松氏一個人の迷惑のみならず無限軌道を天下に紹介した我社に取つても、發明者から何等かの報酬を得て記事を載せて居ると云ふ樣な誤解を招く因と成るから、氏のために聊か妄を辯じて置かねばならない。

高松氏はあれだけの大發明をしたが發明家の常に踏むべき種々の困難と戰つて來たので、實に同情すべき窮境に沈んで居る。一身上の事を精細に告白することは出來ないけれども尠くとも氏は多額の負債に苦しめられ、妻子を國許に返して自分は一小鍛冶屋の二階に工夫と同居しつゝ、發明品の改良進步に腐心して居る現在の有樣で三十萬の財產は愚か日常生活にも不尠困難を嘗て居るのである。從て我社は高松氏から一錢一厘の寄附も報酬をも受けて居ない。受けないのみか、記事を載せた雜誌は廣告用として百部なり二百部なりを發明者に贈つて、氏の苦心苦鬪を慰めて居る程である。乃ち無限軌道を紹介する本誌の目的は全然邦家のため、文明のためであつて、微塵も私利私慾の念が交つて居ないことは茲に判然と天下に聲明して置く必要がある。

給料が安いからとて惰ければ益々安くなる

『實業之世界』主筆　青柳有美

△今の青年の不心得

誰一人として給料の安いのを望む者は無い。斯く申す僕とても、成るべく給料が高く、成るべく收入の多いのを望むが、給料が安いからとて、仕事に手加減を加へ『斯んな安給料で、さう〳〵コキ使はれて堪るか』『斯んな安い給料で、さうさう追ひ廻はされて堪るものか』など、大に自重したやうな口吻を漏らして、仕事に精を出さぬ青年が、昨今、世の中に多くなつたのは、甚だ悲むべき社會現象であるのみならず、當の青年に取つても甚だ損な仕打である。斯る卑陋しい根性で年百年中働いて暮したんでは、幾年經つても、立身出世の見込みは、まア〳〵無いものである。否な、斯る卑陋しい根性の青年に限つて、幾等、給料を昇げてやつても、依然として仕事に精を出さず、給料の昇つた當時二三週間ぐらゐのもので給料の昇つた嬉れしさが消える頃には、又も元の杢阿彌に立ち還へり、依然、仕事に精を出さず、勤務時間を惰まけて暮らし、末には罷職の憂き目を見ねばならぬやうになるものだ。

△安くても働けるもの

給料が安ければ、人は如何しても仕事に精を出せぬものか。決して爾うで無い。心懸け一つで精を出せるものである。不肖ながら僕一身に就て回顧へて試ても、昨今は相應に高い給料を頂戴して居るが、今より十八九年前は、實に御話にならぬほど安い給料で或る女學校の教師を勤めて居たものである。校舍内の一室に起臥し、寄宿生と同一の賄飯を食はしてもらひ、月手當が僅に二圓五拾錢。後に至り、妻を迎へてからも、拾五圓の安給料で家賃壹圓四拾錢の家に住つてたこともある。それで能く仕事に精を出し、強勉もしてゆけたものだ。否な、相當に高い給料を頂戴して居る昨今よりは、まだ齡の若かつた丈けに、其頃の方が却て多く働き却て能く仕事に精を出し得たものである。人の能く働けると働けぬとは、給料の安い高いに因るものでは無い。たゞ心懸け一つである。僕の如き不肖の者さへ能きたことを、今の賢い青年諸君に能きぬといふ筈は無い。

△時間を盗むのも泥坊

泥坊は、財物を盗む者とばかりに限らぬ。傭主の眼を掠めて時間を盗み、傭主の時間を自分の快樂の爲めに費消するのも、亦一種の泥坊で、これは時間泥坊と稱せらるゝものである。委託金や官金を私消すれば、それ〴〵の私消罪に問はれて重き刑に處せられ、柿色の御仕着せを着ねばならぬが、傭主の時間を盗んで自分の快樂の爲に勝手に私消する者は、是れ正しく時間私消罪に問はるべき筈である。國法が之を罰せぬからとて、それを好機會にし時間泥坊を働く青年は、國法よりも更に力のある天の罰を受けて因果覿面、そのうちには糊口の道をさへ失ひ、就職難に苦む人生の敗殘者とならねばならなくなる。傭主に雇用せられて居り乍ら『こんな安い給料でコキ使はれて堪るものか』と、憤慨らしい口吻を漏らし、此處を先途と惰けて時間泥坊をする事ばかりに精を出し、仕事に精を出さぬ青年は、最後に『敗殘』のあるのみなるをまづ第一に想ひ浮ぶべきである。現在の給料よりも一層高い給料を拂つて、樂に使つて呉れる傭主が他にあるものならば敢て愚痴をコボシ〳〵現在の傭主の手から飯を食はしてもらつてるにも及ばぬでは無いか。高給料で優遇して呉れる新らしい傭主に遠慮なく走つて往つて、之に使はれるやうにするが、可いのである。若し、斯る**ボロイ**就職口が他に無いものとしたら、愚痴なんか**オクビ**にも出さず如何に給料が安いからとても惰けず、傭主の命のまに〳〵、コキ使はれ、追ひ廻はされて、仕事に懸命の精を出すべき筈のものである。

△給料の安いは當然

如何に力量があり、手腕があり智慧があり知識に富んでる人でも、之を初めて雇用する傭主の身になつて觀れば、從來他の傭主の下にあつて觀るに足るべき成績を擧げた事が、既に明かになつてる特殊の人物に非る限り、初めから、之にさう〳〵高い給料を拂へるものでは無い況んや、學校を卒業して社會に出たばかりだとか、乃至は又、就職口の無いのにウロ〳〵して『給料は幾干ても宜しいですから……』と飛び込んで來たものに、高い給料を拂へぬのは當然である。これは、資本家の横暴でも無ければ又、傭主の横着といふものでも無い。傭主が取るべき當然の措置を取つたまでゝある。傭主は、一旦安い給料を拂ふ事にして置いても、その使用人が仕事に精を出して能く働き、傭主の利益を謀つて呉れるのに眼がつけば、漸次に其安い給料をも昇げて高くし、その使用人を優遇して呉れるやうにもなるものである。然るに、今の青年等は傭主の此の心情に毫も同情を拂はず、一途に傭主を横暴のものとのみ思ひ、給料を昇げずに少し永く其儘にして使用でもすれば、傭主には眼か無いと直ぐ愚痴を鳴らして自棄り出すのが例だ飛んでも無い不心得と云ふべきである。

△昇給せしめ得ぬではないか

『斯んな安い給料で、さう〳〵コキ使はれて堪るものか』と、仕事に精を出さず、傭主の時間を盗んで**アブラ**を賣ることばかり精を出し、業務に惰まけてるやうな使用人の素振は、それと直ぐ傭主の眼につくものである。傭主が使用人の給料を昇げてやらうとの氣を起すに至るのは、給料の安い割合に能く仕事に精を出して働いて呉れるから、あの給料では安過ぎる、氣の毒だ、といふのに端を發するのだ、然るに『さう〳〵コキ使はれて堪るものか』と、如何に其人に實際の力量があり手腕があり智慧があり知識があるかは知らぬが、クダラ〳〵と半醒半睡の態度で惰けられ、さも〳〵仕事を爲るのが厭やらしさうに、働くだけが損だと云つたやうな顔付をして働かれたんでは、傭主たるもの、その使用人の給料を昇げて

やらうにも遣り得無くなる。安いので氣の毒だ、何んとか其內にはしやうと思つてた初めの同情も、何處にか消え失せてしまつて、現在の安給料を、さへ傭主は安い給料だと思はず、あれでも未だ／＼高過ぎるとの感を起し、給料を昇げてやるどころか、下げてしまふことになる。それが遂には下げてやらうとの氣になり厭やなら罷めてもらうばかりさ、と傭主から高飛車に出られたところで、使用人たるもの何とも致し方なく、後悔臍を嚙むより他に道がなくなる。

△骨惜みは愚の絕項

給料が安いからとて骨を惜み、多く働くだけ損になる、この卑陋しい胸勘定を仕て、仕事に惰けて精を出さぬ使用人は決して、その惰ける事によつて、給料を高くしてもらひ得るもので無い、愈々益々給料は下げられて安くなるばかりである、否な、末には遂に全く給料が零になつて、就職口が見つからず、路頭に迷はねばならなくなる。給料が安い爲に生活に困難するやうな事情があつて、是非昇げてもらひたいものだ、との心があつたら、層一層、仕事に精を出して働き、惰けぬやうにするに限る『これでもか／＼といふぐらゐに、誠心誠意、全心全力を盡くして働き、傭主の利益を謀つてやるが可い。持つてるだけの智慧と知識とを傾け、有るつたけの力量手腕を盡くして働くが可い。斯くすれば、如何に無情で使用人の身の上に些かの同情だに無く、能きるだけ安い給料で能きる丈け酷に使用人をコキ使ひ追ひ廻さうとする傭主でも、給料を安くして置けなくなる。給料を高くせねばならなくなる。若し、その傭主が昇給て呉れぬにしても、あの人ならば』と高い給料で是非傭ひ入れたいとの希望を申入れる新らしい傭主が、他から必ず現れ出て、來るものだ。

△惡慣習をつけるに至る

如何に力量があり、手腕があり、又智慧があり知識があつても、惰けて仕事をチャランポランにし、之を實地に示して呉れなければ、その力量、その手腕、その智慧、その知識が何の効をもなさず、又それが傭主に知られさうな筈が無いでは無いか、傭主に實地の力量、手腕、智慧、知識を示して見せずに、之が解らぬからとて蔭で愚痴をコボスのは、之を解らぬ傭主よりも愚痴をコボス使用人の方が餘程無理である。傭主が解らず安給料でコキ使ひ追ひ廻さうとするのが、寧ろ當然である。青年よ、飽くまで安い給料でコキ使はれ追ひ廻はされ給へ。然らば諸君の安い給料は追々高給くなる。然らずして、給料が安いからとて惰ければ、その安い給料は愈よ／＼益々安くなるばかりだ、仲には、給料をウンと支給さへすれば、必ずウンと働いて觀せるなぞ、と壯語する者もあるか知らぬが、給料が安いからとて惰ける癖のついてしまつた青年は、二十層倍もする高い給料をもらへるやうになつたからとて、從來の惰ける癖が習慣となつて拔けずに決してウンと働けるやうになり得られるものでない。青年よ、給料が安かつたら、愈よ／＼益々精神に馬力をかけて、傭主の命のまに／＼唯々諾々、大にコキ使はれ大に追ひ廻され給へ。

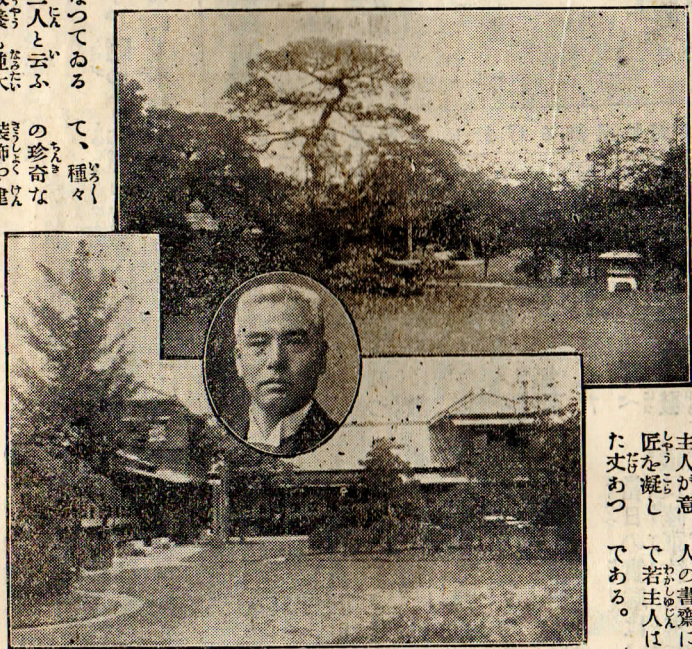
實業家の家と庭

（其八）

服部時計店主人　服部金太郎氏邸　（芝區愛宕下町）

▲東部有數の紳商日本一の子福長者服部時計店主服部金太郎氏の邸宅は芝愛宕下の一隅に在る。土地高燥閑雅と云ふ程ではないが、芝山內に近き丈に何となし靜閑の趣に滿ち／＼た奧床しき住宅である。

▲邸地の坪數は一千六百餘坪で建坪は日本館西洋館を合せて約三百坪ばかりである。現在の敷地は元二つに分れ所有者が異つて居つたもので、服部氏は明治二十九年中其の一部七百餘坪を讓受け、其後三十七年之れに隣接せる九百餘坪の敷地をも買受けたものが現在の地坪である。

▲建物は本館及び別館の二棟に分れ双方共に四洋館日本館の二つに分れてゐる。本館は明治三十二年の建築に係り、日本建百五十坪西洋館四十五坪の廣さである。本館の方は主人及び子女の住居に充てられ、別館は若主人の住宅となつてゐる。服部氏は有名な子福長者で、十三人と云ふ子寶を有するので、其の子女の敎養も並大抵のやさしさではない。氏は子供に可成のんびりとした裕かな思ひをさせるが爲めに其の室の如きも深く注意し、本館西側の二階四間を解放して子供の起臥する室に充てゝゐるさうである。

▲西洋館は二階建の數奇をこらした建方で玄關の左方日本館と接續して邸內一の美觀を呈してゐる。內部は敢て宏麗と云ふ程でもないが主人が意匠を凝した丈あつて、種々の珍奇な裝飾や建築が際立つて人目を引く。主人は二六時中本店の方で仕事をさるゝので、宅に居るのはほんの睡眠する時間位のものであるから、此の洋館にも平常は主人の姿を認めないが、來客等がある時には大抵此處で應接される。別館は若主人の住居にすべく昨年新築したもので日本館八十坪洋館二十坪の極めて瀟洒たる心地よき住居である。洋館の方は若主人の書齋に充てられ、此の淸雅閑靜なる室で若主人は日夜勉學に餘念ないと云ふことである。

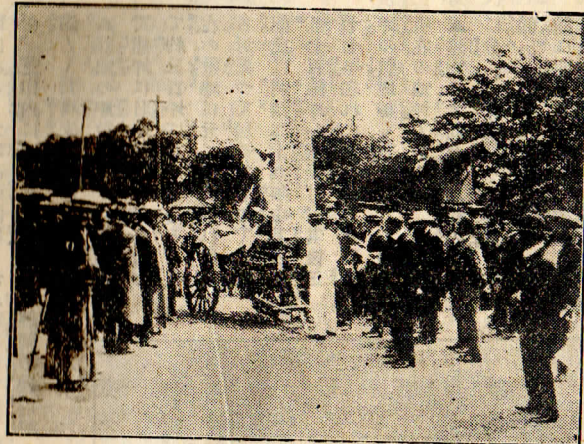
▲庭園は五百坪ばかりの廣さで、庭內一面に翠滴る如き芝生が生繁つてゐる。庭の中央には翠松目も醒むるばかりの色を呈し、其の蔭にはやさしき紅薔薇の一輪二輪が咲き亂れて紅一點のあえかさを添へてゐる。一つ二つの石塔は松の木かげに物思はしげに立てゐる風趣は靜閑と謂はうか妙趣と云はうか、誠にすがすがしく心ゆくながめである。尙庭の後方には園藝の畑があつて、虞美人草、なでしこ、金蓮花、ばら、百合其他西洋の草花がいと誇り顏に咲き亂れてゐる。

▲庭の左方には瀟洒たる茶室が立てられてある、此處で令孃方は時々點茶を催し、友人親戚を集めては一日の興をたのしみに日を送ることになつてゐる。

衆議院無限軌道の効力を確認す

一記者

衆議院の實驗は『レコード』破り

十有六年の苦心を經て遂に世界的大發明特許無限軌道を完成した東京市芝區白金三光町八十八番地高松梅治氏は去る八日午前十時衆議院玄關廣庭に於て其の發明に係る無限軌道を普通車との効力の比較實驗を行つて大成功を見たのであるが、元來此種實驗の出願は是迄も屢々あつたけれども、一度之れを許せば、同樣の出願續出して際限なく、帝國の立法府を一種の興行場と化するの虞あり、隨つて此種の實驗は從來嚴禁し來つたにも不拘ず、今回の臨時議會に於て內閣彈劾案が提出され、會期唯一日を餘す逼迫の際に、而も從來の慣例を破り議員側が主催となつて、衆議院公報に數回之れを廣告し、院內及び正門の出入を高松氏に許し、無限軌道の實驗を爲したのは大いに注目すべきことで、畢竟此の發明が公益及び私益上に多大の影響あることを認められたためである。我國現在の車輛三百萬輛の一ケ年使用日數を假りに百五十日とし、一日一人の賃金を七十錢とし、勞力を半減するを以て、一ケ年に一億五千萬圓餘の金力を節減することが出來る。又各府縣の道路修繕費は平均一縣一ケ年十五萬圓に相當するを以て此の道路修繕費のみにても、五百萬圓以上を節約することが出來る譯である、衆議院が前例に拘泥せず、此の大發明に對して、此の如き同情ある措置に出でたるは發明界の爲めに大いに喜ぶべきことである。

衆議院玄關前に於ける無限軌道實驗

無限軌道の實驗

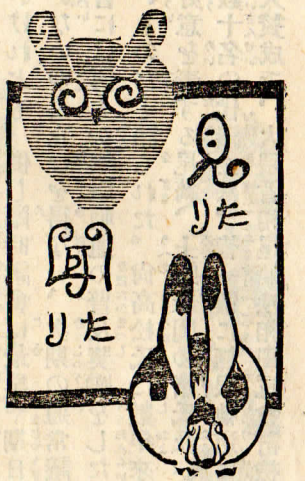
當日の實驗は、島田議長以下貴衆兩院議員陸軍技術審査部、兵器本廠、陸軍省參謀本部等の特科將校並に實業家藤山雷太氏及び石川縣大連等より上京せる特約希望者運送業者數百名立會の上比較實驗を行ひ、或は障害物を乘超え、或は態々手にてレールと車輛との間に無數の

小石を無理やりに入れ、其他諸種の實驗を行つたが、其成績優秀、確かに普通車の二倍以上の効力あることを確かめたので、流石口八丁の代議士連も此の事實を目擊して只其の効力の偉大なるに感嘆するのみであつた。

無限軌道と法律案

島田議長及び上野安太郎渡邊修の諸氏は此の實驗に依りて、無限軌道の世界的大發明なることを賞讚し、痛く發明者の境遇に同情して、深切なる事業の後援者あるならば事業の發展は固より、道路保護の點より見るも國家の利益大なるものがある、第一無限軌道を取附けた車は道路を破壞せぬから車稅を免除してもよいと云ふことを闇々裡に仄めかし、車輛を有する官衙に之を購入せしむる樣にしたいけれども、併し臨時議會は最早や期日がないゆゑ止むを得ない、次期の通常議會には何とか無限軌道の普及獎勵をしたいものだと語られた。尚高松氏に數年來好意を表する尾崎、上野、森岡の諸氏及び數十名の代議士は、皆一樣に無限軌道に大賛成で、大隈首相尾崎法相田尻會計檢査院長清浦子爵を始め實業家側では松方幸次郎門野幾之進藤山雷太の諸氏高松氏の苦心に同情を表しつゝあるとの事であるから無限軌道に關する法律案の提出も實現せらるべく、其の發展期して俟べきである。日本は勿論支那北米合衆國等にも無限軌道の運轉せらるゝ時期が早晩來るであらう。無限軌道は今や學者技術家等も其の効力を認めらるゝのみでなく、運送業者の間からも續々注文を受くるに至り、其の注文が二回三回には五臺十臺と其數を增して行くに徵しても知るべきである。日本人に依つて發明せられたる此の偉大なる無限軌道の原理が、獨乙に入りて巨砲の運搬に應用せられ、聯合軍側を驚愕せしめとの報は、發明に境界なしとは言へ、實に邦人の爲めに慚愧に堪へない次第である。今や內地に於ても、王子製糸會社では「グランダー」用ストーン運搬の爲めそれを使用し、大阪府土木課其他有力なる鑛山でも除々其效力を認め、大規模の運搬に供する目的を持つ確實なる注文に接しつゝあるのである。一面我陸軍に於ても各所に於ける比較實驗の効力を認めつゝあるとの事ゆゑ、近き將來に於ては此れを使用することに一定するであらう。

同上發明者高松梅治氏說明（中央島田議長と高松氏）

見たり聞いたり

◎桃介下山京子の支那人顔なるに驚く

福澤の桃さんほど、實業家のうちに變つた艶聞を多く傳へられる者は無く、至つて箸マメのやうに見せかけながら、その實案外締まつてる處のあるのが桃さんの特色だが、手も八丁口も八丁頭も八丁で文章も書けば探訪もやり、女優にもなれば待合の女將にもなり、又義太夫までも呻つて御覽に入れる才女下山京子とも何んだか乙な噂が立つてるので、或る物好き男が其眞僞を桃さんに尋問に及ぶと桃さんの曰くサ『僕だからとて京子に一寸惚れして見ないでも無かつたよ。全く多少の思召があつて食指大に動いたがネ……よーく、京子の顔を見て居ると、そんなに騒ぐほどの美人で無いよ。眼のあたりがイヤにボンヤリして、頬の膨れぼつたいところ、……それからあれが柳眉とでも云ふものか知らんが、眉のところがイヤに又三日月さんめいてネ、甚麼しても日本の女だとは思へないネ、あれは支那美人の顔だよ。あゝ京子は支那の女に似て居ると思つたらネ、一寸惚れの戀は直ぐ醒めてしまつて、直に退却したよ。京子との戀物語まづ以て件の如しだ

これでは「一葉草紙」の材料にもなるまい』と、一寸下顎のところを撫でて見せたので、京子との關係を尋問に及んだ男は一寸手持無沙汰になり『京子が之を聞いたら嘸ぞ悦ぶでせう、例の才女の事とて此頃は女優も亦面白く無くなつたとこぼしてる最中なさうですから、奴さん今度はモデルを志願して、寺崎廣業が羅浮仙でも畫く時に「モデルの御用はムいませんか」など押しかけてゆくかも知れませんよと、挨拶すれば、桃さん輕く笑つて『あの女も浮氣者だからナ――』。

◎肝付中將濾過池をビールの池と誤まる

肝付海軍中將、一日或る會の催しで、東京目黒の大日本麥酒會社の庭園に招かれたが、第一に目の附いたものは、コンクリートでたゝきあげた大きな長方形の池である。併も、それに何か知らぬが液體が溢るゝばかりに、たゝへられてある。曾て水路部長の重職を帯びたことのある中將とて、某しの沖合何千何百何十何海浬、何々の方面に當り、何といふ面積のしか〳〵の島があるところまで悉細チャンと暗記して覺えては居るが、麥酒の釀造法は頓と心得て居られぬので、その大きなコンクリートの池にたゝへられてある液體こそ必定ビールであるに相違なく、ビールの釀造したものは、一旦この大きな池に貯藏して置いて、それから壜詰にするものなるべく『これこそビールの池だらう』と考へたものだ。然し、麥酒の貯藏池にしては、雨や塵を防ぐ掩蓋の無いのが變だ、と之をビール會社の社員に訊せば、豈に計らんやビールの池と思ひしは全くの誤まり、目黒は市外で水道が通はぬために、麥酒釀造用の水は一旦この池に溜めてから濾過し、麥酒を貯藏する爲めには、他に堂々たる大きな冷藏倉庫があり、その大きな池は用水の濾過池であると解り『なるほど！什麼もビールの池にしては、初めから少し變だと思つたテ！』

◎長嶋隆二透視法の達人たるに至る

長嶋隆二、大隈内閣反對の旗幟を飜して同志會脱會以來、不思議や急に透視法の達人となるに至れりと聞き、或人『地下の桂公爵がニコ〳〵して居る顔でも見へるのか』と、からかへば『否や〳〵。人間といふものは一心になれば實に妙なもので、何んでも透視が能きるやうになるものです。私は別に今度の對支交渉顛末を、強ひて探して尋ね廻つてるのでも何でも無いが、たゞ此の事に心を注いでるので、自分が之れに關係してるんでも無いのに、詳細の事情が、手に取るやうにチャンと解ります。外務省の椅子に坐つて、一々經過の報告を電報で受取つてたのと毫も異りません。そんなら、それを其筋の人々から秘密に漏らしてでももらつてるか、といふに斷じて爾んな事はありません。たゞ、不思議に頭に映つて來て、何日の何時に何んな電報が外務省に來たといふことまでも明かに知れます』と、一日これを或る處で透視法の文學博士福來友吉に談ずれば、專門家の博士も流石之には卽座の説明を與へるわけにゆかず『なるほど！さう云ふ事もあるか知れません』とケゲンな顔。

◎長瀬鳳輔獨逸でマツサーヂの語源を知る

陸軍大學教授長瀬鳳輔の父は、日本で始めて洋式のマッサーヂを傳へた人であるが、鳳輔の獨逸に留學するや、序を以て彼國に於けるマッサーヂの歴史やら方式やらを精細に取調べて歸つて呉れとの旨を鳳輔に依囑したので、鳳輔、父命を奉じ、勉學の餘暇を以て之を獨逸のマッサーヂ專門家に就て問ひ訊してみると、該專門家曰く『マッサーヂのことならば歐洲の者よりも、日本人の方々が詳しく知つて居られる筈です、マッサーヂは東洋から西洋に渡つて來たものですから』との答えに、鳳輔之を異み、段々訊いて見ると、如何にも獨逸のマッサーヂ專門家が斯く答へるのも當然で、マッサーヂなる言葉の語源は、日本語の『摩擦』の轉じて訛つたものと知れ『燈臺下暗しとは是れのことだ』と驚き、歸朝後委細を父に復命したが、マッサーヂは日本の按摩が西洋に傳へられ、科學と器械との力で變化したものであるのを明かにする事が能きたとて、意外の學問をしたのを悦んでるとやら。

◎朝吹常吉臨時受付掛りを拝命す

三越呉服店は六月一日から三日間、光琳二百年忌紀念遺品展覧會を舊館の一部に開いた。流石三越の主催だけあつて富豪名流の所藏の珍品が集まつたが拝借の珍寶といふので、無作法な連中を敬遠する意味もあり、特に案内狀を發し、それを持參しない人は遠慮無く謝絶する事にした。かるが故に、忠實なる受付は入場券の無い三井八郎次郎男、佐々木信綱、さては出品者瓜生震まで膠も無く入場を第一日に謝絶したので、コレは大變！が幹部に持ち上り、翌日からは常務朝吹常吉、秘書役笠原健一、臨時受付掛りとなつて會場入口に鞠躬如たり。

新刊紹介

◎大正雄辯集（大日本雄辯會編）　明治より大正に亙り諸名士の雄辯の速記を蒐錄せるもので、尾崎行雄氏の「桂首相年の罪を問ふ」村田保翁の「山本首相に辭職を勸告す」などは當時の議政壇上の騷動を憶はせ、一種特別の興味がある。（定價壹圓貳拾錢、本郷區駒込坂下大日本雄辯會發行）

◎小說毒藥（松本靑峯著）　本書は中京方面で大分問題になつてゐる小說である。作者は元名古屋扶桑新聞記者、奇しき戀の變轉極りない葛藤を書き綴つたもので、主人公の一人が本誌の靑柳有美氏であるなどは面白い、藝術としての價値は暫く措き、面白く讀むと云ふ點に於ては近來一寸稀なものである。（定價九拾五錢、本郷四丁目牧民社發行）

◎僕の旅（巖谷小波著）　輕妙洒脫に獨特の滑稽味を帶びた著者一流の筆致で旅の感想を書き綴つたものである。第一「行李の塵」に初つて「平戸紀行」、「道草日記」、「東西の御苑」、「紅葉の岩越線」、「東山から」、「若松から」、「紀州ネルの出來る所」に至る迄を全卷二十一編、一として面白からざるものはない、裝釘情趣銷夏の徒然讀みには無二好適の快著である。（定價壹圓、小石川白山御殿町三二抒情詩社發行）

◎藝人名簿（文藝協會編）　苟も藝人と名のつく者は悉く網羅し、一々、本名、生年月日、住所を戸籍臺帳に依つて調べたもの、附錄には東京市内の劇場、活動常設館、寄席等の所在地一覽を添へてある。今の處唯一の藝人名簿は本書である。（定價金六十錢、牛込區神樂坂文藝協會發行）

◎禪の捷徑（原僧運著）　禪に關する書籍も隨分あるが多くは空濶にして捉へ難きところのあるのを例とする。然し、本書は頗る卑近の例や古人の金言等に就き全く禪宗の何ものたるかを知らぬものにも之を了解せしめ得るやう平易に說いてある。演說家や文章家の材料になる如きものが滿載せられてある上に精神修養の助けにもなるのだから、本書の如きは一擧兩得の功德があるものといふべきだらう。（四六版三〇四頁定價一圓、小石川原町丙午出版社發行）

◎獨逸の誇大妄想（エミール・ライヒ著　內田晉庵譯）　墺太利の碩學エミール・ライヒ博士が八年前、獨逸人の心性を歷史的からの研究と、其抱きつゝある大野心とによつて、豫め今日の世界的大禍亂ある事を察知し、歐洲各國に警告を與へた一大快著である。現下の戰亂の依つて來れる所以を知らんとせば本書を一讀するの要があらう。（定價八十錢、日本橋區本町博文館發行）

◎勞働問題と溫情主義（鈴木恒三郎著）　本誌が模範工場の雄として、屢々紹介した日光精銅所に長たりし時、歐米各國の勞働問題及び勞働者待遇法とを具に研究し、我國空前の完全なる職工待遇を用ひ著しき勞働功率を擧げた著者が、在任當時の經驗より得たる職工待遇法を詳述したものである。近來生活の壓迫漸く甚しく殊に勞働者對使用者間に厭はしき問題を惹起する多き今日、如何に、相互の幸福を得、團欒裡に事業の進展を計る可きかは充分の構究を要する問題である、其れに對つて實驗より來た適切な解決の法を敎ふる資格の有る人は刻下著書一人のみと云ふも過言ではあるまい。多數の勞働者を使役しつゝある者の無二の指南である。（定價七拾錢、京橋區築地二ノ三十六用力社發行）

◎此一戰（水野廣德著）　日露戰爭が讀書界に覇したる日本海々戰記で當時、彼の肉彈と共に並び稱せられたものである。今度、瀟洒たるポケット入形に縮刷されて價も低廉になつた。（定價六十錢、日本橋本町博文館發行）

日本一の『實業之世界』定價表（每月二回）（新年號五月一日號及十月一日號は二倍號に付一部金二十二錢郵稅三錢）

	冊數	定價	郵稅	合計
內地定價	一冊	拾壹錢	壹錢五厘	拾貳錢五厘
	半年分	壹圓四拾七錢	廿壹錢	壹圓六拾八錢
	一年分	貳圓七拾錢	四拾錢五厘	參圓拾錢
外國行	一冊	拾壹錢	六錢	拾七錢
	半年分	壹圓四拾七錢	八拾四錢	貳圓三拾一錢
	一年分	貳圓七拾錢	一圓六拾錢	四圓三拾二錢

內地：■但し二倍號二回分を見積りたる金額に付■一回分の節は郵稅共金壹圓五拾五錢

外國行：■但し二倍號二回分を見積りたる金額に付■一回分の節は郵稅共金貳圓拾四錢

注意

●御註文は總て前金の事前金盡くればハガキを以て御通知可致候送金無き時は發送を停止す●御送金は振替貯金に依らるゝ方最も御便利也●郵券代用にて本社へ直接御註文の節は一錢又は三錢切手にて一割增の事

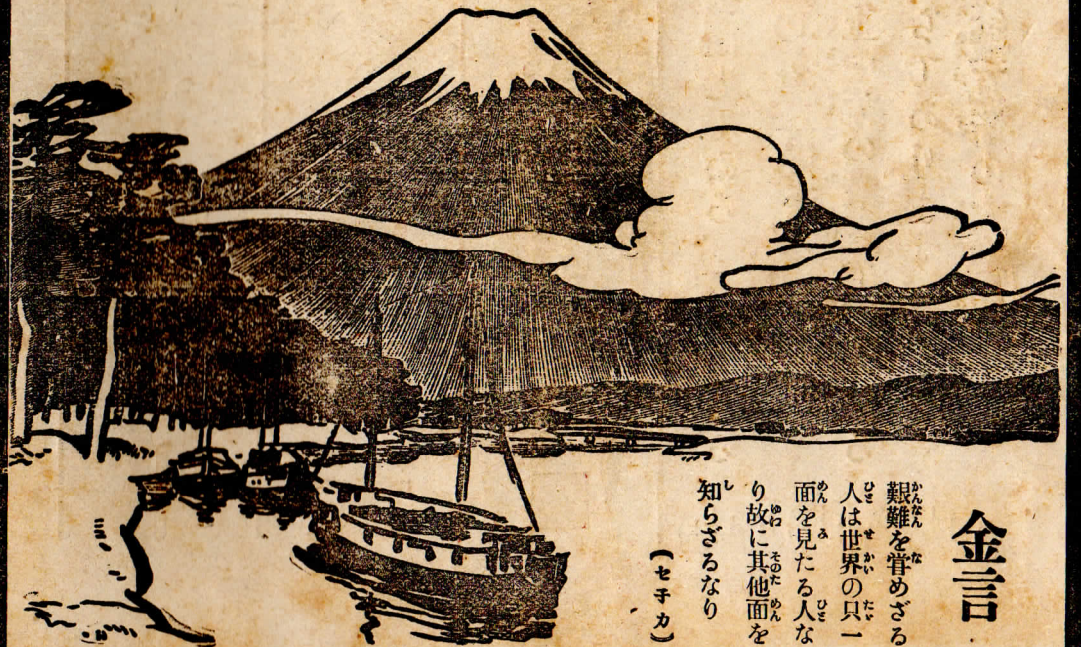
大正四年六月十二日印刷納本
大正四年六月十五日發行

東京市麴町區有樂町一丁目四番地
發行兼編輯人　靑柳猛

東京市麴町區有樂町一丁目四番地
印刷者　安成二郎

東京市本所區番場町四番地
印刷所　凸版印刷株式會社分工場

東京市麴町區有樂町一丁目四番地
發行所　實業之世界社
（振替貯金口座東京三四三三番）
電話本局（四五一五番（編輯用）四五一六番（事務用））

大正四年六月十五日發行（第十二卷第十二號）

（明治三十八年十一月二十九日第三種郵便物認可
大正四年六月十二日納本濟）

（本號一部　定價金拾壹錢）